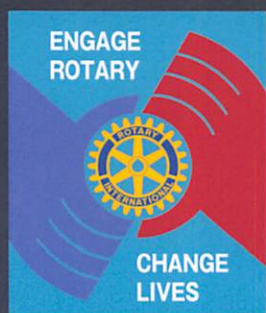




国際ロータリー第2510地区
2013-2014年度

地区大会記録誌



ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を

2013年10月

19日  シェラトンホテル札幌

20日  江別市民会館・江別市民体育館

ホストクラブ：江別ロータリークラブ

コ・ホストクラブ：江別西ロータリークラブ





ROTARY INTERNATIONAL



ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES



羽
磯

留
萌

妹
背
牛

滝
川

芦
別

江
差
ロータリークラブ

江
差
ロータリークラブ

江
差
ロータリークラブ

江
差
ロータリークラブ

江
差
ロータリークラブ

余
市
ロータリークラブ

余
市
ロータリークラブ

余
市
ロータリークラブ

余
市
ロータリークラブ

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会

小樽
義
勇
会



2013～2014国際ロータリー 第2510地区

地区大会 記録誌

地区大会プログラム

■国際ロータリー会長メッセージ…………… 4	
2013～2014年度国際ロータリー会長 ロンドン・バートン	
■国際ロータリー会長代理メッセージ…………… 5	
2013～2014年度国際ロータリー会長代理 高 成大	
■国際ロータリー第2510地区ガバナー挨拶…………… 7	
国際ロータリー第2510地区ガバナー 安孫子 建雄	
■国際ロータリー第3700地区総裁メッセージ…………… 8	
国際ロータリー第3700地区総裁 李 華榮	
■北海道知事祝辞…………… 10	
北海道知事 高橋 はるみ	
■江別市長祝辞…………… 11	
江別市長 三好 昇	
■ホストクラブ会長歓迎挨拶…………… 12	
江別ロータリークラブ会長 金田 一夫	
■地区大会実行委員長歓迎挨拶…………… 13	
大会実行委員長 郷 和平	

10月19日(土)

■会長・幹事会プログラム…………… 16	
RI会長代理・ご来賓・役員の紹介…………… 18	
国際ロータリー第2510地区ガバナー 安孫子 建雄	
ガバナー挨拶…………… 19	
国際ロータリー第2510地区ガバナー 安孫子 建雄	
国際ロータリー会長代理挨拶…………… 20	
国際ロータリー会長代理 高 成大	
大会運営について…………… 21	
大会実行委員長 郷 和平	
■地区指導者育成セミナー……………	
ガバナー挨拶…………… 22	
国際ロータリー第2510地区ガバナー 安孫子 建雄	
講師紹介…………… 23	
パスト・ガバナー 酒井 正人	
基調講演「公共イメージと認知度の向上」… 24	
ロータリーの友編集長 二神 典子	
■フォーラム…………… 36	
「なぜ、今、公共イメージの向上が必要なのか」	
コーディネーター パスト・ガバナー 酒井 正人	
アドバイザー ロータリーの友編集長 二神 典子	
ガバナー謝辞…………… 56	
国際ロータリー第2510地区ガバナー 安孫子 建雄	

10月20日(日)

■本会議

歓迎の言葉 59

ホストクラブ会長 金田 一夫

ガバナー挨拶 60

国際ロータリー第2510地区ガバナー 安孫子 建雄

R I 会長代理挨拶及びR I 現況報告 62

国際ロータリー会長代理 高 成大

国際ロータリー第3700地区総裁挨拶 64

国際ロータリー第3700地区総裁 李 華榮

来賓祝辞 65

北海道知事 高橋 はるみ

来賓祝辞 67

江別市長 三好 昇

特別参加者紹介 69

参加クラブ紹介 72

地区現況報告 80

国際ロータリー第2510地区ガバナー 安孫子 建雄

大会決議案上程審議 82

大会決議委員長 佐々木 正丞

大会決議案上程承認 84

国際ロータリー第2510地区ガバナー 安孫子 建雄

2012-2013年度決算報告 85

前年度地区財務委員長 蚊野 好美

2012-2013年度決算監査報告 86

パスト・ガバナー 熊澤 隆樹

大会登録委員会報告 (大会信任状委員会報告を含む) 87

大会登録委員長 細川 好弘

大会選挙管理委員会報告 88

大会選挙管理委員長 渡邊 恭久

■記念講演

「お金の世界」から「いのちの世界へ」 89

福島県飯舘村村長 菅野 典雄

謝 辞 105

国際ロータリー第2510地区ガバナー 安孫子 建雄

ガバナー・エレクト紹介 106

国際ロータリー第2510地区ガバナー 安孫子 建雄

ガバナー・エレクト挨拶 107

ガバナー・エレクト 羽部 大仁

ガバナー・ノミニー紹介 109

国際ロータリー第2510地区ガバナー 安孫子 建雄

ガバナー・ノミニー挨拶 110

ガバナー・ノミニー 嵯峨 義輝

次期ホストクラブ紹介 111

国際ロータリー第2510地区ガバナー 安孫子 建雄

次期ホストクラブ挨拶 112

札幌視南ロータリークラブ会長 深貝 亨

R I 会長代理所感 113

国際ロータリー会長代理 高 成大

お礼の言葉 114

国際ロータリー第2510地区ガバナー 安孫子 建雄

閉会の言葉 115

大会実行副委員長 佐々木 光治

■R I 会長代理歓迎晩餐会 116

■記念懇親会 122

記録・資料編

■物故会員ご尊名 134

■表 彰 135

■ご来賓ご芳名 140

■地区大会特別参加者名簿 141

■地区大会記念囲碁大会 142

■地区大会記念ゴルフ大会 144

■エクスカッション・スパウスプログラム 150

■新世代フォーラム 152

■地区大会登録者名簿 158

■地区資金収支決算書 (2012-2013年度) 166

■地区年次大会収支決算書 (2012-2013年度) 171

■地区大会運営委員会 172

■地区大会実行委員会 173

■編集後記 174



2013 - 14 年度国際ロータリー会長

ロン D. バートン

ロータリアンならびにご来賓の皆さまへ

この度は、2013-14 年度地区大会にご出席いただき、妻のジェタ共々、心よりお礼申し上げます。

私どもは、これまで多くの地区大会に参加させていただき、ぜひ本大会にも出席させていただきたいと考えておりました。しかし、スケジュールの調整が付かず、誠に残念ながら、それはできません。

皆さまにおかれましては、本大会でロータリーに関する知識と親睦を深めると共に、活動意欲をかきたて、全体として実り多いプログラムを楽しんでいただけると確信しております。

RI 会長代理も含めた講演者に耳を傾け、大会でのさまざまな行事や活動にご参加になるに当たっては、ロータリアンであること、ロータリー・ファミリーの一員であることの恩恵と機会を再確認し、それをぜひ、ロータリアンでない方々に伝えていただきたいと思います。このような努力は、ロータリーの会員増強のカギとなると考えます。

ロータリーは人々に知られない状態があまりにも長く続きましたが、もっと多くの人々に、ロータリーの会員が享受できる素晴らしい機会につい

て教えてあげましょう。まず、ご友人にこの大会での経験や、クラブや地区が行っている活動を紹介してください。そして、例会や特別行事に招いてあげてください。これらは皆、「**ロータリーを
実践し みんなに豊かな人生を**」もたらす素晴らしい方法です。

ロータリーは、深く実践すればするほど、そこから得るものが多くなります。ロータリーを実践していくに連れ、人生が、特に自分の人生がより豊かに変わっていくのを、私自身も経験しております。

本年度、ロータリーという素晴らしい機会についてより多くの方々に知っていただくようご尽力いただくとともに、あらゆるかたちでロータリーを実践していただくよう、お願い申し上げます。

A stylized, handwritten signature in dark ink, appearing to read "Ron D. Burton".

ロン D. バートン

国際ロータリー会長代理メッセージ



2013 - 14 年度国際ロータリー会長代理

高 成大

国際ロータリー第2510地区の皆様へ

尊敬する国際ロータリー第2510地区安孫子建雄ガバナーをはじめ、パストガバナー、地区役員、及び各クラブ会長、そしてロータリアンの皆様、こんにちは。

2013-14年度、貴地区の地区大会に国際ロータリー会長ロン D. パートン会長の代理として参加させていただき、大変光栄なことで嬉しく存じます。

北海道は世界自然遺産の知床を始めとする豊かな自然環境と文化を兼ね備えており、2008年度にはG8サミットの開催地として世界的に高い評価をえています。このような北海道を訪問できたことは個人的にも幸運なことです。

そして、地区大会は皆様すべてが尊い奉仕を成し遂げたという共感帯の形成であり、後日、我々の素敵な思い出になりますように楽しい地区大会を迎えることができることを希望いたします。

2013-14年度国際ロータリー会長ロン D. パートン会長のテーマは「ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を」です。

ロータリアンが真心で全力をつくし、ロータリーの奉仕精神とその価値を日常で実践できれば、目覚ましい変化を始める自身を発見できる、また、ロータリアンの積極的な奉仕への参加と関与をととして人生が変わってくるということです。

ロータリーの指導者の皆様、

今日、ここにご臨席していただいたロータリアンの皆様は崇高なロータリー奉仕の理念を実現すべき責任と義務をもってこの場にお集まりになりました。

未来のビジョンのための最も重要な皆様の役割は

1. ロータリアンたちにインスピレーションを与え、
2. 彼らが参加できるように導くこと、
3. 世界を変える肯定的な力になる機会を与えることです。

ですので、ロータリー奉仕活動に目を覚まし、心を開き、最大限に働きかけ、人生の変化を追求することが、そのテーマを達成することです。

今日、我々ロータリーの基礎的な核心価値は変わっていません。奉仕と親交、多様性、正直さ、リーダーシップを基盤としており、それは国際ロータリーの戦略計画の礎石として、会員の皆様が心に刻むべき絶対的な価値です。このような核心価値を我々ロータリアンが規定し、このような価値を地区大会で達成するために努力するべきです。

国際ロータリーは長期的なビジョンの目的をもち、絶えず戦略計画を発展させながら三大優先項目を実践しています。

1. クラブ支援強化（効率的なクラブ）
2. 人道主義的奉仕の集中的な拡大（六大重点分野）
3. 公共イメージの強化及び認識拡大などの優先順位はクラブと奉仕、公共イメージなどに焦点をあてることにより、ロータリーの本質と活動内容を明確にすることが可能です。

ロータリー指導者の皆様、

未来のロータリークラブの成功条件を申しますと、

1. ロータリーの未来は生活力が強く、活力にあふれる

クラブにあります。すなわち、効率的なロータリークラブの基本構成が問題です。

2. 我々の核心価値五つなどを実践し、地域社会へロータリーを知らせるべきです。
3. 会員たちと彼らが属した地域へ奉仕することで、会員増強と財団寄付を増強させロータリーを成功に導くべきです。

最後に会員増強と財団寄付について申さざるをえません。

1. 会員増強に関しては、

- 1) 国際ロータリーの会員数は世界的に減少傾向にあります。新入会員を迎えたものの、加入期間が短いまま脱退する問題に関して、その会員に対する原因分析と対策をたて、会員増強に拍車をかけ、2015年度にはロータリー会員数 130 万人の目標を達成することが国際ロータリーの目標であることを認識した上で、皆様の積極的な努力を期待するところです。
- 2) 1989 年、シンガポールで開催された規定審議会で、女性の入会が認められるようになりましたが、その比率はまだ少ないのです。これからもロータリーの女性会員や若い会員増強の努力を続けてください。

2. 財団寄与に関しては、

- 1) 無寄付クラブの解消です。ロータリアンの財団寄付の中で年次プログラム基金への寄付 EREY(Every Rotarian, Every Year 毎年あなたも 100 ドルを)は義務であるため、各クラブの全会員が寄付を行うように求めましょう。
- 2) ポリオ撲滅活動は今、最終段階にきています。ポリオのない世界を実現するまで、財団寄付によるご支援を求められます。

我々ロータリーの変化の追求のために、継続的な分かち合いの実現を怠ることなく、超我の奉仕を実践することで、ロータリーへの参加をとおして人生の変化を迎えましょう。

貴地区のご発展と、皆様方のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

ロータリアンの皆様、ご清聴ありがとうございました。

プロフィール



✦ 氏 名：高 成 大 (Sung-dae Ko)

Governor 2012-13, District 3650 RI

✦ 生年月日：1936 年 12 月 7 日生

✦ 学 歴：ソウル 東國大學校

法政大學 法學科 卒業

✦ 職 歴：

1979 年 株式會社 高盛開發 設立 代表理事

1985 年 株式會社 高盛貿易 設立 代表理事

1986 年 株式會社 高盛電子 設立 代表理事

2013 年 現在 株式會社 高盛開發 會長

✦ ロータリー歴

1994 年 ソウル 漢陽ロータリークラブ 入會

2004 年 同 漢陽ロータリークラブ 會長

2005～6 D3650 地區 總裁地域代表

2006～7 同 地區 財政委員長

2007～8 同 地區 總裁地域代表

2008～9 同 地區 總裁地域代表

2009～10 D3650 地區 總裁指名（地區財政

委員）

2010～11 同 地區 RI Program 委員長

2011～12 D3650 地區

次期總裁（地區大會委員長）

2012～13 D3650 地區 總裁

✦ RI 財團寄附

2004 年 Arch C. Klumph Society 會員

US 250,000 ドル RI 財團 寄附

2008 年 Bequest Society（遺贈）會員

US 500,000 ドル

2013 年 Benefactor 計

US 356,000 ドル財團 寄附

国際ロータリー第 2510 地区ガバナー挨拶



国際ロータリー第 2510 地区ガバナー

安孫子 建雄

クラブの再生 ロータリーの再生 地域の再生 そして 人々の絆

国際ロータリー第 2510 地区 2013-14 年度の地区大会を皆様とともに開催できますことに心からの感謝を申し上げます。

今大会にはロン D. バートン RI 会長の代理として韓国より第 3650 地区 2012-13 年度ガバナー高成大 (Sung-dae) (ソウル漢陽ロータリークラブ) 氏のご臨席を賜りました。

ご来賓として、北海道知事高橋はるみ様、江別市長三好昇様、当地区と姉妹地区であります韓国第 3700 地区ガバナー李華榮 (Hwa young Lee) 様ご夫妻はじめ多くの方々にご臨席を戴きました。そして地区内外からガバナー、パストガバナー、ロータリアン、新世代の皆様、多数の登録を戴いたことに感謝し心から御歓迎申し上げます。

私達は毎年地区大会で一同に集まり親睦と交流を重ね、友情を深めてきました。

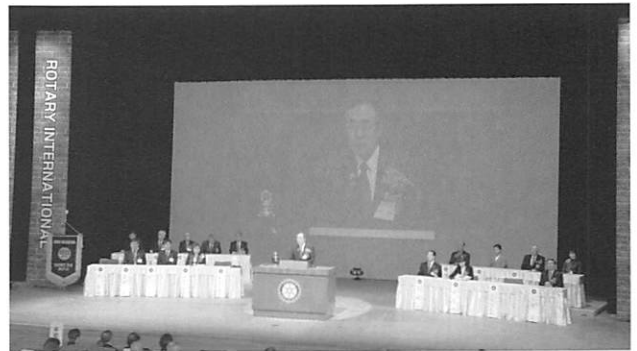
北は羽幌クラブ、南は松前クラブ、東はえりもクラブそして西は岩内クラブと広大な北海道西部第 2510 地区は 71 クラブ、2,539 名の会員を擁しております。

1905 年シカゴに誕生したロータリークラブは現在世界で 200 以上の国と地域、34,462 クラブ、1,219 千人の会員を擁する組織に発展しました。

国際ロータリーは奉仕の理想のもと国を超えて集う国際組織になっております。

国際紛争は未だ絶えず、貧困に苦しむ国や地域は数知れずある中で私達ロータリアンは世界の多くの人々に思いを馳せ、その悩みや苦しみを取り除くために奉仕を続けてきました。

そして今私達の国日本は政治経済そして私達の生



活を含め変革する時代に入っています。高齢化はもとより少子時代を迎え社会の構造は変化しています。

ロータリークラブは超我の奉仕のもと私達の住む地域の抱える課題に果敢に挑戦し、会員の生業そして地域の産業を発展させなければなりません。

ロータリークラブは全てのメンバーが交流する機会を提供しています。

私達はメンバーの多様性、クラブの多様性、国や民族の多様性を認め合い、お互いの理解の中から未来への道筋を得ることができます。

地区大会で会員同士の交流や友情が限りなく誕生することを心から念願し、記憶に残る大会を皆さんで作っていただきたいと思いますところがございます。

大会開催をつとめました江別クラブ・江別西クラブの皆さんを始め第 3 グループの各クラブさらに地区内各クラブからの応援を戴き今日を迎える事となりました。

大会後北海道は晩秋から初冬へと向かいます。ご参加頂きましたご来賓はじめ会員の皆様のご健康とご活躍を願いましてご挨拶と致します。

有難き事に深く感謝致します。



国際ロータリー第 3700 地区総裁

李 華榮

国際ロータリー第 2510 地区の皆様へ

秋空は深く澄み渡り、満山紅葉が紅に染める爽やかな季節にロータリーの造詣が深いリーダーがたくさんいらっしゃる第 2510 地区大会にお招き頂き、誠にありがとうございます。国際ロータリーロン D. バートン RI 会長の代理としてご臨席賜りました高成大国際ロータリー会長代理と安孫子建雄ガバナーご夫妻、郷和平大会実行委員長を始め、多くのロータリアンとご家族の皆様にお会いできてうれしい限りであり、光栄に存じます。

韓国大邱の第 3700 地区の全会員を代表して貴地区大会が江別市で盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

2004 年 10 月 17 日、両地区が姉妹提携を結んでから最早 10 年になります。地区大会が良い機会になり、相互親善訪問を通じてその交流が繰り返されることで両地区の友愛と会員間の絆がますます堅固な基盤を構築して来ています。

今年 4 月 26 日に開催されました国際ロータ

リー第 3700 地区大会にも当時の細川好弘ガバナーご夫妻、安孫子建雄ガバナーエレクトご夫妻、羽部大仁ガバナーノミニ、酒井正人パストガバナーご夫妻、不動信之地区幹事を始め現・次期地区役員と家族を含む 26 名に参加して頂き、国際色豊かな大会になりましたことを今でも心より厚く感謝しております。このようにロータリーの友情を深めることが日韓両国間の親善と発展に大きく寄与することを確認しております。

ロン D. バートン RI 会長は今年度テーマとして「ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を」提唱しました。我々両地区もこのテーマの主旨に従い、国際奉仕共同推進事業を真心と奉仕精神で進めることで、より深い絆で結ばれると思います。

最後に第 2510 地区の益々のご発展と、会員皆様のご健勝とご多福を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。

国際ロータリー第 3700 地区総裁
プロフィール



✧ 生年月日：1960年 3月15日

✧ 所 属：大邱江北 RC

✧ 職 業：高到超音波、高到テック 代表

✧ 学 歴：

1978 年 釜山鎮高等学校 卒業

1983 年 東義大学校 土木工学科 卒業

✧ 一般経歴：

1983 年～ 1986 年

東義大学校 ROTC 総同窓会 会長

1995 年～現在 高到超音波 代表

2005 年～現在 高到テック 代表

2011 年～現在

大邱広域市北部警察署保安協議会 委員

2012 年～現在

大邱広域市壽城区視覚障害者 後援会長

2012 年～現在 大邱カトリック大学校

最高経営者課程 常任顧問

2012 年～現在

大邱カトリック大学校産学協力 教授

✧ ロータリー経歴：

2004 年 6 月 20 日 大邱江北 RC 入会

2010 年～ 11 年度

大邱江北 RC クラブ会長

2012 年～ 13 年度

国際ロータリー第 3700 地区ガバナー補佐

2012 年 10 月 4 日

国際ロータリー第 3700 地区次期総裁 指名

✧ 財団寄付：

高額寄付者 Level Ⅲ (54,000\$), PHS, BNF

冠名奨学人 (1)

✧ ロータリー受賞：

2011 年 4 月 15 日

総裁特別功労賞 (李相喆総裁)

2013 年 4 月 27 日

ロータリー財団寄与感謝牌 (呂成源総裁)

2013 年 5 月 25 日 功労牌 (呂成源総裁)

✧ 一般受賞：

2012 年 8 月 13 日

大邱カトリック大学総長 功労賞

2012 年 8 月 16 日

大邱広域市視覚障害者連合会

壽城区支部長 感謝牌

2012 年 12 月 27 日

大邱広域市 市長 表彰

2013 年 2 月 28 日

大邱広域市 壽城区庁長 表彰



北海道知事

高橋 はるみ

お祝いのことば

「2013-2014 年度国際ロータリー第 2510 地区地区大会」が、豊かな自然と文化に恵まれた江別市において、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

安孫子ガバナーをはじめ会員の皆様におかれましては、日ごろから、国際奉仕活動、青少年の健全育成など、幅広い奉仕活動に献身的に取り組まれ、地域の発展に多大なご貢献をいただいておりますことに、深く敬意を表します。

さて、現在、人口減少や急速な高齢化の進行など、社会が大きく変化する中で、国を挙げて東日本大震災の復興に取り組むことで、助け合いや支え合いといった人と人のつながりの大切さが、改めて認識されています。

また、福祉や環境、まちづくりといった様々な分野で、地域の課題解決や魅力向上に向けた活動が広がりをみせており、お互いを思いやり助け合う活動は、今後ますます重要になっていくものと思います。

そして、地域のリーダー役を担っておられるロータリークラブの会員の皆さまに寄せられる期待と信頼はますます大きくなっています。

道といたしましても、活力あふれる、心豊かな地域社会を築いていくために、市民活動の促進をはじめ、様々な取組を進めてまいりたいと考えています。

国際ロータリー第 2510 地区の皆様におかれましては、この地区大会を契機として、改めて会員の皆様の絆を深め、これまで長年受け継いでこられた、貴い奉仕の精神を大切にされ、一層のご活躍をご期待申し上げますとともに、今後とも、地域の個性が輝く元気な北海道づくりに向けて、引き続きお力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。

終わりに、本大会のご盛会と各クラブのご発展、会員の皆様のますますのご健勝を心からお祈り申し上げます、お祝いのことばといたします。

江別市長祝辞



江別市長

三好 昇

国際ロータリー第 2510 地区 2013-2014 年度地区大会が、多くの皆様方のご参加により、江別市において盛大に開催されますこととお喜び申し上げますとともに、市民を代表して皆様の心から歓迎申し上げます。

ロータリークラブの皆様におかれましては、日頃から国際親善活動や青少年の健全育成、環境保全活動など、幅広い分野において様々な奉仕活動にご尽力いただいておりますことに、深く敬意を表します。

ここ江別市は、石狩平野の中央部に位置し、「石狩川」や「千歳川」をはじめとした大小多数の河川と、約 2,053ha の広さを誇る「道立野幌森林公園」に囲まれた、緑豊かな自然を有する街です。古くから「レンガのまち」としても知られており、市内各所にレンガを使った建築物も多く建てられ、自然と調和し美しい景観を生んでおります。

近年では、「麦の里えべつ」をキャッチフレーズに、生産者、製粉・製麺会社、大学などがそれぞれの技術や特徴を活用して互いに連携し、地場産小麦の「ハルユタカ」を使用して作られた「江別小麦めん」は、江別を代表する特産品のひとつとして、全国に発信しているところです。

さて東日本大震災以降、「防災」や「減災」な

ど災害に対する国民の意識が大きく変わりました。

当市においても、住民参加型の防災訓練や各種イベントにおける防災啓発活動を実施するなど、安心・安全な街づくりに力を注いでいるところであります。

また、現在多くの市町村では、少子高齢化による本格的な人口減少社会が到来し、われわれ行政のみならず企業や地域住民のパートナーシップのもと、協働により地域の特性を活かした街づくりを推進することが求められております。

こうした中、今後街づくりを進めていくためには、行政はもとより、「奉仕の理想」の理念のもと、これまでも地域に密着し活躍してこられましたロータリークラブの皆様の献身的で創造的な活動が大きな原動力となるものと考えておりますので、今後とも地域社会の発展のために格別のお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、本大会のご盛会とロータリークラブの益々のご発展、会員の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げまして、お祝いと歓迎のことばといたします。



江別ロータリークラブ会長

金田 一夫

歓迎の挨拶

2013-2014 年度国際ロータリー第 2510 地区の地区大会開催にあたり、ホストクラブを代表いたしまして一言ご挨拶申し上げます。

当地江別は、雄大な石狩川下流域と世界的にも珍しい都市近郊に広がる野幌森林公園を有する自然豊かな街であり、尚かつ、札幌市に近接するベッドタウンとして発展してきている街であります。

本日は、各界から多くの来賓の方々のご臨席を賜り、また遠く姉妹地区であります韓国第 3700 地区からは多くの皆様をお招きし、また地区内外からは大勢のロータリアンの皆様にご参加頂き、この地におきまして盛大に本大会が開催できますことに対し、皆様方のご厚情と友情に厚くお礼申し上げます。

今回の開催に当たりましては、地区内特に第 3 グループ各クラブのご支援を頂きながら前回まで開催されたクラブからご教示賜り、手探りで準備をして参りました。

しかしながら、会場の移動で参加者の皆様にはご不便をお掛けするなど、諸般に渡って至らぬ所、ご不便をお掛けすると存じますが「ロータリーの友情と寛容」に免じてご理解ご容赦頂きますようお願い申し上げます。

最後に、RI テーマ「ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を」が当大会において大いに語られロータリアンの明日からの力として、ご参加頂いた各クラブの隆盛と会員皆様のご健勝に資することを祈念申し上げ、簡単粗辞ではございますが歓迎の挨拶とさせていただきます。

地区大会実行委員長歓迎挨拶



大会実行委員長

郷 和平

歓迎の挨拶

国際ロータリー第 2510 地区 2013-2014 年度地区大会開催にあたり歓迎のご挨拶を申し上げます。

本大会には高成大国際ロータリー会長代理をお迎えし、またご来賓として、ご公務多忙のところ、高橋はるみ北海道知事、三好昇江別市長のご来駕を仰ぎ、さらには大韓民国第 3700 地区から李華榮総裁をはじめ多くのロータリアンのご出席を頂き大会実行委員長として厚くお礼を申し上げます。

地区内外からは、第 2500 地区葭本正美ガバナーご夫妻、第 2520 地区松良千廣ガバナー、第 2800 地区新関彌一郎ガバナーご夫妻、第 2530 地区佐原 元パストガバナー、第 2530 地区安藤元二新世代委員長、多数のパスト・ガバナーのほか、インターアクター、ローターアクター、交換留学生、米山奨学生に加え会員ならびにご家族を含め総勢 1,600 余名のご参加を賜り、心より歓迎申し上げます。

さて、今大会のホストクラブ役を担う事になった江別ロータリークラブは 1962 年に札幌南ロータリークラブにスポンサーになって頂き、創立し今年で 51 年目を迎え、安孫子建雄ガバナーのもと初めて地区大会のホストとして皆様を歓迎すべ

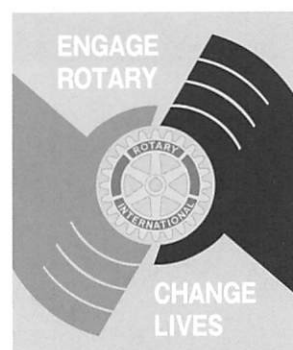
く準備を進めてまいりました。

記念囲碁大会、記念ゴルフ大会では親睦と友愛の場を提供し、スパウспrogram、青少年プログラムなどを併催し、地区指導者育成セミナーでは、ロータリーの友編集長、二神典子氏に「公共イメージと認知度の向上」と題して基調講演をお願いし、本会議では菅野典雄氏を招聘して『お金の世界』から『命の世界』へと題する記念講演をお願いしました。

また懇親会には、アトラクションとしてジャズやソウルなど様々なジャンルを歌いこなす歌手 M i c h i さんを招き出席の皆様と江別の食材を使った料理、お酒などをご賞味頂き楽しいひと時を過ごしていただきたいと思います。

江別市内の会館施設、宿泊施設等の諸事情から会場、移動などご不便をおかけすることとなりますが、何卒寛容なお気持ちを頂戴出来ましたら幸いです。

広大な石狩平野の中心にある、食の集積都市江別に於きまして 2 日間を通してロータリアン、そして関係者の皆様との友情が深まり有意義な大会になることを祈念申し上げ、歓迎のご挨拶いたします。



ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

2013年10月19日(土)

第1日目 プログラム

会場 シェラトンホテル札幌



●会長・幹事会

開会のあいさつ

ガバナー挨拶

国際ロータリー会長代理挨拶

大会運営について

●地区指導者育成セミナー

●フォーラム

●RI会長代理歓迎晩餐会

会長・幹事会

於：シェラトンホテル札幌

3F パレスボールルーム

司会：地区代表幹事 八島 壯之

12:00 登録受付開始

13:00 点 鐘 ガバナー 安孫子建雄

国歌斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」

ソングリーダー 増山 柳

RI 会長代理・ご来賓・役員の紹介

ガバナー 安孫子建雄

開会の挨拶

大会実行委員長 郷 和平

ガバナー挨拶

ガバナー 安孫子建雄

13:20 RI 会長代理ご挨拶

RI 会長代理 高 成大

13:35 協 議

大会決議案上程審議

大会決議委員長 佐々木正丞

大会決議案上程承認

ガバナー 安孫子建雄

13:40 大会運営について

大会実行委員長 郷 和平

13:45 2012-2013 年度決算報告

前年度地区財務委員長 蚊野 好美

2012-2013 年度決算監査報告

パスト・ガバナー 熊澤 隆樹

13:50 大会運営委員会報告

大会登録委員会報告

大会登録委員長 細川 好弘

大会信任状委員会報告

大会信任状委員長 熊澤 隆樹

大会選挙管理委員会報告

大会選挙管理委員長 渡邊 恭久

14:00 点 鐘 ガバナー 安孫子建雄

諸事お知らせ

大会 SAA 武田孝代司

休 憩

地区指導者育成セミナー

於：シェラトンホテル札幌
2F パステル

司会：地区代表幹事 八島 壯之

14:00 登録受付開始

14:20 点 鐘 ガバナー 安孫子建雄
ガバナー挨拶

ガバナー 安孫子建雄

14:25 講師紹介

パスト・ガバナー 酒井 正人

14:30 基調講演

「公共イメージと認知度の向上」

ロータリーの友 編集長 二神 典子

15:35 フォーラム

「なぜ、今、公共イメージの向上が必要なのか」

コーディネーター

パスト・ガバナー 酒井 正人

アドバイザー

ロータリーの友 編集長 二神 典子

パネリスト

地区広報・IC 委員長 堀江 和美

地区国際奉仕委員長 松原 重俊

地区クラブ奉仕委員長 宮部 光幸

地区ロータリー財団委員 出村知佳子

16:50 謝 辞 ガバナー 安孫子建雄

17:00 点 鐘 ガバナー 安孫子建雄
諸事お知らせ

大会 SAA 武田 孝代司

RI 会長代理歓迎晩餐会

於：シェラトンホテル札幌
3F パレスボールルーム

司会：宮田 圭子

17:00 登録受付開始

17:40 開 会

国歌斉唱

ご来賓の紹介

ガバナー挨拶

ガバナー 安孫子建雄

RI 会長代理ご挨拶

RI 会長代理 高 成 大

第 3700 地区総裁ご挨拶

総裁 李 華 榮

乾 杯

ガバナー・エレクト 羽部 大仁

19:30 閉会挨拶

大会実行委員長 郷 和平

19:35 ロータリーソング

「手に手つないで」

ソングリーダー 増山 柳

19:40 閉 会

大会実行副委員長 佐々木光治

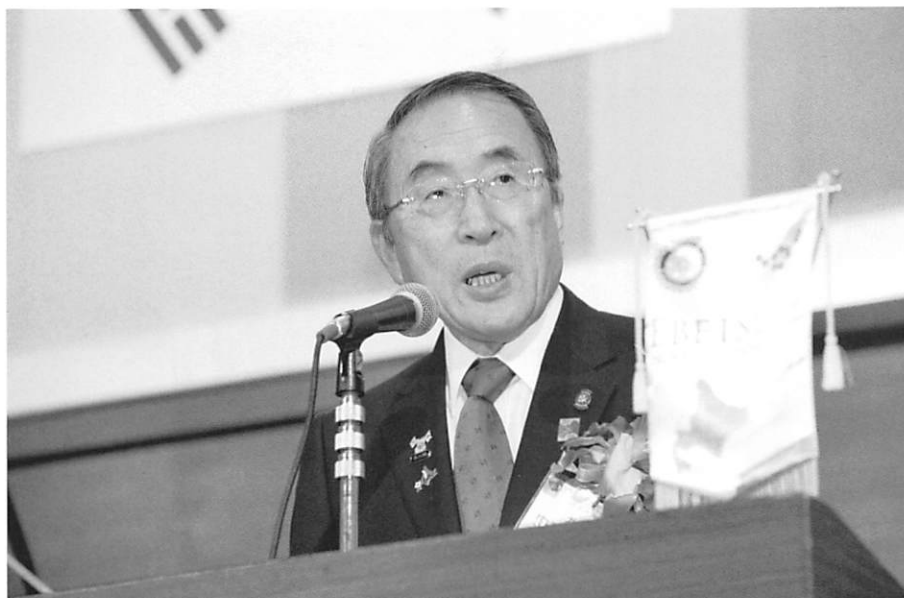




皆さんこんにちは。それでは、本日まで出席いただきました RI 会長代理、並びにご来賓、役員の紹介をさせていただきます。はじめに国際ロータリー会長ロン D. パートン氏代理、3650 地区漢陽ロータリークラブ高 成大さんです。同じく漢陽ロータリークラブからおいでいただきました通訳をお願いしております高 允熙さん、漢陽ロータリークラブ会員でございます。地区外からのお客様です。松良 千廣、第 2520 地区ガバナーです。ロータリーの友編集長、二神 典子様です。本地区 2510 地区の役員をご紹介します。富原 薫 パスト・ガバナー、遠藤 秀雄パスト・ガバナー、塚原 房樹パスト・ガバナー、塚原様には、会長代理のエイドをお願いしております。酒井 正人

パスト・ガバナー、渡邊 恭久パスト・ガバナー、佐々木 正丞パスト・ガバナー、細川 好弘パスト・ガバナー、羽部 大仁ガバナー・エレクト、嵯峨 義輝ガバナー・ノミニ、次に地区ガバナー補佐をご紹介します。第 1 グループ担当 茶谷 恵一、第 2 グループ担当 竹田 俊一、第 3 グループ担当 大竹 繁夫、第 4 グループ担当 玉造 啓子、第 5 グループ担当 小田切 房之、第 6 グループ担当 舩井 齋、第 7 グループ担当 大川 健一、第 8 グループ担当 武田 豊、第 9 グループ担当 石井 憲一、第 10 グループ担当 石山 嘉治、第 11 グループ担当 今井 義憲、第 12 グループ担当 児玉 和雄、以上の皆様でございます。

ガバナー挨拶

国際ロータリー第 2510 地区ガバナー **安孫子 建雄**

改めましてご挨拶申し上げます。本日、我が2510地区の2013-14年度の地区大会を開催するにあたりまして、RI会長ロンD.バートン氏代理として、高成様においでをいただき、開会できますことを心から喜びとするところでございます。そして会場の皆様会長・幹事の皆様、既に多くのクラブを訪問させていただいておりまして、その節は大変歓迎をいただき、お世話になりましたことをこの席を借りて厚く御礼申し上げます。また、残る20クラブ訪問致しますけれども、どうかよろしく願います所でございます。このように大勢ご参集いただきましたことを本当にうれしく思いますし、昨日、そして今日とこれほどの晴れはないというぐらい秋晴れの素晴らしい天気にも恵まれました。本当に安心しております。もう1日なんとかこの晴れが続くことを願っておりますが、たぶん大丈夫だろうと思って進んでいるところでございます。今回の地区大会、さかのぼりますこと私がガバナーをお引き受けするということになりまして、江別クラブとしては大変な事業を抱えてしまったということでスタート致しま

したけれども、日が進むに連れて私もいろいろと勉強させていただき、またクラブの仲間も日夜準備に努力され、今日を迎えることができました。関係の皆様に感謝を申し上げる次第でございます。ロンD.バートンの今年のテーマに従って、私はロータリーの基本を見つめ、変革するロータリーを実践しよう、「ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を」の理解を深め、クラブと地域そして世界で活躍するロータリアンになろうという風に皆様にお呼びかけしました。そんな中でガバナーとして、RIとクラブを結ぶ役割を務めさせていただいている所でございます。公式訪問では様々な情報をクラブの会長・幹事様、そしてメンバーの方々からいただいております。それらをどのように活用するかは、これからの私の努めかと思っております。今日はこの後、地区大会提出議案審議をお願い致します。どうかしばしの間、ご協力をお願いしたいという風に思います。まずもって開会にあたりましてのご挨拶にかえさせていただきます。どうぞこれからよろしく願い致します。ありがとうございます。

ロータリアンの皆様こんにちは。尊敬する国際ロータリー2510地区安孫子 建雄ガバナーをはじめ、パスト・ガバナー、地区役員、クラブの会長の皆様こんにちは。私は国際ロータリー会長ロン D. バートンの会長代理として参りました。韓国、ソウルの第3650地区パスト・ガバナー高 成大と申します。国際ロータリー会長 ロン D.



バートン氏は、日本を高く評価しており、皆様にお会いしたいとは思っておりますが、200余りの世界ロータリーの会員国を一人で訪問することは困難であるため、私を会長代理に指名致しました。今日、第2510地区の地区大会に参席をさせていただいたことを大変うれしく思っております。また、北海道は豊かな自然環境と文化を兼ね備えており、世界的に高い評価を受けているこの北海道を訪問できたことは、個人的にも幸運なことです。この地区大会は、会員とクラブ活動の交流を通して、より多くのことを学べる有益な時間となりますことを願っております。ロータリアンの皆様は、ロータリーの根本であることと同時に知見であることを忘れないでください。我々は交流を通して、地域社会の人達と縁を結び、分かち合いを通して、我々が目指すロータリーを実践し、豊かな人生を成し遂げて行けることを確信しております。まさにこの地区大会は、その全てを実践させる成功的で素晴らしい地区大会になるであろうと信じて止みません。安孫子 建雄ガバナーを中心とし、努力をし続け、すべてのプロジェクトを成功に導く会

であることを願っております。これで挨拶の言葉とさせていただきます。加えまして、ロータリーの日韓親善会議について申したいと思えます。この地区大会が開催されます、10月19日、20日、今日と明日ですけれども、韓国、ソウルでは第3650地区が主催する第12回日韓親善会議がグランドハイアットホテルで行われます。日本からは、約400人のロータリアンにご参加いただき、盛況に行われております。また、貴地区と韓国の第3700地区は、姉妹地区として毎年、地区大会の相互訪問を通して、ロータリアンの友情の輪を広げております。そして、今日、第3700地区の李 華榮ガバナーをはじめ、多数の会員の方が参加なさったことに感謝を申し上げます。そして、私どもの第3650地区は、東京の第2750地区とは、1989年から現在に至るまで24年間姉妹クラブとして、交流プロジェクトや青少年交換をしながら、地区大会の相互訪問をするなど、ロータリアンの友情と親交の輪を広げております。改めて地区大会の成功と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

大会運営について

大会実行委員長 郷 和平



それでは、ただ今から2日間の大会運営のスケジュールについてお知らせ致します。本日、これからお手元の大会プログラム68項に記載の通り、前年度2012、13年度の地区大会決算報告並びに、監査報告をいただきます。その後、大会運営委員会報告をお三方からいただきます。14時に終了の予定でございます。14時20分から地区指導者育成セミナーを開催致します。基調講演は、一般財団法人「ロータリーの友」編集長の二神氏にお願い致しました。その後、引き続き、フォーラムを開催致します。コーディネーター、パネリスト、プログラムについては、記載の通りでございます。尚、スパウスプログラム、新世代プログラムは、明日行うことになっております。今夕、17時40分から国際ロータリー会長代理歓迎晩餐会を開催致します。関係各位のご出席をよろしくお願い致します。明日、2日目の日程について申し上げます。明日の江別市民会館における本会議は、午前9時の点鐘でございます。午後1時より北海道知事 高橋 はるみ様より来賓祝辞を頂いた後、表彰式を行います。13時50分から「お金の世界」から「い

のちの世界」と題して、菅野 典雄様の記念講演がございます。本会議終了後は、江別市民体育館に移動頂いて、17時より記念懇親会を開催致します。囲碁大会、ゴルフ大会の表彰の他、素晴らしいアトラクションと江別の食材を使った料理を、またお酒等を皆様に楽しんでいただけますよう企画しております。当江別ロータリークラブは、創立以来、はじめて年次大会を開催致しました。会員総数35名と会員の少ないクラブであります。江別西ロータリークラブ様にコ・ホストクラブになっていただき、また、第3グループ各クラブからご支援、ご協力をいただき、安孫子ガバナーのもと、ホストクラブとして実行委員会を立ち上げて全員で準備を進めてまいりました。何かと行き届かない点が多々あろうかと存じます。宿泊施設も無く、また、本会議場から懇親会場への移動等、大変ご不便を掛けるかと思います。どうかロータリーの友情と寛容の気持ちでご容赦いただけますようお願い申し上げます。以上、簡単ではございますが、大会運営についてのご説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。



改めましてご挨拶申し上げます。先ほど会長・幹事会のセレモニーが無事に終わりました、ほっとしております。競馬に例えますと、馬が一斉に出られたと。落馬する所もなくスタートできてほっとしております。いよいよコース上に出られましたので、これから本番かなということでございます。これからの指導者育成セミナーは、いろんなテーマが考えられましたが、これはRIの色々な事業、方針等にごさいますけれども、公共イメージについて、やはり我々もしっかり考えていかないとけないなということがありまして、このテーマとさせていただきます。過去の大会の中での色々なセッションの中でも、公共イメージのこともずいぶん語られておりましたので重複する所も無い訳ではございませんが、今日、改めて考えていただきたいということでございます。これからお話しいただく「ロータリーの友」編集長の二神さんから「公共イメージと認知度の向上」ということでお話をいただきますけれども、「今さら…」というお話もあるかもしれません。しかし、「されど公共イメージ」ということになると思います。私達のロータリーの活動にとって、私達と公共という関係はどういうものな

のかと改めて考えていただきたいと思います。公式訪問で色々お邪魔して、ロータリーについてどのくらい知られてるかなというお話をさせていただきました。その中で一番欠けているのは、もしかしたら、すぐ側にいる奥さんであったり、家族であったりという所が、実は抜けているかもしれないなということをお話しさせていただきました。その辺が今日の話合いの中で、どういう話が出るか期待したいと思っております。私達の活動がいかに関わる人に伝わっていくのかを改めて考えていただきたいと思います。その上で、我々も会員自身もこのことについて考えることによって、よりロータリーを理解するきっかけになると思いますし、自信を持って周りの人に私達のロータリーは、こういうものだ伝えていけるようになっていただきたいと思います。長い時間とは言いませんが、この時間はぜひ講演を聴いていただき、また次のフォーラムもお聴きいただいて、皆様方の参考に、これからの活動につなげていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。開会にあたりまして一言申し上げましてご挨拶とさせていただきます。よろしくお願い致します。

講師紹介

パスト・ガバナー 酒井 正人



それでは、本日2つ目の事業であります、地区指導者育成セミナーをこれから開催致します。開催するにあたりまして、講師のご紹介を兼ねてご挨拶をさせていただきます。二神典子様は、島根県のご出身でありまして、青山学院大学の工学部をご卒業後、ロータリーの友へ入社を致しました。ロータリーの友在籍中に法政大学の大学院の修士課程へ進みまして、パブリック・リレーションズ、広報についての研究をされ、論文を出して修士を取得しております。その後、愛知学院大学の博士過程の方へ進みまして、同時に仕事を平行して行っておりまして、ロータリーの友の編集長に就任しております。現在は、ロータリーの友の編集長を兼ねまして、一般社団法人ロータリーの友事務所理事を務めております。ロータリーの経歴と致しましては、東京築地ロータリークラブに所属しております。RIの方ではロータリーの公共イメージのコーディネーターを務めておられます。今、ご経歴をお聞きしておわかりだと思いますが、学校卒業以来、ずっと広報一筋に学んでおりまして、広報の大ベテランということでございます。ぜひ今日のお話を伺いまして、ご自分のロータリーの活動の中にお役立ていただければと思います。固い話をしました

ので、少しだけ、柔らかい話で二神さんをご紹介しますいただきます。二神さんは、おそらく日本で誰よりも多くガバナー・エレクト研修セミナーにご出席の方だと思います。どのガバナーよりもどの理事よりもたくさん出ていらっしゃる方だと思います。毎年毎年アメリカへ足を運んでおります。また、国際大会におかれましては、たぶん日本一の出席率じゃないかと思います。もしかして、日本一じゃないとしましても最初から最後までいることだけを計算しますと、この方に勝る方は1人もいないと思います。たいていの方は途中で逃げ出す訳ですが、二神さんは最後までいらっしゃる訳でございます。私も度々同じ飛行機で一緒することがありまして、「すごいなあ」と思っていたある時、成田からソルトレークへ向う飛行機の中で一緒致しました。私、ドルの両替を成田でし忘れまして、ソルトレークでしようと飛行機を降りましたら、両替所が無いんです。タクシー代が無いことに気がつきました。二神さんがいまして、「私、何とかしましょうか?」ということでタクシー代をお借りました。お借りをして別々のタクシーでホテルへ行きましたら、なんと隣のホテルだったんですね。一緒すれば良かったものかと思いました。ところがですね、お金をお返ししようと思って、ホテルへ入ってチェックインしましてフロントへ行きましたら、両替できないと。ソルトレークは両替しないんですね。もしかしたら隣のホテルはできるかもしれないということで、二神さんの泊まっているホテルへ行きましたら、そこも断られました。私の人相が悪かったのかかもしれません。(笑)聞く所によりますとホテルはあまり両替しないんだそうであります。結果的に月曜まで待たされまして銀行へ行ってやっと両替をして、二神さんにお金をお返ししたということであります。私の頭の上からない方が、今日ここに来て講演をされる訳であります。二神さん、どうぞ本日よりよろしくお願い致します。以上で簡単でもなかったですが…ご紹介とさせていただきます。

基調講演 「公共イメージと認知度の向上」

ロータリーの友 編集長

二神 典子



ただいまご紹介いただきました二神でございます。今の話の続きを先にさせていただきますと、たんまりと利息を付けてお返しいただきましたので、ぜひですね、酒井さんお困りになってたら、お声を掛けてお金を貸して差し上げると良いかなと思います。さて早速ではございますけれども、皆様ロータリーを楽しんでいらっしゃいますでしょうか？今ここにおいでの皆様、指導者セミナーということでございますから、ロータリアンとしての経験は、皆様非常に豊富な経験をお持ちだろうという風に思います。今、ご紹介頂きました私のロータリアンとしての経験、あと一カ月ほどでようやく4年という、まだ皆様からすれば、スタートを切ったばかりの新米ロータリアンでございまして、私の方がもう後輩ということになると思いますけれども、ロータリーの友の編集という仕事を通じまして、30年ロータリーを見て参りました。その中でですね、皆様もこういうよく言葉をよく耳にされるとと思います。何かご依頼を受けた時に、断ろうかなあと思ったら、「ロータリーにNOはない」という口調でよく先輩に言われるかと思いますが、この30年そういう言

葉をずっと耳にして、ずっと聞いてまいりましたので、何かご依頼を受けた時に、例えば別の予定がちょうどその時にもうすでに入っていたということを除きましては、どんなことでも「はいわかりました！」という風にお応えをしてしまいます。そのおかげです、もう自分で本当に身動きできなくなるような思いも、ずいぶん致しました。確かに非常に大変だと思うこともあるんですけれども、でも一方でロータリーというのは、活動すればするほど、楽しくなる所だなという風に思っております。国際大会の話も出ましたが、国際大会は皆様、開会式だけでなくどうか全部お出になってください。お友達がたくさんできます。私はカメラを抱えてふらふらしていると、毎年数人くらいのお友達ができてまいりまして、これを長年続けておりますと、国際大会は年に1度なんですけれども、お目にかかれる外国のロータリアンの方のお友達が増えてまいります。余談が長くなりますけれども、ある時テレビを見ていましたら、国際ニュースで映っているロータリアンが知っている方だったということもございます。国内のニュースに出て来られる方も知ってい

る方もたくさんいらっしゃいます。いろんな地区大会や国際大会、国際協議会というロータリーの会合にたくさん出させていただいているおかげかなという風に思います。私が最初に皆様に「ロータリーを楽しんでいらっしゃいますか？」と伺った理由がここにございます。今日のお話を致します「ロータリーの公共イメージと認知度の向上」というテーマでございませうけれども、これに一番重要なのがロータリアン一人一人がロータリーを楽しんでいる、これがキーワードになるという風に思います。今日これからはですね、まずロータリーのストラテジックプラン、戦略計画、そしてこの8月に発表されましたロータリーの新しいブランド戦略についてのお話をさせていただきたいという風に考えています。この「楽しい」ということを頭に入れて、次の話を聞いていただくと、ちょっとわかりやすいかなと思います。さて、広報っていうのは、皆様、何なんでしょう？ということなんです。公共イメージと認知度の向上ということが出だしてから、RIの経路要覧の委員会が公共イメージ委員会という風に変わっていたりして、時折、「この公共イメージと広報ってどう違うんですか？」と聞かれることがございます。公共イメージというのが、これはロータリーの目的ですね、まあ一つの目的なんだろうと思いますけれども、それを実現するための手段というのが、広報かな？という風に思います。広報っていうのは、広く報じる、広く報せるという風に書きますから、皆様ですね、自分の伝えたいことを周りの方、組織の外の方々、一般の方々にお話しすれば良いのではないか、そういう情報をどんどん一方的に出せば良いという風にお考えの方も多いようでございます。また、これをですね、広報というのと、広告とか宣伝と混同されて考えていらっしゃる方も多いように思います。広報という言葉は、実はアメリカから出た考え方でございます。ロータリーもアメリカではじまった訳ですけれども、この広報という考え方もアメリカでは

じまりました。そして、その元の言葉パブリックリレーションズ、見ていただければわかると思いますけれども、単純に直訳を致しますと、公共関係とか公衆関係という風になります。もうちょっと言いますと、要は、企業とか組織が周りの人たち、また、組織の中も含めてなんですけれども、そういった方達と良い関係を作る活動という風にお考えいただければ良いのかなと思います。良い関係を作るということですから、先ほど申しましたように、一方的に自分が言いたいことをどんどんお伝えする、どんどん言うということではなくて、やはり双方向ですね、お互いに意見を言う、そして聞くということが大事です。いわゆるコミュニケーション活動ということをは心掛けなければいけないということです。今、広く報せるという風に申し上げましたけれども、私は、長年ロータリーの広報ということについていろいろとお仕事をさせていただいて、今は広報と言ってもだんだん抵抗のある方は少なくなってきましたけれども、10年15年前は「ロータリーに広報なんて必要ないよ」と言われる方も非常に多かったです。ひょっとしたらひそかにここにいらっしゃる特に古いロータリアンの方、そういう風に思ってたいらっしゃる方もいらっしゃるかなと思いますけれども、そうやっていろんなロータリーで広報をどうやって皆様にお伝えしたら良いのかなと、考えてるうちにこんな読み方を思いつきました。広く報せるではなくて、広く報いるという風に読むんです。広く報いるという風にすれば、私たちが今ロータリアンである、それに感謝して世の中、地域社会に広く報いる活動、より広く報いるために何をすればいいのかということを考える活動という風に理解していただければ、ロータリーの広報というのは、わかりやすいのになっていう風に考えています。さて、先ほど戦略計画というお話を申し上げました。戦略計画、皆様、今から言うまでもなくご存知かと思ひます。そこには3つの優先項目というのがございまして、その1

つが公共イメージと認知度の向上のことになります。その優先項目はそれぞれですね、目標というのがございます。今日は公共イメージのお話でございますので、公共イメージと認知度の向上の目標についてご紹介申し上げますと、ここにございます、5つございます。あとで詳しく申し上げますので、ここでは全部読み上げませんが、5つあるということでございます。さて、ここにあるのはロゴでございます。これは私達がよく知っているロータリーの徽章、ロータリロゴ。歯車のロゴなんです。私たちがよく知っているという風に今申し上げましたが、でも、これをロータリアンでない一般の方にお見せしたらいかがでしょうか？これがロータリー、ロータリークラブという組織のロゴだという風にご存知の方はほとんどいらっしゃると思います。まして、そのロータリーが一体どういう団体、どういう人が集まってどういう活動している団体なのか、それを知ってらっしゃる方もっと少なくなるんじゃないかなという風に思います。そこで、この徽章を見たら誰もがロータリーという名前を連想して、そのロータリーがどんな活動して、どんな組織なのかということが分かるようにしようということが、国際ロータリーで進められてきたブランディングということでございます。先ほどの戦略計画の目標に戻りますけれども、まず最初に挙げられているのがイメージとブランドの認知を調和させるということです。では一体、一般の人たちというのは、何からロータリーに対するイメージを持つことができると思われますでしょうか？私はその一番は、ロータリアンの一人一人の行動、振る舞い、活動、そういうものではないかなと思います。目標の4番目に「職業奉仕を強調する」ということがございます。職業人として、そしてまた社会人としてのロータリアン個人のですね、活動、行動がどのようなものかといったようなことがロータリーのイメージと強く結び付いているという風に思います。ロータリアン

一人一人がロータリーを代表する顔ということをしてひびき自覚いただきたいなと思います。ロータリーの友の事務所にはいろんな電話やメールやFAXが届きます。それはロータリアンでない方からもきます。実は、そういった特にロータリアンではない方からのそういうメールとかお手紙なんですけれども決して良いことばかりではありません。実は仕事上のトラブルに関するクレームのメール、FAX というのも入ってくることがございます。ある時、ロータリーって一体どういう人の集まりですか？というようなクレームのメールがきました。あるロータリークラブの会員なんですけれども、取引に関して脅しをかけてくるというようなクレームのメールです。実はその方の所属クラブも名前もきっちり書かれておりました。細かくどういったことがあったのかということも書かれていました。仕事上のトラブルは、多かれ少なかれあるものだと思います。一方的に相手の話を聞くだけでは、どちらがどうなのかを判断することは難しいかなという風に思います。しかし、私どもの事務所にメールを送ってこられたその方は1人だったとしても、おそらくその1人のロータリアンの方とあまり良い思いをしない経験をしたら、自分の周りにいらっしゃる方にロータリーの悪口を言って回られるかもしれないです。今申し上げましたように、どちらが悪いのかというのは、よくわかりません。でも、仕事上何らかのトラブルがあったということだけは間違いがないようでございます。この場合は、自分の方が、つまりロータリアンの方が正しかったとしてもきちんと対処をしないとその人自身、また、その人の会社、さらにはロータリーにとってイメージダウンに繋がりがかねないということでございます。目標の2番目「行動を主体とした奉仕を推進する」というのが掲げられております。いわゆる汗を流す奉仕、汗を流す活動というようなことでございましょうか。ただ単に汗を流して活動すれば良いということではないようでございます。やはり

地域社会のニーズにあった活動をするというのがとても大事なことだろうと思います。こういう話も実はございます。あるクラブで…たぶん何十周年の記念だろうと思います。駅前にモニュメントというか記念碑のようなものを作られたようです。これもよくやられる活動でございますけれども、ロータリアンでない私の知人がその駅を利用して、どうも駅を利用するのに邪魔になる場所にあるらしいです。これは迷惑だという風に言っております。市なのか駅なのか、おそらくそういった所の方と相談されて、そういったものをそこに置くということを決められたんだろうと思います。この場合は、そういう方だけではなくて、駅を利用される一般の方々にどういうものが必要なのか？どこにあれば良いのか？というようなことも、やはりお伺いになられた方が良かったのかなという風に思います。また、皆様のクラブでもロータリー以外の他のグループとか団体、組織といった所と一緒に活動されたりとか、支援をされたりというようなケースがよくあるかと思えます。ちょっと余談になりますけれども、こんなこともございました。ある方から私どもの事務所宛に入ってきたメールでございますけれども、ロータリークラブが支援しているある団体の作った歌だったと思えますけれども、それに対して著作権違反をしているというメールです。ロータリーではどのように考えるのか？というメールです。これはロータリーが著作権違反をしている訳では無いんですけども、そのことについて何度もそのロータリークラブにメールなり、お電話なりでご連絡をされた様なんですけれども、なしのつぶてだったということですね。お返事が無かったということです。それで思いあまって私どもの所にメールがまいりました。これもきっちりクラブ名が書いてありましたので、該当のクラブに転送して、お電話をして、これは真実がどうなのかと

いうこと、真相について、いきさつについてはよくわかりませんが、とりあえず何らかの形で対応をされた方がいいと思いますというお電話をさせていただきました。合わせましてガバナーにもご連絡をさせていただいて、ガバナーの方からもそのことをお口添えいただくようにというお願いさせていただきました。広報活動とか公共イメージの向上と言いますと、自分たちがやっていることを知っていただくということが中心になりがちでございますけれども、やはりこういったトラブルとか問題。私たちが活動している中で、起こらないとも限りません。そういう時に適切に対処するということも公共イメージ、広報にとってとても大事なことになります。話がそれたような所もでございますけれども、ロータリーに何らかの良いイメージを持ってもらうには、まずは、行動、活動、ということがなければいけません。基本的に私たちは、個人またはクラブ、そして地区といった単位で別々に活動していることが多いと思えますけれども、その活動について何らかの情報を発信する場合ですね、やはりたくさんのクラブや地区、そして最近は facebook だとか色々なもので個々で色々な所から発信をされるということになります。そういった情報がロータリーというキーワードでですね、一見別々に見える情報がロータリーというキーワードでくくれるようにするということが大事なことだと思いますが、それがロータ



リーでいうブランディングということでございます。その際に大きな武器となるのが、先ほどもご紹介致しました、ロータリーの徽章でございます。ここにご紹介しているのは、様々な活動をご紹介させていただいているんですけれども、共通点というのは、ロータリーの徽章のついたお帽子ですとか、たすき、ジャンパー、今日は、地区大会の関係者の方々がジャンパーをお揃いのものを着ていらっしゃるんですけども、そういったロゴマークの入ったジャンパーを身につけていただくというのが良いのかなという風に思います。またですね、これは旗なんかにロータリーのロゴマークを入れていただくというのも良いと思います。また、クラブで作られている封筒とか、便せん、そういったものにも、このロータリーのロゴマークを入れていただくと非常に良いのかなと思います。このロゴマーク、実は著作権というか、知的所有権というものを所有しているのは、皆様方のクラブではなくて国際ロータリーが所有しております。私たちは、クラブや地区の活動にこれを使うことができる訳ですけども、RIが国際ロータリーが定めている一定のルールに従って使うということになっております。そのルールは、あまり遵守されてこなかった部分もあるかと思いたくはなけれども、今回ですね、ロータリーの徽章のマーク、徽章自体は変わってないんですけども、使い方が新しくなりました。さっきお打ち合わせをさせていただきましたら、さすがに皆様ご専門でいらっしゃるのですので、新しくなったことをよくご存知だったんですけども、このロゴマークが新しくなって、「これが新しいブランド戦略です」と国際ロータリーで言っているんですが、例えば国際大会のような皆様が集まる場所で大々的に発表されたということではなく、8月26日にロータリーのウェブサイトが新しくリニューアルされて見れるようになったわけですけども、その中でこういロゴになって、こうだというようなガイドラインが新しく入った。これを

もって発表したということになっているようでございますので、「今日初めて知った」「こんなの見たことないよ」と言われる方も中にはたくさんいらっしゃるんじゃないかなという風に思います。ガイドラインは国際ロータリーのウェブサイトの中のマイロータリーの中です。マイロータリーに最初にアクセスいただくときに、苦勞されるかもしれませんけれども、マイロータリーの中に「運営する」という項目がございます。その中の視聴覚デザインとボイスのガイドラインというところを開けていただくと、そこからダウンロードをして詳細な指針を見ることができます。プリントアウトすると厚くなるんですけども、どうか皆様1回お読みになっていたきたいと思います。「僕はインターネットなんて嫌だよ」と言われる方いらっしゃるかもしれませんが、ちょっとお手間なんですけど、必ずカラーでプリントアウトしてください。白黒だとちょっとわかりにくい部分がございます。よろしいでしょうか？後でもう一回申し上げます。今日はそこにある詳細を詳しく1つ1つご説明をすると、とても今日いただいた1時間のお時間では無理ということでございますので、ちょっとおもだったところだけですね、今日ご紹介をさせていただきたいと思います。今申し上げましたロゴはこういう形になりました。ロータリーの徽章、これ自体は変わっていませんけれども、お気づきになりましたでしょうか。前はこの辺に青が入っていたはずなんですけれども、黄色だけになりました。その代わりにロータリーという文字が外に出ています。これが公式ロゴです。そのガイドラインを見ますと、この「R」ですね、これを絶対入れろということになっておりますが、これで公式ロゴです。これはですね、国際ロータリーのホームページからダウンロードしていただくと、このロゴが使えるように、もう入っておりますので、詳細は省かせていただきます。この公式ロ

ゴの直径というのは、13mm 以下で使ってはいけな
いと書いてあります。13mm 以上で使えと書いてあ
ります。だから 12mm というのは間違いですとい
うことになります。これですね、ほこりのシンボル
というのが、大きくロータリーの歯車だけなんです
けれども、これを使ってよいということになってお
ります。ほこりのシンボルのサイズもこれもうるさ
くて、このロゴに対して 4 倍以上の大きさで使いな
さいと書いてあります。この直径が例えば 20mm
だったら、4 倍なので 8cm 以上。10cm でも 20cm
でも構いませんけれども、これの 4 倍以上のサイズ
で使いなさいという風に指示されております。それ
から色なんですけれども、ここにある色以外は絶対
に使うなという風になってます。ブルーと黄色です
ね、それから黒、それから指定のブルーですね。今
までは一色だったら何色でもいいという風になって
いたんですけれども、これ以外の色で使うなという
風に定められました。カラー刷りするときは、必ず
カラーで入れるということになっています。バック
が濃い場合、ブルーがバックだと目立ちませんので、
そういう時はロータリーを白にしても良いとか、モ
ノクロ印刷との時はこういう形ねということが、細
かく指定されています。これは今説明していてもわ
かりにくいので後でご覧ください。使うときにお分
かりにならないければまたご連絡いただければと思
います。一応細かく決まっているんだなということだ
け覚えて帰っていただきたいなと思います。この新
しいロゴマークの横に、何々ロータリークラブと入
れるんですけれども、これもサイズとか位置が細か
く指定されています。それから文字の種類も細かく
指定されておりますので、この辺もお気をつけてい
ただけたらなと思います。それから色ですね。いろ
いろな色が表示されておりますけれども、これは実
はロゴマークだけではなくて、皆様がいろいろなパ
ンフレットなどを作られることがあるかと思いま
す、そのパンフレットを作るときにこういう色使い

をしなさいってことが示されております。色番号や
色の掛け合わせの細かい指示が書かれています。先
ほど 4 倍以上のサイズでほこりのシンボルを入れる
と申し上げましたけれども、お気づきの方もいらっ
しゃると思います、ロータリーの友の 9 月号のこう
いう感じかなという風に見てもらえれば良いと思
います。ちょっと後ろの方小さくて見にくいと思
います、すいません。先ほど RI のウェブサイトが 8 月
26 日に新しくなりましたという風に申し上げまし
たけれども、当然新しいウェブサイトはそのイメー
ジで入っております。そしてお気づきの方もいらっ
しゃるかもわかりませんが、今日私が使ってい
るパワーポイントの台紙と言うのでしょうか、こ
れもそれに合わせたものです。これは皆様に浸透さ
せるために、「これでパワーポイント作ってくださ
い」と国際ロータリーから送られてきたものに私の
中身を入れたという形です。こういう色のイメー
ジでロータリーのイメージにしましょうという風なこ
とで、RI が言ってきています。今の説明、きっと「そ
れじゃわかんないよ」と言われると思います。詳細
はガイドラインを見ていただければと申し上げまし
たが、実はこのガイドラインを細かく何回も読むの
は嫌になるぐらい細かいのと、おそらく、デザイン、
編集、印刷、そういった関係のお仕事をしていらっ
しゃらない方は、お読みになっても何のことが書か
れているのかよくわからないんじゃないかという風
に、私は読んで思いました。ですが、幸いなことに
ロータリークラブというのは、いろんな専門家の集
まりですから、必ず皆様のクラブに、そして皆様の
クラブにいらっしゃらなかったら、お隣りとかご近
所のクラブにですね、必ずそういった専門家の方が
いらっしゃると思いますので、そういった方にご相
談をされながら見ていただくといいんじゃないかな
という風に思います。これもちょっと変わった例な
んですけれども、皆様ライラをご存知ですよ？ラ
イラのロゴマークというのは皆様よくご存知だと思

います。ご存知のようにライラって緑のイメージだったんですが、それがこういう風になりました。青です。さっきのところに戻しますと、ここにロータリーのロゴがありました。なくなりました。なくなっただけですけども、これではロータリーと分からないので、例えばTシャツの胸にこれを付けると、それにロータリーの公式ロゴを入れるとか、場合によっては並べるとかというような使い方で、ロータリーがやっているプログラムだということがわかるようにしましょうと言うようなやり方ですね。例えば、他のものでロータリーのロゴというのはたくさんございましたけれども、個々については今、検討中ということのようでございますので、それらの使い方が決まりましたら、ロータリーの友とかロータリーの友で作っているロータリージャパンというウェブサイトがございましたけれども、そういったものを通して皆様にできるだけ早くにご紹介をしていきたいなと思います。今言っていました資料はこれですね。「ロータリーを生き生きと表現しよう」という資料です。ロータリアンのためのボイスとビジュアルアイデンティティーのガイドという風になっております。ビジュアルアイデンティティーというのは、今お見せしましたような視覚的に見てロータリーとわかるようにしようというようなことですが、このボイスというのはどういうことかということ、言葉でロータリーを紹介するときのイメージと言うのでしょうか？そういうものについても書かれています。書かれているんですけども、書いてあることを読んでみると何が言いたいのかわからない部分があります。よくわからないなという風に思っておりましたら、どうもまだきちんと決まってないようでして、これはおいおい細かく決まったら発表されるんじゃないかなと思います。もう一回繰り返します。ゆっくり申し上げます。国際ロータリーのウェブサイトの中のマイロータリーというところを開けていただいて…マイロー

タリーを開けるためには、メールアドレスを入れてパスワードを設定するという作業がありますが、これも、これはロータリアンでなくてもできますが、皆様ロータリアンですから当然できます。その中を開けていただくと「運営する」というところがございます。「運営する」というところにカーソルを合わせると視聴覚的デザインとボイスのガイドラインというのがありますので、そこをクリックしていただくと出てまいります。よろしいでしょうか。まだ書いていらっしゃる方いらっしゃいますでしょうか？大丈夫でしょうか？ブランディングというのは、何もないところに良いイメージを作り上げるという事ではございません。実態の伴った素晴らしい活動や魅力のあるロータリアンがあって初めて成り立つものです。さらにはすべてのロータリアンがイメージを統一してロータリーを表現するという必要があります。というのが国際ロータリーのブランド戦略の概要でございます。国際的な組織であるということは、やはりボーダレスの時代ですね、それは1つのロータリーの魅力ではないかと思えます。ロータリークラブがそしてロータリアンが世界的なネットワークで結ばれているということは、ロータリーを表現するときに欠かせない1つの大事なキーワードかと思えますし、若い人たちにとっては、やはりそれが魅力となってロータリーに入会してくださる、そういう方も多いのではないかなと思います。しかし、それと同時にロータリーは、それぞれのロータリークラブがですね、それぞれの地域社会に根ざした活動をされているかと思えます。そこに根ざした活動、これがロータリーの1つの大きな特色じゃないかなと思います。ここに今お見せしているのは、ロータリーの友の今年の3月号の記事でございます。今のRI会長、当時のRI会長エレクトだったロンD. バートンさんがインタビューに答えたという記事でございます。この中でバートンさんがこんな話をされているのでご紹介させていただきたいと思

います。私たちがポリオを撲滅すれば、NY タイムズの1面を飾るでしょう。しかし良いニュースはあまり取り上げられません。NPO ミールオンホエールズへの寄付、図書館の図書寄贈、子供たちへの読み聞かせ、といった地域社会での活動こそ私たちが行うべき活動です。それらは語られる事はありませんが、そういった活動の集積がロータリーの大きな影響力になっています。このように話されていたという記事が載っておりました。私はまさにその通りだと思いました。私たちは「ロータリーって何？」と聞かれたときに、世界中の全てのロータリアンが同じことを簡潔な言葉で言えるメッセージと言うのが必要だと思います。しかし、私たちのロータリークラブは、それぞれの地域でそれぞれの地域のニーズに合わせた活動をしています。ですから、「ロータリークラブはこんなことをやっています」といった自分たちのクラブが何をやっているか？そういうメッセージを準備する必要があるとも思います。最初に「ロータリーを楽しんでいますか」という風に申し上げましたけれども、ロータリアン一人ひとりが、自分の経験をもとにロータリアンでない人たちに、短い言葉でロータリーについてきちんと語ることができれば、ロータリーはもっと魅力的なところとして人々に受け止められるのではないかなと思います。世界中のロータリーの統一したメッセージ、個々のクラブのメッセージ、それらを合わせて初めてロータリーのイメージになるのだなと思っています。公共イメージと認知度の向上の目標の1つとして挙げられている中核となる価値観を強調するということ、これはもちろんなんですけれども、それに加えて、やはりポリオ、水、識字率の向上など、国際ロータリーが今やっていることを知っていなければ、他の方にロータリーを伝えるということができません。合わせて、今申し上げましたように、皆様の活動について

もやはりよく知っていなければならないんじゃないかという風に思っております。じゃあ、その情報はどこで入手すればいいんだろう？ということですけども、今紹介しました国際ロータリーのウェブサイト、新しくなりましたが、ここには様々な最新情報が載っております。それからあとの2つ、手前味噌になって恐縮なんですけれども、ロータリージャパンのホームページ、ここにもいろいろな活動について掲載をさせていただいております。そして、さらにはこれも自分で作っている雑誌を売り込むように恐縮なんですけれども、ロータリーの友にも国内外のいろんな活動について掲載をしておりますので、そういうところで、ぜひ最新の情報を仕入れていただきたいと思います。また今日は、地区大会ということでございますけれども、地区内、まあ北海道広いですから、なかなかお互いにですね同じ地区の会員であっても出会うという機会というのが少ないと思いますけれども、こういう場を利用して、やはり地区内のいろんなロータリークラブの活動ですとか、ロータリアンの方を知って頂くというのは、やはり大切な情報収集なのかなという風に思います。さて、少しインターネットの話を申し上げなければいけないと思います。以前は、私たちは自分たちで自由に情報発信する手段を持っておりませんでした。ですから、広報活動というと、例えば新聞や雑誌で掲載してもらう、テレビで放映してもらう。



そのためには何をすればいいんだろう？ということが話題で、こういう会議ですと、そういう話を中心だったように思います。この場合何を取り上げられるかというのは、相手、すなわち、メディアが決めることですから広報活動は、やはりなかなか大変だったと思います。でも今はホームページとかそれから Facebook など自分たちで自由に情報発信するメディアがごさいます。インターネットはとても便利な役に立つツールですが、私は、これは諸刃の刃でもあるなと考えています。個人的な意見だと思って気楽にした投稿が、その人の組織にとって命取りになるような重大な損害を与えるといった記事を私たちは頻繁に耳にするようになりました。そんな視点から考えて、皆様のクラブのホームページ、そしてお持ちのところも最近は増えてまいりましたが、Facebook はいかがでございましょうか？皆様方のクラブのホームページお持ちだとしたら一体誰をターゲットに作ってらっしゃいますでしょうか？多くのところが会員の情報用に、伝達用にとされてるように思います。ロータリアン以外の方を意識して作られているクラブは、一体どのくらいあるのかなと思います。皆様方の目的が会員向けであっても、ホームページ、インターネットというのは、誰でも簡単にアクセスできるメディアですから、一般の方がどんどん入ってこられるかなと思います。じゃあそこを意識して作った方がいいんじゃないかということになります。何をどういう風に入れるかということは、もう時間もございませんので細かく申し上げることはできませんけれども、ロータリアン以外の誰かが見に来るかもしれない、このことを意識していただければ自ずと入れてはいけないものがわかってきます。反対に入れた方がいいというものもわかってくると思います。そしてどんなことを入れたらいいかなということも気が付かれると思います。簡単に申し上げます。まずは入れてはいけないもの。これは個人情報に関することです。それは皆

様十分にご承知だろうと思いますけれども、意外とうっかりするのが週報です。週報は、よくネットに上げてらっしゃるクラブさん見受けられますけれども、週報はもともとクラブの中の会員用に作っているものですから、意外と個人情報がたくさん入ったりします。それから何かの採め事みたいなものも入っていて、これが一般のメディアに漏れてえらいことになったという事例も知っておりますけれども、そういう可能性もごさいます。情報入れる時は、個人情報がどうだろうと？私どものクラブは実はID とパスワードを入れないと、見れないところに週報を入れてます。週報も広報活動のうちと考えられてるクラブさんもあります。そういう時は例えばですね、印刷物で皆様に配られる週報には、それが載っていても、ネットに上げるときは、別の写真とか記事に変えていただくというような工夫もされたらいいんじゃないかなという風に思います。それから奉仕活動をされた時に対象になる方々、特にお子さんとか身障者の方、お顔とか個人が認識できないようにお気をつけください。若い方、特にインターアクターの方というのは、何々高校インターアクトクラブという所属がわかります。そうしますと特に女子高生の場合とかですと、かわらしい方がいらっしゃいますと正門の前に行って待っていると、その子が来ますから。そういう風に危険なことにもなりかねません。どうか個人が特定できないようにお心配りをいただきたいなと思っています。奉仕活動の写真という風に申し上げましたけれども、そもそも奉仕活動の写真なんて全然入っていないというホームページもたくさんごさいます。こう言いますと僕のところ入れてるよ、私のところ入れてるよ、という方もいらっしゃるんですけども、社会奉仕活動とか、職業奉仕活動とか、何とか奉仕活動とか、「報告」みたいな中に入っていると一般の方は、そんなものは読んでくださいません。どうかトップページとかトップページから入れるところにですね、「私たち

の活動」というような言葉で、皆様方、簡単に結構ですから、お写真とかそういったもので活動を紹介する、そういうコーナーを作っていただけたらいいなと思います。今、「私たちの活動」という風に申し上げて、あえて「奉仕活動」と申し上げませんでした。この奉仕という言葉は、ロータリーにとって非常になじみのある活動なんですけれども、ロータリアンでない、いろんな方々、例えばジャーナリストの方だとか、その他いろんな方に聞いてみますと、どうもこの「奉仕」という言葉が引っかかるようです。ですから、一般向けには「奉仕」という言葉を使わないで単に「私たちの活動」という風にされた方が良いでしょうと思います。これは私の所属している東京築地ロータリークラブホームページです。後で帰って見ていただくと、ちょっと更新ができていなくて恥ずかしいんですけども、でもまあ、基本的には更新は1年1回できるかできないかよくわからないという前提で作ってあります。ロータリアン忙しいですら、どうか自分のクラブのホームページがどのくらい更新できるかなとということも考えていただきたいと思います。どういうことかと言いますと、もし毎週とか毎月ですね更新できるようであれば、そんなに気になさなくていいんですけども、半年に1回、1年に1回、いや作りっぱなしで放りっぱなしになってしまうかもしれないというクラブの場合は、活動の日付を入れないで、単にこんな活動ですよと、ずらっと並べるような紹介をしていただくと、そんなに変わらなくても目立たないですし、年度のテーマですとか会長のご挨拶、何年度会長というのが3年ぐらい前の会長の顔が出ているホームページをよく見かけますけども、そういうのをお入れにならなければあまり問題にならないので、更新頻度も考えて作っていただきたいと思います。私のクラブは私どもの先輩方が広報にホームページを作ろうと考えて作ったホームページなので、一応意識は広報、外向けのホームページという

ことを意識しております。ここの部分ですね、私たち築地と銀座という皆様がよくご存知の地名で例会をやっていたり、そういうところの会員が多いので、そういったところの写真が入っています。わかりにくいと思いますけれども、真ん中に丸く見えるところ、ずっとお写真みたいな感じにして、ざっくりとどういう活動をロータリーがやってるかということを入れてございます。この辺をクリックしていただくと、私たちの活動が実際に出てくるようになっています。私たちのホームページを外向きに作った理由は、まさしく会員増強という事でございますので、会員のですね、ここのところ「入会のおすすめ」というところがあって、私たちがどんな活動しているのか？私たちの仲間になりたいなと思ってくださったら、どういう連絡をすればいいのか？というようなことをここにらせてございます。これなんですけれども銀座と築地辺りの地図ですね、ちょっと頼んでこういう形でイラストみたいに作っていただいたので、簡単にホテルですとか、おもだったところ紹介しています。なんでこんな入ってるかと言いますと、実は東京築地ロータリークラブとか、ロータリークラブというキーワードで一般の方がホームページアクセスされる方はいないだろうと考えました。さっき申しましたように、築地というのは名前がブランド化された名前ですから、最近観光客も多いところなので、築地というキーワードでホームページを探されることもあるだろうと、その時にうまく引っかかってくれるのには、こういう作り方をすると引っかかってくれるかなと。ロータリークラブって何？と思われた時に、ついでに他を見てくださると、一般の方にも見ていただけるかなと。実際にそうになっているかどうかわかりませんが、一応そういうことを意識して作ったホームページです。今、「はよ更新せい」と言って、私責められております。2年前に作ったあまり気がつかないようなホームページになっているかと思います。さて、

ここからですけどもクラブとか地区の広報活動の事例を駆け足でご紹介させていただきます。これは電車の車内吊りの広告ですね。こういうのをやってらっしゃるクラブが幾つかございます。これはよくございますが、駅前に大型のビジョンがございますがそこを利用された例です。次、これは新聞のチラシなんですけれども、かなり古いもので10年ぐらいにやられたものなんですけれども、実はこちら側がロータリーのヒューマニティーモーション。国際ロータリーがどういう活動しているかをRIのものをを使って作られているんです。ここちょっと色が変わってますでしょう？これは、はがきの返信になっているんです。何かというと、裏側が社会奉仕活動に関するアンケートが入っていて、それについて一般の方に聞いて、ここに回答を書いてもらって切り取ってクラブに送ってもらうというような形で作ってらっしゃいます。いくつか返事が来たみたいなんですけれども、多分ですね、そんなに期待するほどたくさんさんの返事が来なかつただろうと思います。でもさっき地域のニーズにあった活動と申し上げましたけれども、これをご覧になった地域の方々がロータリークラブってよくわかんないけれども自分たちの地域、自分たちのことを意識しながら活動しているところとっていただけるんじゃないか。それにはすごく効果的な方法かなと思って紹介させていただいています。これは北海道だとできますね、東京だとちょっと難しいんですけれども、クラブの事務局に看板を出された例です。最近6月号かな？ロータリーの友にも別のロータリーさんの看板を設置をしたという記事を掲載しましたけれども、こういうのも1つの方法かなと思います。これタクシーのリアウィンドウにロータリーの世界平和フェローの募集を載せて、これを見て世界平和フェローに応募する人はいないと思いますけれども、こんなことやっているんだなと知らせるために、あえてこういうものを作られたという事例です。これは横ですね

さっきは後ろでしたから、表側がこっちですね。裏側にはちょっといくつか細かく入っていて、裏というのはタクシーに乗った時、結構暇だったり手持ち無沙汰だったりキョロキョロされる方…あたしもそうなんですけど、その時に読んでいただけるようにと裏表のステッカー貼ってらっしゃいます。ここにもいらっしゃるかもしれませんが、ロータリーの方、結構タクシー会社の方がいらっしゃいます。タクシーにこういうものを貼るのは、いくらか費用がかかるようなんですけれども、空いたところにとただでしていただけると、印刷代だけでできたよというようなことを伺いました。これは新聞広告です。地区大会に合わせた新聞広告。大体多いのは地区大会の案内が多いんですけれども、これはクラブの活動ですね。その地区の中の活動と、これは国際ロータリーの活動について2面で見開きでやられた例です。これ新聞という古い手段を使ってらっしゃるんですけれども、この辺をスマホで写真を撮っていただくと、そこから動いた画像ですね、声とかが聴けるというような最新のいろんな技術を使って作られた新聞広告です。これは募金活動です。よくお祭りの時にですね、ポリオの募金活動をしたという記事をいただきますが、こんなに大きなパネルを作ってロータリーのポリオの撲滅のことについてご紹介して募金活動をしてくださったというような例で記事をいただいたのでご紹介をさせていただきます。後でちょっとご紹介していただけたと思いますけれども、RIの動画ですね、VIMEOというサイトがございます。vimeo.com/rotary。ここを出してくと、今ここにある画面が出てきます。この709の所だったと思いますけれども、クリックしていただくといろんな映像が次々に見られます。日本語に吹き替えられたものとか、字幕が出ているいろんな活動もここに入っています。これは震災の支援ですね。こういうビデオも入っていますので広報活動ですね。それからまたクラブの中で皆様がどういう活動してい

るかご存知ない方も多いので、そういう例会なんかの時には、ご活用いただけるんじゃないかなと思ってご紹介をいたしました。本当にすごいたくさんのビデオが入っていますので、お役に立てていただければと思います。これは国際ロータリーの方で作っている広報用の素材ということです。ロータリーの友にも載せておりましたので、見たことがあるという方も多いと思いますけれども、こういうものを使っています。ポリオ撲滅まであと少しですね、皆様「あと少し」というこのポーズを覚えていただいて写真を撮って、世界最大のCMというところから写真を入れられるようになっていますので、ぜひ、ポリオの撲滅まであと少しのCMに参加していただきたいと思いますけれども、こういうのも素材もRIで作っています。いろんな著名人が協力をしてくださいました。ただ、今紹介したのは全部古いもので、このところのロータリーのロゴマークが古いものが使われているので、今RIで新しいこういうものを作り直しているようです。これも出来次第またご紹介をさせていただきたいなと思います、これはご存知の方も多いと思いますけれども、2月23日のロータリーの創立記念日に、世界各地の有名な建物でEnd polio nowのイルミネーションをやろうということで、ここ数年やっているものです。今更ご紹介するまでもない有名なところでやっています。上側にあるのは、今度国際大会があるシドニーのオペラハウスです。それから今度、向こう側は、金沢城でございますけれども、2011年の2月23日に日本で初めてお城でイルミネーションをやってくださいました。これはロータリーの友にも掲載させていただきましたけれども、これをご覧になって、これ以降全国のロータリアンの方からお問い合わせがございまして、自分たちもやりたいということで、いろんな活動をしてくださっているようです。日本ですと、なかなかお城ですとか、神社・仏閣は許可が下りに

くいので、最近建ったような有名なビルなどにご協力いただいてやるというのも1つの手だと思います。東京は六本木ヒルズでやりました。これも私、自分で作ってて言うのも何なんですけども、広報活動用に作った小冊子です。16ページほどで、国際ロータリーの活動、そしてそれに対する日本のロータリアンの活動を写真を中心に作らせていただきました。これはですね、会員勧誘用の広報誌ということで「あなたもロータリーに入って新しい風になってみませんか？」というような結びのものなんですけども、ロータリアンになっていただくと、こんな活動をするんだよということを中心に作った広報誌です。今日は残念ながら実物を持ってくることを忘れてしまったんですけども、各クラブに9月号に同梱して送らせていただいておりますので、ぜひ、ご覧になって広報活動のお役に立てていただけたらなと思います。私たちの活動を知ってもらうということで、一般の方から信頼・信用を得ることをでき、それらの人々のより身近な存在になることができるんじゃないかなという風に思います。先ほども申し上げましたけれども、皆様方1人1人全てがロータリーの顔であるということを意識して活動していただくようお願いをいたしまして、次のフォーラムにバトンタッチをさせていただきたいと思います。今日はどうもありがとうございました。(拍手)



フォーラム 「なぜ、今、公共イメージの向上が必要なのか」



コーディネーター	パスト・ガバナー	酒井 正人
アドバイザー	ロータリーの友 編集長	二神 典子
パネリスト	地区広報・IC委員長	堀江 和美
	地区国際奉仕委員長	松原 重俊
	地区クラブ奉仕委員長	宮部 光幸
	地区ロータリー財団委員	出村 知佳子

酒井) 先ほどは二神さんありがとうございました。大変貴重な情報を頂きました。参考にさせていただいて、これから引き続き勉強させていただこうと思います。皆様大変お疲れになった時間帯だろうと思いますがあと1時間ほど、お付き合いいただければと思います。もしお疲れでしたら、皆様一度伸びでもしましうか？どうぞ椅子が後ろにひっくり返らない程度に、どうぞ頭の上で手を組んで後ろの方振り返ってください。私、ボキボキとなっております(笑) それでは1時間頑張っていきたいと思いますので…(会場から笑い) よろしくお付き合いいただきたいと思います。アドバイザーには再び二神典子さんにお付き合いいただき、適切にコメントをいただきたいと思います。パネリストには堀江和美さん地区広報・IC委員長、砂川ロータリークラブです。(拍手)、続きまして松原重俊さん、地区国際奉仕委員長、同じく砂川ロータリークラブです。(拍手)、続

きまして宮部光幸さん、地区クラブ奉仕委員長、札幌モーニングロータリークラブです(拍手)、続きまして出村知佳子さん、地区ロータリー財団委員、札幌北ロータリークラブです。(拍手)。出村さんには、地区財団委員というよりも、以前にWCSの委員長としてご活躍でしたので、その辺でお話をさせていただこうと思っています。肩書はこうなっておりますが、そちらの方になろうかと思ひます。よろしくお願ひを致します。さて、進行と致しまして、私の方で少しコメントをさせていただきます。その後皆様から順次コメントいただきまして、その後にアドバイザーからご意見をいただき、また私、進めて行きたいと思ひますので、ご協力よろしくお願ひ致します。まず、本日のテーマ「なぜ、今、公共イメージの向上が必要なのか」ということで行う訳ですが、この公共イメージ、これは一体どういふことなのか？ということがもっとも大切なことになろうかと思ひます。公共イメージですから、我々ロータリーでは無いわけですね。外からどう見られるか、どう見てもらうのかということになろうかと思ひます。そのためには我々がどうあるべきなのか。逆説的に我々がどうあるべきなのかという事を考えていかなければならない広報は考えられないのではない

か。じゃあ、なぜそれが必要なのかということになるんだろうと思います。全く逆にものを見てみたいと思います。なぜ強いブランドが作れないのか。ロータリーというブランドがなぜ…強いロータリーというイメージを作れないのかということになるんだろうかと思ひます。ここに出てますのが、どちらかと言うと企業の経営に関することが書かれています。ロータリーという名前は一般的には知られているんですね。何をしているかというところかは具体的にわからない。ザ・ロータリーという雑誌は、お金持ちの昼食会と書いてあるものもありましたが、ひどいものになりますと秘密結社かという話がある位な訳です。いかに我々が情報の伝達不足をしていたのかということになります。逆に強いブランドが作れないという事は、ブランドに魅力がない、弱いということになる訳であります。これはロータリーということではなくて、商品の販売、あるいはその会社のイメージということで考えてください。私、ちょっとロータリーから外れて、ここで経営的にものを見たらどうなるかということを書いてあります。ブランドコンセプトが弱い、要するに他者に負けている、これは他の組織と比較していただければいいと思ひます。ブランドコンセプトが弱いという事は、ターゲットがはっきりしていない、お客さんが誰なのか、どういう人に物を売りたいのか、ニュースとしてどんなことが必要なのか、あるいはこれから我々が売ろうとしているものの機能が十分に伝えられていないということが、コンセプトが弱い、他社に負けているということになるだろうと思ひます。それは置いておきまして、これに関しては、ロータリーというのは立派に仕事されていますから、あまり心配しなくていいのかもしれませんが、もう1つ違うところに問題があります。それは2つ目のブランドコンセプトが伝えきれていない、こっちの方が大きな問題になるんじゃないかなと私は見ております。それはメッセージがわかりにくい。ロータリーから流れているメッセージが非常にわかりにくい。先ほど二

神さんがおっしゃっていましたが、奉仕という言葉が一般的ではないよねと。われわれは奉仕という言葉を使っているわけでありまひす。なじみがないわけでありまひす。例えば卓話という言葉1つでも同じく一般の方には、なかなかわかりにくい。辞書変換をコンピューターでしてもすぐには出てこない言葉だと思ひます。その次がメディアに一貫性がない。それからもう一つ大事な事は、そもそも情報の出し方が悪い。あるいは、出すことが少ない。いわゆる露出をしていない。情報が出ていないということであろうと思ひます。私の経験したお話をちょっとさせていただきます。一昨年、インドへポリオのワクチンの投与に家内と行ってまいりました。実は最終日に私、お腹を壊しました。倒れて非常に嫌な思ひをしたんですが、無事に帰ってきて、帰ってくるときに空港に入りました。ポリオとロータリーマークの入った帽子をかぶっていましたが、空港でいろんな方に声をかけられました。ポリオでインドに來たのか、ありがとうということで。短い会話でしたけれども、それをずっとされてきまして、飛行機のチェックインのゲートまで行きまして、そこでも言われて、すごく気分が良くて…このまま日本に帰れるなど思っただけであります。という事は、いかにロータリーはインドでポリオに関わっているかを皆さん知っているんですね。とても素晴らしいことで、私感動しました。そのまま出国ゲートに行きまして、出国管理官に同じことを言われました。ありがとうと言われました。そこで家内は隣のゲートからスッと出たんですが、私ちょっと待てと言われたんです。あなたの職業はなんですか？と聞かれました。デンティスト、歯科医ですと答えましたら、ちょっと向こうが黙ってしまいました。お前は仕事したか？と聞かれました。皆様お気づきだと思ひますが、インドはビザがすごくうるさいんです。ほとんどの方が観光ビザで入っています。業務用のビザは取れないものですから。歯科医だと言いましたら、医療関係者かということ、向こうはビザを取って

いるか？ということを含めたんでしょう。私は気がついたので、すかさず「ただ見ていただけた」と言いました。乗せられてしまって、うっかりととんでもないことになりそうだったんですが、認知度としては非常に上がっておりますね。露出をしているからなんです。これが大切なところだと思います。さて、今日はこれから皆さんと…実際に経験されている地区の委員長、あるいは立派に活動されている皆様にお話をさせていただこうと思っております。それではまず、1 番の問題になるのが公共イメージの向上がなぜ必要なのか？その辺から入っていきたいと思っておりますが、まず出村さんその辺のお話をさせていただけますか？

出村) はい。お願いいたします。公共イメージの向上について、本日のセミナーに参加させていただくことになりました時に、実は 1 番最初に思い出したのは、本日のコーディネーターをしていただいております酒井パスト・ガバナーとの…酒井ガバナー時代のエピソードを思い出しました。月日が経つのは早いもので、数えますともう 6 年ほど前のことになったということで、写真の中の自分が若いにもすごくびっくりしておりますけども、そんな中から、今日は今でも昨日のように覚えていますエピソード、体験ということで、私の方では体験記ということで皆様にお話をさせていただければと思います。公共イメージの向上というのは、私にとっては大変難しいテーマですので、その辺は IC 広報委員長の堀江委員長にぜひお願いできればという風に勝手ながら思っております。さて、その 6 年前なんですけれども、先ほど酒井パスト・ガバナーからご紹介いただきましたように、私、今は国際奉仕委員会ということで変わりましたが、当地区の WCS 委員会、世界奉仕委員会の委員長の 1 年生。初年度ということでした。その頃の…これはチェンマイでの…これも酒井ガバナーとのエピソードのある事業で…チェックダムという小さい堰を 100 も 200 も作ってって洪水を止めていく。その麓で検証ツアーの

皆様と地元の皆様と一緒に撮った写真なんですけれども、そのエピソードがあります。こういった人道支援事業については、タイの 3 地区ですとか、インドネシアの 3340 地区ですとか、相手国の皆様にも大変温かいサポートをいただいておりますおかげで、事業の面では順調に進めていくことができたのではないかと感じておりました。また、その頃当地区には WCS 委員会とは別に、国際奉仕委員会がございまして、広報というのはこちらの方で担当という風に認識しておりましたので、私ども WCS 委員会は、広報活動のことは自分たちの役目ではないというような勝手な思いでおりました。また、今では皆様ご存知の方が多くなられたのではないかと思います。WCS 委員会では、今は国際奉仕で引き継いでいただいておりますけれども、事業に参加していただいた各クラブの皆様と一緒に現地を検証しに行こうということで、検証ツアーをその頃も実施しております。今も隣にいらっしゃいます松原委員長が引き継いでくださっておりますけれども、酒井ガバナーには現役ガバナー年度で大変お忙しい中、そのツアーにご参加をいただいております。その酒井ガバナーがたぶん地区大会が終わられた時ぐらいに、少しお時間が出来たのでということで、毎回 WCS の委員会にもご参加いただきまして、私は小委員会の一委員会にカバナーがおいでになっていただいておりますかということで…遠方でもいらしたので大変恐縮してはいたんですが、もちろんということで函館からいつもご参加をいただいております感謝をしておりました。その中で酒井ガバナーから当時言われた忘れられない一言があります。出村委員長、どうしてこんなにすばらしい活動をしているのにクラブの皆様にもっと広報をしないんだい？といただきまして、私の中では今考えると、まだまだ本当に未熟、今でもそうですけれども…まだまだ未熟でして、素直にそれを受け入れることが実はできませんでした。というのも、先ほどからロータリーの歴史、広報の歴史というお話があり

ましたけれども、私の中でも正直なところ…これをやりました！やってます！というのは、なんとなくあまりかっこよくないようなイメージを持っておりまして、また、私の初恋の相手がムーミンに出てくるスナフキンなんですけれども、スナフキンはいつもみんなを助けて、村に困ったことがあると気づかないところでみんなに手を差し伸べて、誰も気づかないうちにムーミン谷を去っていく。それが幼少の、幼稚園ぐらいでしょうか…私にとっては、ものすごくかっこよく見えておりまして、理想の男性がスナフキンでしたので、私の WCS 委員長スタイルもスナフキンスタイル。それが憧れそのものでした。やはり日本の美学にもあまり多くを語りすぎない美しさというのがあるのかと思うんですが、WCS 事業での人道支援をした本人たちが広報することはスナフキンスタイルから遠く離れて美しくないことのようには思っておりまして。ただ事業報告というのは、やはり委員長ですので、これは義務だと思っておりましたが、やはり今思えば大変恥ずかしい、大変心のこもっていないものだったのではないかと反省していますけれども、事業報告として事務的に報告しておりました。ここにその当時のタイを訪れたときの新聞記事を酒井パスト・ガバナーからお預かりをしまして掲載しましたけれども、この当時の新聞記事やテレビ報道などもかなりタイの皆様は、積極的にやってらっしゃいまして、地元の新聞やテレビにずいぶん取り上げていただきました。このタイのロータリアンは本当に自然に報道機関の方とも付き合い、当然のように取材をお願いして受けていました。今振り返りますと地元政府の方や地元の人とともに事業をおこなっていくためには、ロータリー以外の方達ですね、地元の方たちへのこういった広報というのは、本当に欠かせない…こういった事業には欠かせないものだということと本当に強く感じる事ができて、多くの方に私たちの活動と、先ほど二神さんの方から教えていただきましたが、私たちの活動が私たち以外にも理解されて、多くの地

元のボランティアの方々にご参加いただいて、そういった後方から生まれた活動がロータリアンの仲間を増やすことにつながっているんだなというのを実体験の中で感じさせていただきました。より多くの困っている人たちに手を差し伸べることができるということは、たぶんこれが最善の方法だということとその頃からタイの皆さんはわかっていたんじゃないかなという風に強く感じました。その様子がこの写真になります。そんな中で、まず第一に事業に関わった人が、事業に対する思いを伝えていくこと、それはスナフキンスタイルとお別れすることになるんですが、忘れられないスナフキンのことができるってなんのと言われたときに、「したくないことをすることさ」と答えるムーミンの場面がありますけれども、美しい行動ではないと思っていた広報がその義務の1つですが、実際に事業を立ち上げてそのお手伝いをしていく…子どもたちのキラキラした瞳を見てしまった自分たちには、事業に関わった1人として、それを等身大に伝える義務があるということ強く感じたわけです。また、それがここにつながるんですけれども、国際ロータリーの当地区のクラブの1人としての当然の役割だと思っておりますが、この東日本大震災の発生によりまして、ここから国際奉仕で支援をお手伝いしてきた国の…タイの皆様からご支援をいただく立場になりました。その3340、3350地区のクラブの皆様から今度はご支援をいただくことになったわけです。今年の5月ですが、安孫子ガバナーのいらっしゃる第3グループのすべての皆さん、全クラブの皆さんが福島の当時18歳以下でいらしゃったお子様たちを対象にした甲状腺の検査機器…これはずっとお子様たちを見守っていくことが目的でマッチング・グラントで皆様と一緒に申請をさせていただいて、その贈呈式が実施されまして、その新聞広告がこちらになるんですが、当然3340、3350地区のガバナーやガバナー補佐や会長のみなさんがここにご参加いただいて、今日いらしていただいております2530地区の

佐原元パスト・ガバナーにも大変ご尽力をいただいでご出席をいただきました。その贈呈式に私も同席をさせていただいていたんですけれども、子供たちが万が一の甲状腺がんの発生を検査していき、万が一のリスクを回避していくということがこの目的でしたけれども、この青少年たちを生涯において見守っていくことになる大変有意義な事業であるということ強く感じ、この青少年たちの親御さんたちの大きな心配も軽減してあげられる事業なんだなということを痛感しました。その中でタイの皆さん、ガバナー、会長、3350地区のいつも一緒に事業していただいているソン・ブーさんという方がいらっしゃるんですけれども、この贈呈式に大変感動したと喜んでいただいて、タイに帰られた後にソン・ブーさんがバンコクに住んでいらっしゃるんですが、バンコクの日本人の方にこの話をしたそうなんです。自分ではそんなにたいしたことをしたつもりではなかったと、そしてその話をしたときに大変現地の日本人の方が大変感動なさいまして、ソン・ブーさんの会社の従業員のみなさん全員分のお弁当とお菓子の差し入れが届いたというエピソードがありまして、本当にソン・ブーさんは…僕は別に当たり前のことをしたと思っていて、何も特別なつもりはなかったんだけれども、そういった日本の皆様の…バンコク、現地に住んでいる日本の皆さんのお気持ちで、本当に素晴らしい支援をさせていただいたんだなということを改めて感じて、本当に海外に住む皆さんにも、日本の皆さんにも届けられるという違った角度から広報の大切さと素晴らしさを痛感させていただいたエピソードでした。日本国内の東日本大震災の支援ですけれども、こうして多くの仲間海外の仲間と一緒にすることによって、遠く海外で生活している日本人の方にも届けられ、また

こうして広報が広がっていくのは、とても自然なことでもとても素晴らしいことなんだなということを痛感しまして、先ほど二神さんの方から出ましたように、広報は新聞や雑誌だけだと思っていたけれども、そうじゃないんだなと。こういった新聞や口コミというのも、ものすごいパワーを持ってるんだなということを感じました。また、タイでの事業で、また酒井ガバナーとのエピソードに戻らせていただくんですけれども、伊達クラブさんで以前にやっていただいたバイオガスの事業というのがありまして、こうした食べ残しを投入して、液化ガスにして燃料に。給食室ですとかで燃料にするという事業…最初、今までやったことのないタイプの事業でどうなるのかなと思っていたところ、話を聞いたんですけれども、ここどこだと思いますか？皆さん。設置されている場所の写真がないんですけれども、軍隊の学校…タイは兵役がありますので、北タイの農村の皆さんがみんなここにきて、兵役の期間を過ごされるというわけなんです。そこに設置されたんですね。私はちょっと疑心暗鬼な気持ちになって、どうしてこんな兵隊さんがいっぱいいるところに、こんなのをつけて…何かおかしいつながりがもしかしたらあるんじゃないかとか、浅はかなところで勝手に思ったんですが、そうではなくて、ここに集まってくる学生さんたちは大変貧しい所のお子さんたちで



すので、ここでロータリーが支援したシステムを学んで、各農村に持って帰るんですね。その各農村でこのシステムを作る。そうすることによってロータリーの支援によって皆さん、その支援を持ち帰ってくださることによって事業としてまたさらに広がっていく広報ができるということを、この事業をだからここに作ったんだよということを教えていただいて、本当に素晴らしい、1番効果的な広報を考えた事業、そして効果もいちばん大きい事業の設置場所というのを考えているんだなというのを強く感じた次第です。こうしたことのようにタイでの事業でもいろんなことを教えていただいて、こういった形で知事や現地の皆さんが来てくださったり、ロータリー以外の方が、本当に事業の中に溶け込んでくださって、いろんな場面で登場して下さいます。これも本当に大きな広報の力だなという風に思っております。いろんなところでこういったロータリーのロゴ、子供たちに支援するにも、子供たちは全くこのロータリーマーク、後から松原先生のお話に出てくるので私の方では少しにしておくんですが、この中に大切なものが入っていて支援をした、こういったバッグですね、スクールバッグ。これ多分50円ぐらいでできましたけれども、こうすることって子供たちはロータリーから受けた支援を一生忘れる事はないんだろうなという風に思い、こういった形の広報も大事だなという風に思いました。また、公共イメージ、このように意義ある事業に実際に参加していただくことも大変に重要なことだという風に思っております。以上の雑駁な話なんですけれども、こういった私は実際の事業に携わらせていただいて、皆様のおかげで、お手伝いをさせていただいたおかげで、自分は広報をしているという意識は全然なかったんですけれども、それが広報につながっていたんだなということが今回の機会を頂戴したおかげで本当に強く再認識、再確認をさせていただいた、とても良い機会を頂戴したことを今日は、とても感謝しております。またこの広報の力は、自分た

ちが小さな事だと思ってるんですけども、自分たちが思う非常に本当に大きな効果があるということも体験から強く実感をさせていただきました。大きなすばらしいプラスの力を持った、こういった支援から来る広報というのは大きく広がっていくんだなということを痛感するとともに、逆に今度は風評被害というのもありまして、正しくきちんと伝えなければ、それが間違っ伝わってしまう危険性もとても大きくありますので、私たち、支援事業をお手伝いする者は、それをいつも肝に銘じておかなければならないということも大変強く感じております。従いまして支援事業の構築の際にも真のニーズに本当に基づいたことなのかということを常にきちんと考えていかなければ、間違った広報していく可能性もあるんだということをお手伝いさせていただく立場として再認識しているところです。これはタイの洪水の際に皆様の義援金をいただいたもので支援グッズが入ってます。水が入っていますけれども、ここにも2510地区のマーク、日本の国旗、旗が現地の方に届けられています。最後に今日は本当にまだ終わりではないんですけども、まずこのような機会を与えていただいて、公共イメージがなぜ必要なのかということをも自分自身が1番、今回の機会を通して感じさせていただいて、本当に気づかぬところで、皆さんがより多くの広報を各クラブさんの会員1人ひとりが行っているんだなと痛感させていただきました。こうして支えていただくのもガバナーはじめ、相手国の皆さん、そして今日いらっしゃる福島からの佐原パスト・ガバナーはじめ、現地の皆様のお力をお借りして、こうした広報ができるということを再認識して、痛感しているところです。私のひとまずの体験談からの公共イメージの向上というのはここで終わらせていただきます。ありがとうございました。(拍手)

酒井) 出村さんありがとございます。ちょっと私も忘れたのでお伺いしたいんですが、タイに行ったときの写真の真ん中に、確か日本総領事が、女性の方

が映っていたと思うんですがお名前なんと言いましたっけ？

出村) ヨコタさんです。

酒井) ヨコタジュンコさんでしたっけ？

出村) はい。そうですね。

酒井) ヨコタジュンコさんというチェンマイの総領事が最後写ってたと思うんですけども、実はその時ですね、その時、グループはバスで行ったんです。そうしましたら総領事が私に総領事の車に乗れということで、皆さんと別行動で現地を周ったんです。総領事がずっとダムのところとか、いろんなところを周るんで、その間私、レクチャーしたり、ロータリーの話聞かせてくれということだったんです。実は総領事に言わせますと、皆さんが日本から来ないときに、私は皆さんの代わりにタイのロータリーに顔を出して皆さんの代わりをしています。よくピンとこなかったんですが、それはチェックダムを作るときに一緒に立ち会ったり、物を運ぶお手伝いをしているんですね女性の総領事が。皆さん、チェックダムと言うとピンとこないかもしれません。タイは、すごく洪水が多くて死者が出るくらいのところもすごくあるんですね。それで山の沢にですね、小さな50センチくらいの高さの水をせき止めるための小さなダムを何百も作って、少しずつ少しずつ水を貯めて、鉄砲水を防ぐようにしているんです。それをやっているんだそうです。その時に総領事が私におっしゃったのは、ODAもこういう仕事をしています。ロータリーも負けないうらいやっていますと一生懸命お話をされていました。非常にロータリーを意識しながら、日本の国のことも理解してくださいと、逆に私にレクチャーしてくれたくらいで、そしてその時の写真をご覧になったと思いますが、下に子供たちが座っていたのを記憶されていますでしょうか？高校生位の女の子達。あれは20名位彼女たちがついて歩いていまして、ずっと私たちと一緒に活動見て歩いていきます。だから、これも1つの…若いうちにそういうロータリー活動見せるとか、

ロータリーはこういうことやっているんだよというのを見せるのに、現地のロータリアンが1つの学校から1クラス連れてきたみたいなのですね。そんなことをやりながら、実際に一生懸命活動しております。だから、あの写真を見てましたら6年前なので、私もずいぶん若かったとびっくりしている位です。本当にありがとうございました。後ほどまたお話しをお願い致します。

出村) ありがとうございました。

酒井) 引き続き同じテーマで松原さんお願いしたいと思います。

松原) 皆様こんにちは。地区の国際奉仕委員長を務めさせていただいております松原です。二神さん出村さんと続いて…私は流暢にお話ができないので、ちょっと聞き苦しい点があるかと思いますが、ご容赦いただきたいと思います。

私は、出村さんがWCSの委員長時代に国際奉仕事業に関わった、そういうことが今、私がここに国際奉仕委員長で座っているひとつのきっかけになっています。出村さんの国際奉仕事業に対するいわゆる想いの強さ、それと検証ツアーに参加してタイやインドネシアの子供達に直接触れてその笑顔をもたらしたこと。そしてもう一つは現地のロータリアン。そういう方たちとの交流。何気なくその事業にだけとらわれてしまいそうになるんですけども、現地のロータリアンとの交流、これも私が今こうして仕事ができているひとつの大きなきっかけになっています。さて、テーマにもありますけれども公共イメージの向上がなぜ必要なのか。しかもこれが国際奉仕委員会とイメージの向上。ひょっとして皆さん、「どう結びつくんですか？」と思う方いらっしゃるんじゃないでしょうか。私たちの行っている事業は、すべて人道支援の事業として限定しています。人道支援事業を行っていることが公共イメージの向上につながるのではないかと。そういう視点で今日はお話をさせていただきたいと思います。出村さんからWCS時代のお話をさせていただきましたので、私

は出村さんから引き継いで、最近の国際奉仕事業についてのお話をさせていただきたいと思います。今日はまた地区内の要職を担っていらっしゃる皆様に参加していただいておりますので、私の委員長としての勝手な思いではありますが、なかなか私たちの事業をこういう場で見ていただく機会は少ないので、今日は私にとっては地区国際奉仕委員会の紹介という側面があることは、私が今日ここにいるということでお許しをさせていただきたいと思います。まずここ、私が卓話とかをする際に、最初に出てくるのはこの写真です。私、ずっと国際検証ツアーに参加させていただいておりますけれども、何千枚ある国際検証ツアーの写真の中のベストワンの写真がこの写真です。これは私が初めて国際奉仕の委員長として…インドネシアのジョクジャカルタでの写真です。出村さんに撮っていただいたものなんです。これは後ほど…実はノートが写っているのを皆様お分かりになるでしょうか。女の子が持っているノート。これを次のテーマの時に話しさせていただきたいと思いますが…これが私のベストショットです。それで、なぜ必要なのかということで、申し訳ありません。さらっと行きますので、まず国際奉仕の事業というのは、皆様各クラブからの申請あって初めて成り立つものです。昨年度は31のクラブから申請をいただきました。それで、この申請いただいたものを実は取りまとめるのが、私たちの地区の仕事です。たとえばここにある…皆さん一番下の所にあります…ここ。このどの事業も皆さんからの支援、クラブの支援、2万円もあれば、3万円もあれば、5万円も10万円もあります。例えば水の浄水装置、30万円掛かります。それをどういう風に作って構築していくかということが1つの問題になって、ここにもあります、クラブの名前が列举されていますけれども、各クラブの皆様が集まって、そのお金と地区の資金が集まって、1つの事業を行っている。そういう形をとらせていただいています。1つずつ紹介させていただきます。まず水事業なん

ですけれども、これは私が初めて訪れたインドネシアのジョクジャカルタ。皆さんご存知だと思います。なぜ孤児院なのかスマトラ沖地震で…多分日本でこんなにひどい津波が思ってもいなかった私ですけれども、最初に津波の映像を見たのは多分このスマトラ沖地震で…テレビであんなにひどいんだという映像を見た…それが1つのきっかけだったと思います。そういうことで孤児がたくさん出た、その孤児院に浄水装置を送ろうということから始めました。これがその装置です。これは日本から持っていくものではなくて現地調達ですので…これは私が写っています…実は砂川ロータリークラブとジョクジャカルタロータリークラブの設置の第一号であったということで今日はご紹介させていただきました。これは私たちだけがやっているわけではありません。現地のロータリークラブとの共同事業であるということです。これがインドネシアのジョクジャカルタ浄水装置。それで、この時に…後ほど、次のテーマでお話をさせていただきます、クラブとしての役割という部分でノートを持参したということがありました。そのときの実はベストショットだったんです。これは第3350地区のタイのアムナットチャロエンの浄水装置です。だいたいこれは15万円ほどでできるものです。見てもわかるとおり、右上にタンクがありまして、これでポンプアップしたものをここに貯めて、それを使うというフィルター方式です。皆さん、「これは使いっぱなしなのか？」と思われるかもしれませんが、設置は私たちが当然していきましても、メンテナンスはきちんと現地のロータリアンとその学校の方できちんとしてくださいねという風をお願いをしております。これも実際、右の上にある…これが昔のタンクで雨水をためて飲んでいるという形。たぶん皆さん考えられない状態だと思います。でも私、実際に飲みましたけれども1回もお腹を壊したことがない位きちんと浄水されているんだと私自身が確認しております。そして、これが3340地区のタイのノンカイの浄水装置で

す。必ずここにあるようなセレモニーがあって、現地の皆さんと交流しながらしていく形になっております。それで、「祝・完成予定」と書いてありますけれども、実は当地区とタイの国でも…今は3つの地区でやっておりますけれども、最初に始めたのはノンカイになるのですが、その後ずっと継続して水事業をやってきて…正確では無いのかも知れませんが、現在、実は62校位の小学校にこの浄水装置を設置させていただきました。なぜ小学校なのかということですが、皆さん日本でも同じです。コミュニティのある程度中心であろうということで、実はこれは生徒のためにというのが本来でありますけれども、先生や地域住民の方も利用してくださいねという大きな広い目的を持っております。ですから集落250人とする、62校で1万5000人位の命の水になっているということです。実はあと残り10校程度になりました。ここまでやってきました。先週ですね、皆さんのクラブの方に昨年度の地区協議会の後に申請をいただいたクラブは別ですが、実は事業の募集のお願いの案内をさせていただいてます。その案内はこのノンカイ地区の浄水装置にある程度限定をさせていただいてます。目的等はそこに入っていますのでお読みいただいて、賛同できる方はあと10校ですので、なんとかこれを完成させたいなど私は思ってます。ご協力できる方はよろしく願いいたします。先ほど言いました、生徒336人で住人2979人の水になっているということ



です。これは5つの小学校でもこういう風に成り立つという形になっています。次はトイレ事業になります。トイレもやはり衛生環境。タイはいわゆる水洗です。旧トイレと新トイレで何が違うの?と思われるかもしれませんが、やはりきれいなところで衛生的に使えます。それも大切な1つであるとしてトイレ事業も行っております。こういうイメージです。次に識字率の向上ということで図書館事業もやっておりますけれども、タイのバンコクロントイロータリークラブとの共同事業でアムナットチャロエン。行ったら必ずこういう子供たちの踊りを見せていただいたり、現地の人たちが出迎えてくれます。これは図書館の中です。パソコンあり、DVDあり、そういう環境の中で子供たちはその文字に、あるいは英字に親しむことができます。特に皆さんこれきれいですよね。こういうイメージです。これが今回初めてだったんですけれども、タイのノンカイで図書館事業を始めました。今年度で完了していると思いますけれどもその時の写真です。それともう一つインドネシアのジョクジャカルタ。インドネシア…みんなそうなんですけれどもタイのバンコクも見てると、あるいはインドネシアのジャカルタを見てると、ほぼ東京と同じですよ。多分なんでタイに支援するのと思われる方もいらっしゃるかと思います。ここに載ってくるような学校とかは、本当に観光客はまず行くことがないだろうと。本当にバスで何時間もかかるようなところ、あるいは山だったり平野の部分になります。その中で出会ったのが、実は自分の家を図書館にしちゃっているスマントさんというおじさんがいました。しかもですね、これ三輪バイク。これも自前ですけども、後ろに本を乗せて巡回をして見せるという、多分日本にも…今でこそないかもしれませんが昔ありましたよね?そういった形を実際に自分の私費を投じてやっているという形の方にも支援をされていたような面がありました。それと、これもノンカイですけども自転車事業というのがあります。実はバスで

行く過程の中で道も無いようなあかりも無いようなところに小学校がある場合があります。本当に考えられないくらい長距離を通学で使っている子が実はいて、そこに自転車があったらいいんじゃないかというのがありまして、自転車事業というのを始めました。まだまだ台数が少ないんですけどもここに載っている子供たちに作文などでいろいろ書いてもらったものから審査をして、実際どの子に自転車を使ってもらえるのかという形で行っております。それと奨学金事業。こういう事業もやっております。成績優秀な子に対して勉学に利用してもらおう。でも、皆さんお分かりの通りお金をあげてしまったらどうなるでしょうか？当然親が使って終わりになりますので、その辺の管理は先生方にきちんとしていただく形でやらせていただいております。これは、先ほど出ていましたので詳しくは言いません。チェックダム。いわゆるこういうイメージです。当然日本にもあるかと思います。ここに載っている青だったり四角だったり、これが堰になります。こういう流れを止めながら、流れを緩めていくという形。これは実際作業している方。すべてボランティアの方たちです。実はここ、私がはじめていった時。これ出村さん…私たちが行ったメンバーがいるんですけども、最後のチェックダムの完成、ここのチェックダムは完成だよという部分で実際にセメントを練り、ぎこちないやり方なんですけれども、それで作ったという経験させていただきました。そのときに感じていたのは、先ほど出てらっしゃいましたヨコタ総領事、総領事って私の知っているイメージでは、すごい雲の上の人がこういう場面で出てきてくれるんだな、やはりこの事業というのは長時間がかかるんですけども、すごい意味のあるものなんだなということ感じる事ができました。今はですね、ただの堰ではありません。それはなぜか。貯水のためです。あそこは雨期と乾期がはっきりしていますので、雨期の間に水をためると皆様どうなるでしょうか？実は、この子供が作ったお土産でありますよ

ね。仕事がないんですよ。でも、ここに貯水ができて農作物が作れば、そこでいわゆる自炊、自分で生活ができますよね。そういう意味でチェックダムは洪水だけでなく、補水という意味でも役に立っている事業になっています。さらに私、初めて行って、観光という時間があつた時に実は、お寺に現地のロータリアンの方に連れてっていただきました。いろいろ作法はあるんですけども、たまたま行った時、とても偉いお坊さんだったらしいんですけども、チェックダムと一緒にやっている日本のロータリアンなんですけれどもと言うと、「本当にありがとう」と声をかけていただきました。「ああ…こういうのはみんな知っていて、それが日本のロータリーがこうやってやってるんだな」ということを本当に私、初めて行った検証ツアーの中で体験させていただきました。それとアムナットチャロエン。実はこれ皆さん数年前、日本の企業が洪水に合って、とても大変なことになるのを覚えてらっしゃると思いますけれども、その時、医療機器もダメになってしまったものがあります。その中でこういう医療機器、人工呼吸器などを医療支援で送ったのもやりました。そして先ほどのタイの洪水支援です。ということで、ここまでなんですけれども、実は先ほど、「マイナスのイメージにならないように」ということで出村さんがおっしゃっていただいていたいました。私、委員会として最も大切にしているのは、とにかく必要なことを、必要な人道支援事業をするということ。それともう一つは、どっちが上とか下とかではなくて、お互いに共同のパートナーとして事業をしているということ。私はそういう気持ちで、いつも行った先でも楽しく現地のロータリアンの皆さんと過ごさせていただいてます。これが公共イメージとのつながりになったかどうか…これは酒井さんにも振りたいと思いますけれども、私の話は一回ここで締めさせていただきます。ありがとうございました。

酒井) まずはありがとうございます。皆様お気づき

になったかと思いますが、松原さんの映像にもそれから出村さんの映像にも子供たちがよく映っていますね。これは現地のロータリーとマッチング・グラントで仕事をしている訳であります。いかに現地のロータリアンが自分たちだけの事業だけではなくてニーズにあった未来の世代に伝えていくかということ意識している形ではないかなと。非常にあちこちで子供たちを巻き込んでくるんです。非常にこの辺は上手かなと思っております。ここでちょっと一言、遠藤パスト・ガバナーに振ろうかと思ってるんですが、実は遠藤パスト・ガバナーもこの事業に参加しておりまして、嫌々ながら水を4回ぐらい飲んだと言う話を聞いていますので、ちょっと一言だけでも感想をいただければと思います。

遠藤 私も初期の頃でございますけれども、水事業で行ってまいりました。その時に4校…小学校4校でしたね？出村さんね？それで4回。地元の正門にありまして、まず最初に水を飲めと言われる訳です（笑）周りを見渡してもみんな私の方を向くものですから、思い切って飲みました。だけれども4日間とも無事に下痢もしないで済みました。タイのお酒も入っていただいたのかもしれませんが。中から消毒もさせていただいて、そして無事に帰ってまいりました。そして松原さんも大丈夫だったということでございますので、皆さんどうか安心して、タイに行かれた時には、ノンカイでもきれいな水を飲んでいただけるもんだと思っております。また、その時の印象としては、非常に、今お話出ていましたように子供たちの表情、これが日本から参りますと非常に生き生きとした目をしてしています。こうも違うもんかという印象を持ちました。やはり、貧しくても夢を持っている子供たち。そういう目標を強く持ってまいりました。WCS事業というのは非常に大切だということを体験させていただきまして、また、子供たちの輝く目を見て、やはり世界のこれからの発展ということも強く感じてきたということを一言申し上げさせていただきます。ありがとうございます

した。

酒井 先生ありがとうございました。（拍手）ニーズに合った仕事をする。すなわち、それ自体が地元浸透していく大きな広報活動だろうと思います。水事業では、その学校だけでなく周りの住人たちが感謝をする。そして、それと一緒に集まってきて「ありがとう」と言う。私の経験としましては、その時お坊さんが来ました。そして「ありがとう」と言って手を合わされたときにはびっくりしました。要するにその現地に合った、ニーズに合った事業が浸透していつている姿というのが、これは、新聞やテレビなどそういうものではなくて直接的に広報という活動がされている姿の一つの例だと思って、私は見てきた訳であります。さて、堀江さん、IC委員長として少しまとめた話をお願いします。

堀江 なぜ、今、公共イメージの向上が必要なのかということについて話せということだと思いますが、先ほど出村さんとか松原さんが言っていた、すごい事業をいっぱいやっているんだ、すてきな事業をいっぱいやっているんだいう風なことがまず一つ認識としてあると思います。それと誰に伝えるのかということになると、1つはロータリアン。今日みたいにロータリアンに伝えること。それからロータリアン以外に伝えること。ロータリアン以外と言えば、例えば入会見込者とか寄付者とか戦略パートナーとかという方々にどうやって伝えるかということで、今日の話は、きっとこちらのロータリアンの方々にどうやって伝えるかという話かなと感じております。認識としては先ほど言いましたように、ロータリーは100年以上にわたり、会員の職業の知識やスキルを活かして、素晴らしいストーリーを作っているんだということが大前提だと思います。ところがですね、このようなロータリーの活動は、一般にほとんど知られていないんじゃないかということになります。私ですね、難しい話を難しく、やさしい話を難しく、それから知識の無さをシンプルという風に変えて話すものですから、私の知識の無さは

すべて単純という風なシンプルということで、簡単に言ってきますのでご容赦願います。それでどのような活動すべきかという風なことで、クラブの活動を地域社会に伝えること。それが第1点。ロータリーが世界に与えている影響やロータリーの価値観を社会に伝えること。それがどのような活動をすべきかということだと思います。効果として、まず一つはロータリークラブに対して人々が抱くイメージが好ましいものであれば、積極的に活動しようとする会員のモチベーション、ロータリアンとしてのモチベーションが上がる。「俺たち良いことやってんじゃん」とか「みんなから認められてるじゃん」とか、そういう風な葛藤があるのかもしれない。それが第2点。そしてそれを見て入会者が増加すれば良いな、あるいは入会者が増加するだろうという風なことで、公共イメージは、もっともっと伝えていかなければならないのではないかとこの風に単純に考えております。以上です。

酒井) ありがとうございます。アドバイザー、ちょっとご意見をいただければと思います。

二神) はい。今、皆さんのお話を伺ってきていて、1番最初のキーワードというのが、皆さんやはり素晴らしいなと思いました。それは、ニーズだとか、必要だということが何度も何度も繰り返して出てきましたけれども、やはりここが公共イメージということでは1番のポイントになると思います。それで、ロータリアン同士でですね、タイだとかそういうところのロータリアン方と繋がりというのも活動しているうちに出てきますけど、それでタイですとか外国のニーズがわかるということですね。ニーズにあった活動ができるということ。地域社会では、やはり地域社会の伝統があるんですけども、ロータリアン同士はもちろんですけれども、いろんな方とお付き合いされる中でそういうニーズを拾えるようなネットワークという

のをたくさん作っていただきたいなと思っている。というのがひとつです。それで、ロータリアンの仲間を増やすということが、今できてましたけれども、さっき出村さんの話の中でも東日本の活動、少しご紹介いただいてましたけれども、実はロータリーの友には、今の会員数と1年前の会員数を並べて書いてあるので、お帰りになった後読んでいただければいいかと思いますけれども、ロータリーは、1、2、3と3ゾーンありますが、前年度会員数が増えているのはこの第1ゾーンだけです。特に会員数の増加を稼いでくださっているのが、今日は、佐原パスト・ガバナー来てらっしゃいますけれども、この福島。そして、岩手と宮城県というこの震災に遭われたこの3地区が実は会員数が1番増えています。それは、いろんな所からたくさんのロータリアンが来られて支援をされていたこと、そして、何よりも地元のロータリアンの方が守って、震災のいろんな復興支援、いろんな手助けをされたことを地域の方が見ていらして、それがやはり会員増強につながったのではないかとこの風に思います。わざわざいろんなところに、新聞だとかということもありますけれども、もちろん新聞やテレビにもロータリーの活動が地元で紹介されたと思いますけれども、やはり何よりもそういう活動を見ていただくということが大事なのかなと。それが実際の数字として現れているなど思いました。

酒井) はい。ありがとうございます。ロータリアン



の姿を見てもらうこと。これが最大の広報のひとつだということですね。ありがとうございます。そして、ちょっとテーマを代えさせていただきます。国際ロータリーあるいは地区、クラブの役割とはどんなものなんだろう、どんなものがあるんだろう、そしてイメージ向上の具体的な方法はどんなものがあるんだろうかということで、テーマをちょっと代えさせていただきます。宮部委員長、その辺からお話をいただけますか？

宮部 今までお話し頂きましたその国際領域と、私の話は若干違っておりまして、過去4年間、CLPというものやってきているわけなんです。今年度、安孫子ガバナーとですね、一体ぜんたいどうしましょうかね？と話をしましたら、安孫子ガバナーという方は商人ですから、1回棚卸しをしたらどうだろうと、地区の棚卸しをしてみたらいいんじゃないかというお話をいただきまして、私ですね、7月に皆さんから出されている効果的なロータリークラブとなるための活動計画の指針という10ページのレポートを出されましてね。あれをですね、ガバナーの方に届けられたんですけれども、事務局の佐藤さんにPDFにしてもらいまして、こんなものがいっぱい入ってるんですよ。これを全部集計しました。そうしましたらですね、いろんなことが分かってきて、例えば、今日お話しになっているベースには、地域の奉仕はどうなっているかという根本的な問題としてあるんですね。それは地域でロータリークラブが住民の方に支持されているかどうかという指標があるんです。それをチェックしましたら、現在回答が71クラブ中、そのうち67クラブの回答が出てきています。奉仕プロジェクトの総数は全部足しますと150あるんです。それを67で割ると、1クラブ当たり2.2プロジェクトやってるんですよ。1クラブが平均で2.2ですよ。無回答もありますから。そうするとですね、1クラブが2.2プロジェクトやってるということは、どういうことなんだろうと、私が勝手にイメージしますとですね、私は、モーニン

グロータリーというクラブなんですけれども、たったひとつのプロジェクトでもものすごい労力と時間がかかることです。それを今、2.2プロジェクトやっているというのは、私の目から見たら、「2510地区やってるじゃん」と、こういう感じですよ、正しく。全然やっていないんじゃないくて、やってる。私はこう見たんですね。その内訳はですね、87が職業奉仕・社会奉仕、それから37が青少年。それから国際がこのデータでは28。さっき松原先生の細かいリストがありましたけれども、28あるんですよ。そういう状況で、その奉仕の中身を見ますと、これはもうロータリークラブ以外できないなというものをたくさんやっているんですよ。例えば寡婦。まあ未亡人ですね。そういう方の支援がとか、札幌からうんと離れているからどうなんだと言ったら、そこは本当にそれをやらないと地域の文化が成り立たないよというようなこと。例えば、小中学生の器楽演奏のコンサート自体を主催しているとか、本当にロータリーならではのことをやっているんですよ。それに対して、別のデーターをチェックするとですね、今度広報が…その各クラブがいくつ位自分の所で広報をやっているかと思っているかという解答があるんですね。それはですね22なんですね。150のプロジェクトをやっていて自覚症状のある広報活動は22。その打率は1割5分です。だから、打率1割5分の広報活動というのは、広報活動として多いんだろうか、少ないんだろうかということです。さっき、お昼ご飯終わった後に二神さんに質問したら、「うーんそれは多いんじゃないの？」と。そうするとですね、ちょうどですね、今日のここで話をされているお話というのは、私の目から見たらある種の領域の広報活動の話をしていると。こういう風に見えるんですよ。その中の国際領域。その国際領域の広報活動が各クラブでどうなってるんだろうかと。こういう話に私には聞こえるんですよ。だからそれは1963年のRIの奉仕に関する国際化。国際的な社会奉仕をするという、こういう方向転換がありました

けれども、それを現在各クラブはどのように捉えているかと。こういう領域のディスカッションをしているだろうと、私は勝手に思ってしまうんですよ。それは当然言って然るべきだろうし、やることなんでしょうね。それは大変重要なことだと思います。ただ、ここで私がクラブ奉仕の視点から見ると、それを資金的な援助、もしくは、その職業を割いてまでの国際支援というのには、出来ることに限度があると見てまして、やはりたくさんの日本国民、日本の市民が自分たちができる国際的な支援をどう考えるかと。その国際的なものに対する市民の目を開かせる領域の話になるんだろうなと思っているんですよ。そうした時に、私、実は日本以外のロータリークラブの活動をたまたま垣間みることがあるんですけども、例えば、ボスニア・ヘルツェゴビナで戦争をやっていた時に、ロータリークラブが小学生にこの手のペットボトルに、こうやって穴を開けさせて、それでロータリークラブが走らせて、市民からお金を集めてボスニアに送ってるんですよ。ということは、お金があって、資力があって強い人が支援をするというのは、もちろんできることなんですよ。弱いものが弱いものに支援する。それが非常に訴える力が見えるんですよ。やはり、今ロータリーに問われているのは、今この日本でこれ以上の福祉と贅沢をするんだったら国際奉仕。こういう視点が公共的なイメージの中に入ってくるのかなという風にクラブ奉仕の目から見ると見えると思います。誠に勝手に本来の趣旨と全く違うんで恐縮でございますので、一旦これでやめさせていただきます。失礼致しました。

酒井 ありがとうございます。(拍手) ちょっと時間が迫ってきたので、ちょっと駆け足で行きたいと思いますが、確かに国際奉仕に偏っているという見方ができると思いますが、実はこれはサンプルだという風に皆様お考えください。ここでお話しされていますのは、皆さんいかに地域に合っているニーズで、地元で広報活動ができるかというサンプルを出

したに過ぎませんので、これはご自分の地域社会でどんなことに当てはまるのかとか、それはもう皆様賢明な皆様ですから、それを応用していくのは皆様の力だという風にお考えいただければと思っております。私の仕事としてはたまたまパネリストを務めていただく方々が、国際奉仕に関わった方がたまたま多かったので、最初のお話としましては、そちらに少し偏った方向に向いてるかと思っておりますけれども、実はそれは、ごく皆さんの身近でも起きている、ご自分のクラブの側で起きていることに置き換えて、そういう活動を応用できないかという風に捉えていただきたいなと思います。申し訳ありませんが、ちょっと時間が来ておりますので、すこし時間を走らせていただきます。松原さんどうぞ。

松原 はい。すいません、多分私がすごい時間を使ってしまったので、端折りたいと思います。まずクラブの役割ですけれども、皆さん当然のことながら地域密着で、先ほどノートというお話をしましたがけれども、私はこのノートをロータリーのメンバーだけが作るのではなくて、幼稚園、保育所、あるいは地域の社会教育事業、ありとあらゆるところをお願いをして、実はノートを作ってもらいました。ここに出ているのは書。書道家が書いたノートです。こういう 56 冊集まりました。ただここに書いてあるのは、実は書だけではなくて、必ず相手国へのメッセージを入れてください。タイやインドネシアの子供に対してメッセージを入れてくださいという形をお願いをしたり、こういうリーダー講習会の中で、これは実は落ち葉を使った塗り絵というか…落ち葉に色を塗って貼って作ってもらったものです。あるいは、保育所の皆さんに作ってもらったり、これは作品です。それとロータリーのメンバー。これは実は貼り絵の部分は、当時の山田会長に奥様と作っていただいたものです。先ほど写っていた写真です。これは役所と教育委員会、あるいはうちの歯科医のスタッフに作ってもらったもの。実はですね、447 冊というとても数が出来上がってしまいま

したけれども。重さは 50kg 位。これをどうやって持って行こうかというのが実はありました。これを一旦メンバーの皆様に割り振ってですね、私のスーツケースは超ヘビーだというレッテルを貼られていた記憶があります。帰りのスーツケースが軽かったこと。本当に安心した思いがありました。それとこれは五稜郭ロータリークラブさんの作っていただいた紙芝居ですね。この紙芝居は地元の高校生が作ってくれたんです。それをプレゼントしたことを覚えております。ある意味これが地元の密着であり、私たちがやっている事業を理解してもらう 1 つではないかなという風に思っています。そして、まとめに入りますけども、各クラブのまとめとして、やはりこういうプレートを必ずどんなものにも付けています。それは当地区、相手地区、それとこれはたまたま身近にある砂川でやった事業なんですけれども、砂川ロータリークラブという名前があるし、ロータリーマークも付いています。これは苦小牧さんはじめ、こういう形で参加したすべてのクラブが載っているということ。これは全てです。これもチェックダムですけれども、これもロータリークラブ札幌はまなすさん等を含めてのものが載っています。実はですね、なんでこの写真がここにありますかという、国際大会の通訳、日本語を学んでいる学生に通訳を、タイの大学の日本語学校の学生にお願いしたときの写真なんですけれども、本当に明るい元気な子たちで日本が大好きなんです。こういう子たち。男の子が写っていて、彼にはとってもお世話になったんですけれども、北海道が大好きでキッズキャンプなどで北海道にはずいぶん…東京芸術大学に 1 年間の留学の間にずいぶん来ていただきました。これを通して感じたことは、今まで物資のことだけの交流というのは、ありましたけれども、私のその国際奉仕委員会というのは、やはりタイの皆さんとの心の交流もできるんじゃないかなと。こういう子たちと交流する上で、それもとてもしました。その通訳をしてくれた子が日本との架け橋役になってくれ

ればいいなあということを物資だけではなく、心のつながりもたいせつだなということを委員長として感じた所です。以上です。

酒井) はい。ありがとうございます。先ほど私が所属しております函館五稜郭ロータリークラブの話も出ておりました。会長、幹事も今日みえております。目線が合ったところなんですけれども、クラブのことなので、ちょっと私、話をさせていただきますと、いわゆるロータリアンが奉仕するだけではダメなんだと。たまたまこれは国際奉仕なんですけれども、要するに地元の子供たち、いわゆる高校生たちにも手伝ってもらって、紙芝居を作るんだけど何のために作るのか。それを学校に行って説明して、子供たちに理解をしてもらって、そして作ったものをたまたま持っていった。これは他の事でも良いわけです。どんなことをやる時でも地元の人に協力をしてもらう。協力をしてもらうということはその事業を理解してもらうきっかけになる。そういうことが少し現れていたお話だったのかなと思って、たまたま私どものクラブのことだったので、付け加えさせていただきました。ありがとうございました。駆け足で行きました。堀江委員長、またちょっとまとめの形で。

堀江) 今のテーマは役割とイメージ向上の具体的な方法ということですね？

酒井) そうです。そうです。

堀江) まず役目ということですが、ロータリーが世界に与えている影響やロータリーの価値観を社会に伝えること。ということは、もしかしたら、クラブよりも地区の役目なのかなと。これは、「やるな」という話ではなくて、どちらかというと地区の方が大きいなと。クラブの活動を地域社会に伝えることというのは、クラブの方が大きいかなという考え方をしております。例えば、クラブの活動を地域社会に伝えることことで出村さんとか、松原さんとか、私が大震災の方をここ 2、3 年やってましたので、その中の事例を受けますと、福島キッズキャンプに、

北海道 2012 年春編というのが…たまたま STV で取り上げられました。これは著作権に関わりますので、ここで放映できませんが…。(STV が小樽を訪れた福島県の小学生を取材したキッズキャンプの動画) 例えばこういう、先ほど二神さんが古いんじゃないの？とおっしゃっていたマスコミに取り上げられたりですね、例えば、これは新聞編なんですけれども、夏編の方はこういう風にして新聞記事になっていたりですね。南相馬の少年サッカー。第 2 グループでやったんですが、それがこういう風にしてマスコミに取り上げられていたということで、「結構出ているな」と感じています。ということでクラブの奉仕活動の PR は及第点じゃないかと、私はさっきご飯を食べるまでは思っていたんですが…酒井パスト・ガバナーに「ちょっと違うんじゃない？」言われましたので、どうぞ反論をお願いします

酒井) いえ、私が反論しないで…二神さんがコメントあるそうです。

二神) ちょっと画面を出していただけますか？これは実は千葉で行われた模擬国連。子供たちがやった模擬国連の様子なんですけど、これ実際に取材している所を取材しました。地元の千葉テレビさんが取材してくださっている所なんですけれども、やはり地元のテレビ局とか新聞社もそうですけれども、ニーズに合った活動をされていたら、こうやって取材に来てくれると思います。ちょっと時間が無くて恐縮なんですけれども、コツを言いますと、これ実はですね、この国連の子供たちの参加者を千葉テレビを通じて募集をしました。その責任上、結果報告をしなければいけないので、千葉テレビがニュースやら地元のワイドショーで扱うということで取材に来てくれたという広報活動の一つの成功の事例だかなと思っていますけれども、テレビ、新聞、古いと言いましたが、こういうことを巻き込むということもとても大切だと思いますし、実はロータリーの友では、全国の新聞、雑誌を「ロータリー」と付くと、全部切り抜いて送ってくれるというシステム

を…結構高くつくんですけれども、これで情報収集をしております。皆さんが思ってたっしやる何倍も何十倍もロータリーのことは記事になっています。そのこともちょっとご報告させていただきたいなと思いました。

酒井) ありがとうございます。マスコミ、いわゆる広い幅に伝えるということは、メディアの機関で取り上げられる、それを評価する、評価されなければニュースにならない。要するにロータリーがどう評価されているかという指針には、すごく役立つので…私もそう思います。

二神) そうですね。大事なメディアだと思います。

酒井) はい。ありがとうございます。それでは、「リソースについて」に行きますので、堀江さんいいですか？続いて…

堀江) はい。リソースということで、ひとつはですね、ロータリーについて、きっと理解しないといけないなということがあります。それで、ロータリーとは？ということで、皆さんきつとご存知のこの有名な…これですね(画面を示す)

それよりも今日の屋にまた有名になったのは、酒井さんの作った「ロータリーって何ですか?」。こういう雑誌がございます。この画面のものより、数段良いです。

酒井) ありがとうございます。

堀江) ということで、これを読むよりは、こっちを読むと、一般に伝えるにはこういうことなんだなということで素晴らしい事例になるなという風なおべんちゃらです(笑) あと、いろんなリソースがありますが、ロータリーを理解しようということで、いっぱいあがっていましたが、ロータリーの再発見。奉仕と友情の輪を広げよう。これはどちらかというと、自分たちの知識を増やそうという風な意識です。これをそのまま広報にするかということは、全く違ったことだと思っています。内容については後から…それから先ほどですね、二神さんがおっしゃっていた、これがロータリーを生き生きと表現しようとい

う風な話で、これちょっと詳しく少し触ってみたいんですが、こういうのもありますね…これがですね、今年の…さっき、あの～8月の…

二神) 26日ですね。

堀江) 26日にオープンで、その1週間位後でしたか？

二神) いや、同時に出ています。

堀江) 同時でしたかね。それが出ています。さっき、二神さんがおっしゃったように、マイロータリーから入るということを教えていただきましたが、ところが実は2510地区は資料集ってございまして、あまり皆さん使っていないんですがそこには載っています。

二神) それが良いと思います。

堀江) マイロータリーからは、皆さんほとんど入っていきませんので、2510の資料集というwebページがあるんですが、その中にこれをアップしておきますので、見てくれればなと思っています。それと、クラブで…皆さんご存知だと思うんですが、クラブの広報委員会の手引きとかありますので、そこら辺を参考にさせていただければなという風に思います。

二神) クラブ広報委員会の手引きなんですけども、このブランディングで変わっている部分がたぶん反映されていない…

堀江) いまですね。はい。

二神) はい。実は今年度のものだけでなく、次年度も反映されていないようですので、これを見ていただいた方がより良いかなと思います。

堀江) ありがとうございます。それで、この中で行く…伝える方法として、ロータリーを生き生きと表現しようということで、「はじめに」、それから「視覚的デザイン」、「ロータリーとは何か」、「視覚的要素とボイスを盛り込んだ作品」という風な4つのことが書いてあります。そして、さっき言ったロータリーの基本色はこんなものだよと、4つありますよ。ロータリーのブルー。この色の下の方に書いてあるRがなんぼだとかいうやつが、RGBと言って

コンピューターでの色の混ぜ方だよとか。という風なことが書いてあったりということですかね。それで、あとロゴは、ロータリーという字の右側に合わせるとか、右揃えをなさいとかそういうことが書いてあります。

二神) ロータリークラブ名が長いクラブは大変だと思っんですけども、RCとまとめないでロータリークラブと入れるということなのでお気を付けください。

堀江) それと先週ですかね？ロータリー・クラブと昔入っていたんですが、「・」を入れないでくださいねという発表もされていますのでお気を付けくださいということでもいいですね？

二神) はい。それで結構です。

堀江) それでいろんなこういうテーマがあるよと。あと、さっきこういういろんなメディアがありますよと二神さんの方からありましたが、具体的には例えばこういうビデオが何種類か用意されています。昔は簡単にダウンロードができたんですが、最近はちょっとテクニックがないとダウンロードが中々しづらくなっています。

二神) さっき紹介したvimeoからですと割としやすいんじゃないかと思います。

堀江) メディアセンターの方が難しいですよ？

二神) メディアセンターは難しいので、こっちの方が、vimeoの方がおすすめだと思います。

堀江) vimeoの方でお願いします。あと、同じことでオーディオですね。(音声を再生) こういうのがほとんど30秒位でありますので、メディアの方に持ち込んでやることもできる可能性も高いです。

二神) これはオーディオになってますけれども、確か絵もあると思うんですけど？

堀江) あります。はい。

二神) はい。そうですよね。

堀江) これは一応、音だけのもの抽出したものです。

二神) この台詞で確か絵の入ったものもあると思うんですけど？

堀江) あります。はい。そういうことでリソースはこんなものかなという格好ですね。

酒井) ありがとうございます。大変駆け足だったので、情報を取りきれないところもあるかと思いますが、どうぞ私どものクラブには、堀江さんという素晴らしいノウハウを持った委員長がおりますので、わからないところは、堀江さんにメール等を送ってどんどん伺って、情報をもらってお役立ていただければと思います。さあ、そろそろ最後になりますが、出村さん公共イメージの向上をクラブの会員に理解してもらうための方策ということで、何かアイデアがあればお願い致します。

出村) はい。方策という程立派なことはお伝えできないんですけれども、やはりキッズキャンプ等を通して感じたことが「子供たちへの広報」ということが、やはりキーワードになってくるのではないかなという風に思っております。そして会員に理解をしてもらうためには、なぜ子供たちへの広報になるかと思うんですが、福島キッズキャンプ in 北海道、今回の夏では、約 200 名位のクラブの、当地区の会員の皆様にいろんなご協力をいただきました。私たち最初に言ったのはロータリアンは、普通のおじさんおばさんで、私の事は気を使ってお姉さんと子供たちが呼んでくれるんですけれども、本当に先生でも専門家でもありません。でも、みんなを想う気

持ちはいっぱいですということを伝えると、子供たちは本当にわかってくれまして、ロータリーのガバナーのおじさん、エレクトはいつも乾杯をしてくれるおじさん。そして、ここの江別のみなさんは、とうもろこしのおじさん、とうきびのおじさん、岩見沢の皆さんは花火のおじさん、小樽の皆さんは、ガリガリ君を届けてガリガリ君のおじさん、とみんな風揚げするたびに、あのおじさん、おじさん、ロータリーのおじさん、という言葉が何回も聞こえました。その中で子供たちは、「ロータリーって何?」、お母さんたちも「ロータリーって何ですか?」という言葉をしごく質問で受けました。うまく答えることができたかどうか分からないんですが…大変不安なんです、ロータリーはおじさんおばさんたちが一生懸命みんなのことを思ってくれている組織なんだなということを知った子供たちは自然に理解してくれたと想いまして、このロータリーとの出会いって多分一生子供たちは忘れることがないんじゃないかなと思ひまして、おそらく将来立派なロータリアンがその中から出てくることは、絶対間違いないという風に思っています。そういったことで、子供たちへの広報ということが大変重要になりまして、そこに参加していただいた皆さんが、多分、クラブの皆さん参加していただいて、この公共イメージということをご理解いただいたのではないかなと思っ



ていまして、今回の福島キッズキャンプは、保養キャンプではもうないと。私たちの今までやってきた中で、これからは子供たちに目標持って、達成して自信を持ってもらうためのキャンプをしたいテーマが今回はあったので、実は新聞社の方に実行委員会の打ち合わせから入っていただいて、子供たちに新聞作りをレクチャーしていただいて、最後に全道版にも出たんですが、それ以外に号外版という

のを出して、子供たちに持ってってもらいました。それを子供たちは学校の先生達にずいぶん持っていったくださっているということで、そういった形の素晴らしい広報が生まれました。子供たちは元気に帰ったんですが、そういうことを還元するのですとか、私のクラブになってしまうのですが、福島キッズキャンプ in さっぽろ雪まつりというのを実施させていただいて、地区の皆さんと、福島の地区の皆さんと合同でできまして、それをロータリーの友にもこうして取り上げていただいたんですけれども、これをするによってクラブのメンバーにもかなり大変な作業になったんですけれども、本当にやってよかったと、子供たち本当にあんなに喜んでくれるなんて思わなかったということを手ぐさ言いつままして、自分たちがロータリアンであることにすごく自信を持てたきっかけになりました。その当時、ロータリーの新しい会員がロータリーについてすごく理解して、活動に参加することによって理解してくれて、ロータリーを理解することによって、この公共イメージの向上ということ、いろんな報道機関もありましたけれども、やはりフィルターを通して外から見ても本当に良いことをしているんだねという風に見ていただいているということで、ロータリアンとしての自信を持てたという風に思っています。それで、クラブのことになるんですけれども、先日、招待例会といってロータリーでない方を招待して、会員になる機会を持っていたらこうという例会を開いたんですけれども、その時にもこの雪まつりの事業の話をさせていただいたところ、ロータリーってなんだろうということをうまく説明できないけれども、こういうことやってますよということで、すごく理解をさせていただいて、会員にもなっていたく機会にもなったようです。おそらく、私の個人的な意見ですが、地区やクラブではなくて、地区というのは、そうして皆さんに活動していただくためのお手伝いをするのも役割だと思っています。そういった形でクラブと地区が、うまく広報

の、公共イメージの向上の部分でも協力しあえて、今もできていると思いますけれども、ますますの良い機会・関係を作っていくことが地区の役員の、地区委員の役割でありまして、おのずとそれによって皆さんの公共イメージのクラブの会員への理解というのも自然に生まれてくるものではないのかなと強く思っているところです。雑駁ですけども、以上です。

酒井) ありがとうございます。ガバナー、後で講評という形でちょっとだけコメントをいただきたいと思っています。皆さん、そろそろ最後になりますが、ご意見、言い忘れたことがありますか？どうぞ。

宮部) 先ほどの集計の中でですね、今、例えば指導者研修みたいなものですね、どのように各地区の中のクラブに伝わるかというものでですね、その中ではっきりとわかることは、ものすごく情報の伝達の差があるんです。例えば、会長さんしか出ていないクラブもありますし…だから、そういうものを考えた時にやはり、皆さんにガバナー補佐の役割を強く求めていくことと、もう一つはですね、地区の活動を知る限り、クラブから地区委員を体系的に派遣していただきたいというのがデータで取れますので一つおすすめしておきたいと思います。以上です。

酒井) 他にございますか？無ければ少し私、まとめさせていただきます。これは、米山梅吉さんがロータリー不平には3つあると。ものに飽きるということ。もう一つは、ロータリーの活動が物足りない。そしてロータリーがどこへ行くのか分からないということで、当然昔から言われているロータリーの問題点なんだろうと思います。問題は、我々が持っているロータリーのブランドのイメージ。ロータリーとは何かということを伝えることが、まず理解しにくいんだと。その理解する方法は、どんな方法があるんだろうか。これは先ほど言いましたけれども、それについて露出をどんな風にして皆さんに伝えていくか。クラブの人間にもそうですけれども、一般の方々にもこれが必要なことになるんだろうと思

ます。情報の伝達というのは、わかりやすい情報発信すること。モリエールの本に「いやいやながら医者になれ」という本があります。私、これ学生時代、18歳位に読んだ本なんですけれども、医者じゃない人が医者に間違われてされていくというものなんです。彼はですね、なった人はですね、突っつかれるとばれちゃうものですから、ラテン語で全部しゃべって人を撒いていくという姿なんです。要するにロータリアンがロータリー用語や難しい用語を使っていけば、ごまかすことはできても理解してもらうことはできないわけです。我々はここのところ気をつけていかなければならないのだと思います。それから、継続的な発信。露出を多くするということは、ここだと思いますが、ロータリアン自身、あるいはロータリアンファミリーが、一人一人が広報マンになって会員のみなさんに伝えていかなければならない。今日お集りの皆様が、今日からセールスマンであるという事をご理解いただければと思っています。先ほど出ていたしおりですけれども、私が作ったのは下の方なんです、これは地区大会の記念事業の時にですね、これはでんじろうさんの科学ショーをやったんです。そこで入ってきた入場者を親子で招待しました。約1000名なんです、その方々にこのパンフレットを配って、ロータリーはこんなもんですよということを理解してもらうために入口で配ったものなんです。まあもうちょっと残っているものがありますので、もし必要な方がいたら申し出していただければ、お送りさせていただきます。そういう機会、そういうチャンスにですね、こういう広報していくということも大切なことだと思います。上と下で何が違うかと言うと、下は漫画調なんです。読むところが少ないんです。非常に広報というのは短期間で伝えることも大切かと思っています。セントルイス宣言「決議23-24」には、我々、隠匿という言葉がよくありますけれども、ロータリーの影響力を拡大する1つの方法としては、正しい広報が行われるべきであるところにも書かれてい

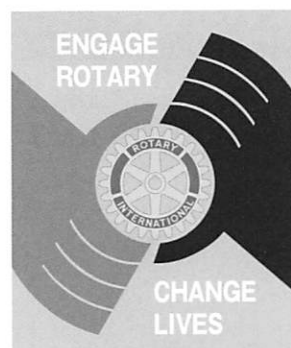
るわけですね。ここのところ読み飛ばして、我々はロータリーの活動をしてきたのかもしれないんですけれども、どうぞ広報は必要だと言われているので、アレルギーのある方は、ここのところアレルギーを収めていただきたい、治療薬だと思っております。これは、ハリウッド映画に出ております「ボディガード」という映画です。ケビン・コスナーとホイットニー・ヒューストン。実はこれ、私、ビデオ持っているんですが流す訳に行きません。これは著作権法38条によりまして、いわゆる小規模の集まり、例えば学芸会のようなもので流していいんですか？公の場のところでは流せません。50円で1日借りられます。1週間借りられます。レンタルビデオ屋さんで借りられます。どうぞ観てください。最後にですね、ロータリーの地区大会のようなシーンが出てきて、とても素晴らしい。ハリウッド映画を通して、ロータリーはどう理解されているかということが理解できるシーンではないかと思っています。もう一つあります。これはスティーブン・スピルバーグが監督しましたレオナルド・ディカプリオ主演しましたキャッチミー・イフ・ユーキャンという映画なんです、これもロータリーの入会式が出てきます。とてもロータリーに対して面白いシーンがあります。嫌な場面もありますけれども、これも50円で一週間借りられますので、ぜひご覧になっていただきたいと思います。著作権に触れますので内容はお見せできません。以上、駆け足でお話をさせていただきましたが、皆さんの参考になったでしょうか？（拍手）私ども壇上にいる者から、この長い時間お付き合いいただきましたことに皆様に感謝を込めて私どもから拍手をさせていただきます。（拍手）ありがとうございます。そして、アドバイザーとパネリストをお努めいただきました皆様にどうぞ温かい拍手をお願い致します。（拍手）つたない司会で時間を過ぎてしまいまして、誠に申し訳ありません。ガバナー、ちょっとだけでもコメントいただければと思います。

謝辞、しゃもじじゃありません謝辞です（笑）。こういう風になると多少は予測をしていたんですけども、よく収めていただきましたありがとうございます。事前の打ち合わせにも私ちょっと参加をしていて、その時…どうなるかなあと思いながら…（笑）ハラハラしていたんですけども。うちの地区でもいろんな問題抱えていると思います。私も公式訪問に伺っていて、こんなに皆様がいっぱい事業されているとはじめて知ったのが実態です。いろいろなお話がありましたけれども、どういう風に伝わるかなということもありますから、それはそれでこれからの課題として大事な部分ですし、私たちがやっていることを見てもらう、評価されるという部分で、今日のテーマはすごく大事なかなという風に思っています。大事というよりも、これをすぐ取り上げて、事業として云々ではなく、普段から公共ということを考えながらやってくというのが、これからの私たちの事業なのかなと思いました。収録というのは後でできるんだと思います。私、ぼーっと聞いていましたから頭に残っていませんけれども、今日大事な話をさせていただいたかなと。東京でこの公共イメージの話は、研修でいろいろありましたけれどもほとんど寝ていました（笑）また何か絵が出たなという感じで見ていましたけれども。そういうことではなくて私たちのやっていることがどういう風に理解されているかなということだと思えます。ただ、後でまたお話ししますが、順番としてですね、我々があって相手さんがいるのではなくて、相手さんがいて私たちがあるという関係を間違ってしまうと、我々のロータリーの活動は理解されないという風になってしまうのかなということとでございますので、そういう風に見ていくと、いろんなことをやって相手方が理解してくれている、そういう関係を作らないとまずいのかなということがございます。二神さんには、大分前から廊下の立ち話で「お願いしますよ」という話をして、すべての予定を全部キャンセルして…本当は韓国に行って韓日の取材に行かれるはずだったんですけども、こちらに来ていただきました。本当にありがとうございます。皆様お読みになったと思いますがロータリーの友は、このよ

うな方が編集されていますので、ぜひ、見逃さないで全部読んでくださいという風に思います。それからいろんな資料を用意していただいております。



をいただきましてありがとうございました。宮部さんのお話…このパネラー中では異色なお話をされたと思いますけれども、でも、いろいろな事業を拾い集めて見ていくと、私たちの地区の姿が見えてくるといいますし、そのことを我々自身も知らなかったということからすると、我々の地区の会員の方にもイメージが伝わっていなかったのではないかなと反省があると思います。そういう意味では問題提起をしていただきましたし、これからも皆様方の活動がみんなに知らされていくという姿を実現していきたいなと思います。そして堀江さんには、いろいろなことをお願いしています。今は色々な情報ツールが変化していく、どんどん広がっていく時代に、我々ももっと手軽にいろんな形で使える方法をクラブあるいは会員さんに浸透させていってもらうということでは、地区のホームページ、どういう姿になっていくかわかりませんが、あるいはメーリングリストができるかもしれませんけれども、いろいろな形でまた活躍していただきたいなと思っております。実はいろいろなホームページがありまして、うちの地区のホームページちょっと古いかな、硬いかなと思って、これ誰が作ったの?と言ったら堀江さんが作ったと言ったので、ごめんなさいとなっちゃったこともありました（笑）多分これからですね、素晴らしいホームページになっていくと思いますけれども。それにはまたお金が入りますので、羽部さん、あるいは嵯峨さんと続けてそういうことを手がけていただきたなと思っております。私はただ火をつけただけで帰りますので（笑）、後はよろしくお願い致しますということで、今日は長丁場で大変だったと思いますが、セミナーにご協力いただきまして大変ありがとうございました。



ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

2013年10月20日(日)

第2日目 プログラム

会場 江別市民会館

**記念
懇親会
会場** 江別市民体育館

- 本会議
- 記念講演
- 記念懇親会

本 会 議

於：江別市民会館

司会：地区大会幹事 金田 敏雄
森岡真奈美

8：30 登録受付開始

9：00 開会の言葉

大会実行委員長 郷 和平
点 鐘 ガバナー 安孫子建雄
国歌斉唱

ロータリーソング「我等の生業」

ソングリーダー 増山 柳

物故者追悼

歓迎の言葉

ホストクラブ会長 金田 一夫

RI 会長代理・ご来賓・役員の紹介

ガバナー 安孫子建雄

ガバナー挨拶

ガバナー 安孫子建雄

RI 会長代理ご挨拶及び

RI 現況報告

RI 会長代理 高 成 大

9：40 来賓祝辞 江別市長 三好 昇

9：45 第 3700 地区総裁ご挨拶

第 3700 地区総裁 李 華 榮

9：50 特別参加者紹介

9：55 参加クラブ紹介

10：20 地区現況報告

ガバナー 安孫子建雄

10：30 休 憩

10：50 大会決議案上程

大会決議委員長 佐々木正丞

大会決議採決

ガバナー 安孫子建雄

2012-2013 年度決算報告

前年度地区財務委員長 蚊野 好美

2012-2013 年度決算監査報告

パスト・ガバナー 熊澤 隆樹

大会登録委員会報告

大会登録委員長 細川 好弘

大会信任状委員会報告

大会信任状委員長 熊澤 隆樹

大会選挙管理委員会報告

大会選挙管理委員長 渡邊 恭久

諸事お知らせ

大会 SAA 林 重樹

記念懇親会

於：江別市民体育館

司会：宮地 聖子

17：00 開 会

開会の挨拶 ガバナー 安孫子建雄

17：05 ゴルフ・囲碁表彰

ガバナー 安孫子建雄

17：10 乾 杯

ガバナー・エレクト 羽部 大仁

17：30 アトラクション

18：20 閉会の挨拶

ガバナー・ノミニー 嵯峨 義輝

ロータリーソング「手に手つないで」

ソングリーダー 増山 柳

歓迎の言葉

ホストクラブ会長 金田 一夫



おはようございます。ご紹介いただきました、江別ロータリークラブの金田と申します。よろしくお願い致します。本日、2013年、それから2014年度国際ロータリー第2510地区地区大会に際しまして、北海道知事 高橋 はるみ様、江別市長 三好 昇様、RI会長代理 高 成大様と、ご来賓をはじめ、遠く韓国から第3700地区総裁 李 華榮様をはじめとする、多くのロータリーの仲間たちに駆けつけていただきました。そして、午後からの講演でやっていただきます、菅野村長さんもいらっしゃっていただきました。本当にありがとうございます。また地区各内からは会員総勢約1600名の会員が参加していただきました。本当にありがとうございました。当地江別は古くから明治、それから昭和初期までの間、札幌の東の玄

関口として、石狩川からの多くの農産物、そして、鉄道を通じて空知管内の炭鉱からの石炭と、集まり、賑わいを致したところでございます。また、道庁に使われております、赤れんが庁舎にも、江別のれんがが使われております。現在、札幌市の隣町としまして、十数万人が住みながらも、広大な野幌原始林や、大きく流れている石狩川を有する、自然豊かな町でございます。今回の地区大会に際しましては、当地区第3グループのメンバーの方々、そして市内、兄弟クラブでございます、江別西クラブの全面的なご協力をいただきまして、ここに開催にこぎつけることができました。本日ご参会の皆さま、全員を代表しまして、歓迎申し上げます。ありがとうございます。



引き続いて、ごあいさつということでございますので、若干お話しさせていただきます。本日、2013 年度のわが 2510 地区の大会開催にあたりまして一言ごあいさつ申し上げます。今回は国際ロータリー、ロン D. バートン会長代理として、高 成大さん、コウさんをお迎えしています。先ほどご紹介したように、コウさんはお隣、韓国から見えられて、昨年のガバナーでございます。ということで、細川前ガバナーとは同期のガバナーでございます。大変気さくにいろいろなお話をさせていただきまして、私も、はなから安心していろいろな連絡をさせていただいております。どうぞまた何か会場等でお会いになる機会がありましたらどうぞお声を掛けてお話を聞いていただきたいと思います。そして、通訳として同じお名前でコウさん、高 允熙さんという方も一緒に来られております。また、北海道知事高橋はるみ様、江別市長三好昇様のご列席をいただき、さらには韓国第 3700 地区のガバナー、ホア・

ユン・リーさん、私と同期でありますけれども、仲間の方と大勢おいでいただきまして、大変ありがとうございます。さらに地区内外のガバナー、パスト・ガバナー、わが地区、パスト・ガバナーはじめ、71 クラブの会員の皆さま、総数 1604 名の登録をいただきましたこと、心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。江別の始まりにつきましては先ほど、わが会長のほうからお話ありましたが、江戸の末期、また、松前藩、石狩川、という並びでたいへん自然に恵まれた場所で開拓が始まっています。大正の時代には物流の拠点として大変栄えた町でございます。1965 年ごろから大麻に団地ができまして、急速に人口増加し、現在、12 万 3000 人を超える人口を有しております。この町にはわれわれが非常に自慢すべき、誇りに思うべき、野幌森林公園がございます。こちらの公園は過去に木々を全部伐採してしまうという計画があったのですが、地元の人の熱い熱意によって、その森林、広

大な森林が残されております。平地にある森林としては世界でも指折りの森林でございます。そういった自然に恵まれた町でございます。都市と田園が調和した自然豊かな町ということがいえるかと思えます。私たちは、ロン D. バートンが今年示されました RI のテーマ『Engage Rotary, Change Lives』、『ロータリーを实践し、皆に豊かな人生を』を掲げ、皆さんで現在取り組んでいるところでございます。地区大会はなぜ、という話になりますと、地区の奉仕プログラムやプロジェクトを紹介する、これはブースがございます。奉仕にさらに参加するように、ロータリアンの意欲を高めてもらおうと、クラブを超えたロータリーのビジョンを共有する、思い出に残る親睦の経験を楽しむ、ロータリーのリーダーと交わる機会を提供する、等々、いわれております。きょう、この場所で会員のそれぞれの交流を深めていただき、握手をし、名刺を交換し、1人でも多くの会員の皆さまが知り合いになる、そういう機会にしていきたいと思えます。『手に手をつないで』を实践していただきたいというふうにお願いするところでございます。わが 2510 地区の歴史を少し触れさせていただきますけれども、1932 年に日本で 8 番目のクラブとして札幌にクラブが誕生しております。以後、小樽、旭川と続き、途中、戦時中、一時、RI から脱退したことがございますけれども、1949 年に復帰し、地区を分割する色んなことがありましたが、1991 年に 2510 地区というふうになりました。現在、2514 名の会員を登録しております。この間、ロータリーに関わった人々、入られ、退会された方々を数え合わせますと、大変な数の方が、ロータリーに関わるということがいえると思えます。公式訪問の経過、現在 71 クラブ中、51 クラブを訪問させていただき、残る 20 となりましたけれども、それぞれクラブの皆さんにお会いし、さまざまな活動に

触れ、活発にエンゲージ・ロータリーをされていることを実感しております。昨日も少し触れましたけれども、私、金子みすゞさんの詩をよく見るものですから、その話をさせていただきます。金子みすゞさんの詩の中に『大漁』という詩があります。『朝焼小焼だ 大漁だ 大羽鰯の大漁だ 浜は祭りのようだけど 海のなかでは 何萬の 鰯のとむらいするだろう』という詩。そしてもう一つ、『私と小鳥と鈴と』という詩がありまして、それを読んだ小学生のお手紙です。『僕は今まで、僕とお友達、と考えていましたが、本当は、お友達と僕、だったんです。お友達がいないと、僕は居ないからです。これからはお友達にいいわるするのをやめます。僕は、居るだけで、お友達の役に立っていると思うと、うれしいです』という感想文がございます。いずれも、自分中心でないことを言っているというふうに思っております。ロータリアンとして、心に留めたい言葉かな、と思えます。私たちのクラブは、創立 50 年を経て、初めてガバナーの大役をいただき、地区大会を開催致しました。会場の都合で、二つに分かれての開催で大変申し訳ございませんけれども、クラブの皆さんの協力、兄弟クラブの西クラブの皆さんの協力、そして第 3 グループの皆さんの協力、地区の多くの方々の協力をいただきまして、特に前回開催されました静内の皆さんには大変にお世話になって、きょうを迎えております。ゴルフ大会、当日から晴天に恵まれ、きょうも雨にならないことを願っております。超私の奉仕、利他の心、ロータリーの心をもとに、大会のテーマをクラブの再生、ロータリーの再生、地域の再生、そして絆とさせていただきます。きょう 1 日、素晴らしい出会いを体験し、私たちの世界が広がることを願ってごあいさつと致します。ありがとうございました。



ロータリアンの皆さんおはようございます。尊敬する国際ロータリー第 2510 地区安孫子 建雄ガバナーをはじめ、パスト・ガバナー、地区役員、及び各クラブ会長、そしてロータリアンの皆様、おはようございます。2013-2014 年度、国際ロータリー第 2510 地区の地区大会に、国際ロータリー会長ロン D. バートン会長の代理として参加させていただき、大変光栄なことで嬉しく思います。北海道は豊かな自然環境と文化を兼ね備えており、世界的にも高い評価をえております。このような北海道を訪問できたことは個人的にも幸運なことです。そして、地区大会は皆様すべてが尊い奉仕を成し遂げたという共感帯の形成であり、後日、我々の素敵な思い出になりますように楽しい地区大会を迎えることができることを希望致します。2013-2014 年度国際ロー

タリー ロン D. バートン会長のテーマは「ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を」です。ロータリアンが真心で全力をつくし、ロータリーの奉仕精神とその価値を日常で実践できれば、目覚ましい変化を始める自身を発見できる、また、ロータリアンの積極的な奉仕への参加と関与をとおして人生が変わってくるということです。今日、ここにご臨席していただいたロータリアンの皆様は崇高なロータリー奉仕の理念を実現すべき責任と義務をもってこの場にお集りになりました。地区大会は全世界のロータリアンが相互の情報を共有しながら、多様なプロジェクトと活動について学べる機会を与える素晴らしいロータリーの伝統的な行事です。未来のビジョンのための最も重要な皆様の役割は、1. ロータリアンにインスピレー

ションを与え、2. 彼らが参加できるように導くこと、世界を変える肯定的な動力になる機会をあたえることです。それから、ロータリー奉仕活動に目を覚まし、心を開き、最大限に働きかけ、人生の変化を追求することが、RI 会長のロン D. バートン氏のテーマを達成することです。今日、我々ロータリーの基礎的な核心価値は変わっていません。奉仕と親交、多様性、正直さ、リーダーシップを基盤としており、ロータリアンとしての行動の基本となる国際ロータリーの戦略計画の礎石として、会員の皆様が心に刻むべき絶対的な価値です。このような核心価値はロータリーの綱領とテキストに反映されており、地区大会で達成するために努力するべきです。国際ロータリーは長期的なビジョンと目的をもち、絶えず戦略計画を発展させながら三大優先項目を実践しています。1. クラブ支援強化、2. 人道主義的奉仕の集中的な拡大、3. 公共イメージの強化及び認識拡大などの優先順位は、公共イメージなどに焦点を当てることによって、ロータリーの本質と活動内容を明確にすることが可能です。ロータリー指導者の皆様、1. ロータリーの未来は生活力が強く、活力にあふれるクラブにあります。すなわち、効率的なロータリークラブの基本構成が問題です。2. 我々の核心価値 5 つなどを実践し、地域社会へのロータリーを知らせるべきです。3. 会員たちと彼らが増強させたロータリーを成功に導くべきです。そして RI 現状と会員状況、財団寄付について申します。現在、国際ロータリーの地区とクラブの会員数を申しますと、全世界 200 カ国以上の国や自治領にクラブがあり、国際ロータリーのゾーン数は、34 ゾーン、537 地区に構成されています。2013 年 10 月の現在クラブ

数は 34,473 クラブ、会員数は 1,203,067 人です。国際ロータリーは、全世界ロータリークラブの集合体であり、その管理主体は RI 理事会です。会員増強に関して申します。国際ロータリーの会員数は世界的に減少傾向にあります。新入会員を迎えたものの、加入期間が短いまま脱会する問題に関して、その会員に対する原因分析と対策をたて、会員増強に拍車をかけ、2015 年度にはロータリー会員数 130 万人の目標を達成することが国際ロータリーの目標であることを認識した上で、青年層と女性層の会員増強のために、皆様の積極的な努力を期待するところです。財団寄付について申します。我々はロータリー財団に対する主体として、意志と成果を分かち合い、財政的支援をとおしてその意識を新しく創造していくべきです。今年度の財団の 4 大目標は、1. ポリオ撲滅。2. 財団に対する自負心と集団意識の高揚。3. 新補助金 4. 革新的プロジェクトに参加し、我々ロータリーは変化の追求のために、継続的な分かち合いの実現を怠ることなく、超我の奉仕を実践することで、ロータリーへの参加をとおして人生の変化を迎えるようになります。ロータリアンの皆様、最後に私のお願いがあります。人生の黄昏時が訪れる前に、ひとときでも早く分かち合いの奉仕を実践してください。ロータリアンの皆さん、ご清聴ありがとうございました。



おはようございます。お会いできて嬉しいです。秋空は深く澄み渡り、満山紅葉が紅に染める爽やかな季節にロータリーの造詣が深いリーダーがたくさんいらっしゃる第 2510 地区大会にお招き頂き、誠にありがとうございます。国際ロータリーロン D. パートン RI 会長の代理としてご臨席賜りました高 成大国際ロータリー会長代理と安孫子 建雄ガバナーご夫妻、郷 和平大会実行委員長をはじめ、多くのロータリアンとご家族の皆様にお会いできてうれしい限りであり、光栄に存じます。韓国大邱の第 3700 地区の全会員を代表して貴地区大会が江別で盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。2004 年 10 月 17 日、両地区が姉妹提携を結んでからも最早 10 年になります。地区大会が良い機会になり、相互親善訪問を通じてその交流が繰り返されることで両地区の友愛と会員間の絆がますます堅固な基盤を構築して来ています。今年 4 月 26 日に開催されまし

た国際ロータリー第 3700 地区大会にも当時の細川 好弘ガバナーご夫妻、安孫子 建雄ガバナー・エレクトご夫妻、羽部 大仁ガバナー・ノミニー、酒井正人パスト・ガバナーご夫妻、不動信之地区幹事をはじめ現・次期地区役員と家族を含む 26 名に参加して頂き、国際色豊かな大会になりましたことを今でも心より厚く感謝しております。このようにロータリーの友情を深めることが日韓両国間の親善と発展に大きく寄与することを確認しております。ロン D. パートン RI 会長は今年度のテーマとして「ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を」を提唱しました。我々両地区もこのテーマの主旨に従い、国際奉仕共同推進事業を真心と奉仕精神で進めることで、より深い絆で結ばれると思います。最後に第 2510 地区の益々のご発展と、会員皆様のご健勝とご多福を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

来賓祝辞

北海道知事 高橋 はるみ



皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介を賜りました、道知事の高橋でございます。今一生懸命この花を付けようとしたんでございますが、つきませんでしたので手に持っております。よろしくいただきたいと思います。きょう、こうやって、国際ロータリー第2510地区の皆さま方の年次総会、盛大に行われますことを心からお喜びを申し上げます次第でございます。日ごろから安孫子ガバナーをはじめ、ロータリーの皆さま方におかれては、まずはそれぞれの本業というか、会社等のお仕事の中で道政の推進に大変にお力になっておりますこと、心から御礼を申し上げます次第でございます。そして皆さま方が属しておられるこの、ロータリークラブ、国際的な友好親善、そして地域のさまざまな課題に対処するための奉仕活動、こういったことにお力添えをいただいておりますこ

と、道知事として心から感謝を申し上げる次第でございます。きょう、そして栄えある表彰を受けられる皆さま方、その皆さま方のご功績に対しても、心から敬意を表すと同時に、心からお祝いを申し上げます次第でございます。以前にロータリーの大会にこうやって参加をさせていただいたときにも申し上げましたので、あるいはご記憶の方も多いかと思うわけではありますが、私高橋はるみ自身、小さいときから父が大変熱心にロータリーの活動に参加をしておりましたので、いろいろな活動というものを本当に小さいときから親しく慣れ親しんでいた人間の1人でございます。年に1回のクリスマス大会というのも大変な楽しみでございましたし、国際的な大会、あるいは交換留学生、オーストラリアの留学生がうちに1カ月か2カ月滞在をしております、私自身は残念ながら

ら海外に留学生として行く機会が、特に、残念ながらできなかったわけではありますが、いろいろなロータリーの皆さまのご活動というのは本当に頭が下がる思いであるところでございます。そして、今日この広大な北海道におきましては、やはり中長期的に見ますと過疎化ということがもっともっと進んでいくんではないか、少子化がさらに進んでいくことを大変懸念を致しているところでございます。そういった中で私が思いますのは、これから将来10年後、20年後を背負ってもらう、北海道の子どもたちのさまざまな抱えている問題ということでございます。北海道の子どもたちはまず、学力が低い。小学生、中学生の子どもたちを対象とする全国一律の学力テストにおいて、どうもこれはやっぱり都道府県の順番が出ますんで、これを見ますと、北海道は苦戦をしているのは承知のとおりでございます。もとよりですね、競争心ばかり煽るというのは良くないというのは、私も子どもを2人育てた母親でございますので、よく理解するところではございますが、やはり今、道知事の立場で、将来の中長期的な観点から、私たちの故郷北海道の明日というものを

切り開いていく、ということを考えた場合にはやはり今の子どもたちの学力の低迷状況はちょっと心配を致している1人でございます。もとより私ども行政としてやるべきことはいっぱいあるわけですし、そういったことをしっかりやらなければならないと思っているところでございますが、きょうお越しのロータリーの皆さまにおかれましても、このことは子どもたち自身の努力が必要です。行政の努力、教職員の皆さまの努力、PTAの方々の努力、そして地域の皆さま方を挙げてやはり、サポートしていくことも重要かと思うわけでありまして、心からのお力添えをいただければと思う次第でございます。皆さま方におかれましては、それぞれの地域における青少年の健全な育成、あるいは環境保全に向けてのさまざまな活動など、今もいろいろなご活動をやっていただいているところでございまして、引き続き北海道の明日のため、北海道の地域の発展のため、ぜひお力添えをいただきたいと、このように申し上げておきます。きょうのご盛会、あらためて、心からお祝いを申し上げて、私のごあいさつとさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

来賓祝辞

江別市長 三好 昇



皆さん、おはようございます。ただ今ご紹介賜いました、ご当地、江別市の市長の三好でございます。ここ江別市におきまして、国際ロータリー第2510地区、2013・2014年度地区大会が高成大国際ロータリー会長代理のご列席のもとに、盛大に開催されましたこと、衷心よりお喜び申し上げますとともに、市民を代表しまして、皆さまを心から歓迎申し上げます。安孫子ガバナーをはじめ、ロータリアンの皆さまには崇高な精神に基づいて、日ごろから、国際親善、青少年の健全育成、環境保全活動など幅広い奉仕活動を展開され、地域社会の発展に多大なるご貢献をいただいておりますことに深く敬意と感謝を申し上げます。本日は、道内の各界、各層で大活躍の皆さんがご出席でございますので、

安孫子ガバナーからも少し江別の紹介がありましたけれども、私からも少し紹介させていただきたいと思います。ここ江別市は中央部に石狩川が流れ、東京ドーム400個分の広さを持つ、世界有数の平地原始林であります野幌森林公園に囲まれ、北海道遺産にも登録されております江別れんがで造られた建物も多く、自然と調和し、美しい景観を醸し出すなど、自然豊かで、四大学がそろい、文教の町でもございます。また、江別経済界の活動の成果の一つでございます、江別の小麦「ハルユタカ」を市内で生産し、製粉し、商品化する、いわゆる独自産業化が市内で成立する活動が、麦の里江別として、全国から高く評価され、そのことをきっかけにしまして、市の成長産業の方向の一つを食産業として、現在目

指しているところでございます。最近の活動をご紹介申し上げますと、北海道情報大学と住民と、市が連携してどの食材が健康に良いのかを検証する、食の臨床試験を実施しております。これは地域住民の方との共同の取り組みが全国的にも例がないとしまして、江別モデルとして評価され、北海道、北海道経済連合会をはじめ、札幌市などと平成23年におきまして、国から国際総合特区の認証を受けたところでございます。市と致しましては、国際総合特区の認証を契機としまして、健康都市江別を目指し、市民自らが健康を守るモデルの取り組みを間もなくスタートする予定でございます。さて、平成23年3月に発生しました、東日本大震災の発生から2年8カ月が経過しましたが、28万人以上の方が今なお、避難生活を余儀なくされるなど、被災者の復興はまだまだ多くの時間と支援が必要とされています。第2510地区のロータリークラブの皆さまは、発生当初から奉仕の精神の思いを持って、支援活動を続けられ、被災地保育園、幼稚園への放射線測定器をはじめ、復興支援車両などの寄贈の他、被災地の青少年を北海道に招いて、サッカーや野球の交流試合を開催するなど、数多くの熱心な支援活動を続けております。あらためまして皆さまの熱心で地道な活動

に心から敬意を表するとともに、被災地が一日も早く復興することを願うところでございます。一方、この度の東日本大震災は、われわれに災害対策に対する考え方、防災や減災の重要性をあらためて見つめ直すきっかけを与えたものと考えております。当地におきましても、起こりうる災害を想定し、自助の基本理念のもと、住民参加の防災訓練や、啓発活動を積極的に進め、人と人の助け合い、思いやりの大切さを享受できる、安心安全な町づくりに努めていかなければならないと考えております。そのことはわれわれ行政だけでできるものではありません。地域住民の皆さまはじめ、企業、団体の共同が求められますが、そこには地域のリーダーでございまして、ロータリークラブの皆さまのご協力が何よりも必要でございまして。ロータリアンの皆さんの奉仕の理想のもと、これまでの献身的な活動がより大きな原動力になるものと考えておりますので、引き続き、地域社会の発展のためご支援賜りますよう、お願い申し上げます。結びになりますが、あらためて本地区大会のご盛会と、ロータリークラブの今後ますますのご発展、さらには本日お集まりの皆さまのご健勝、ご活躍をご祈念申し上げまして、歓迎の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

特別参加者紹介

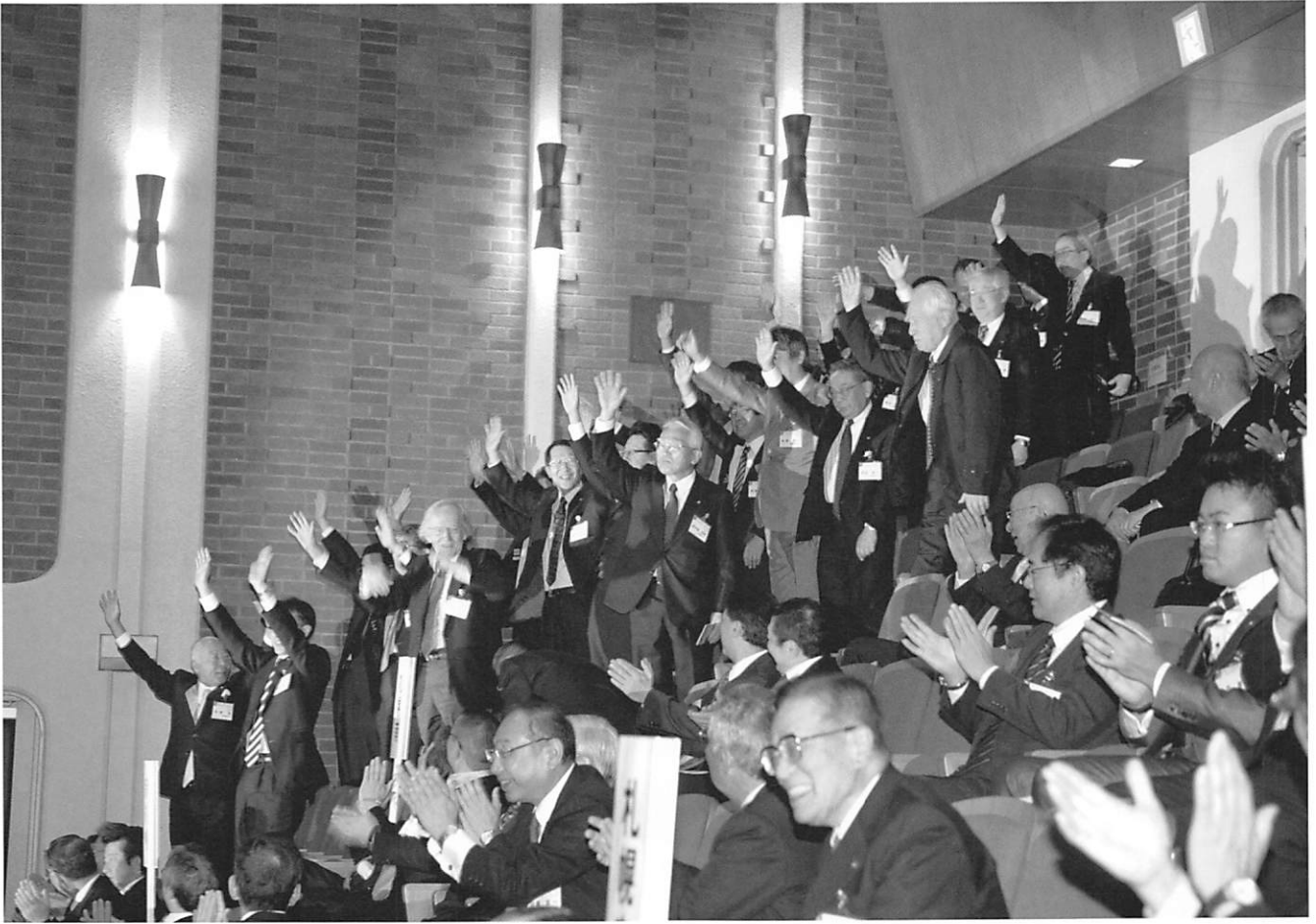






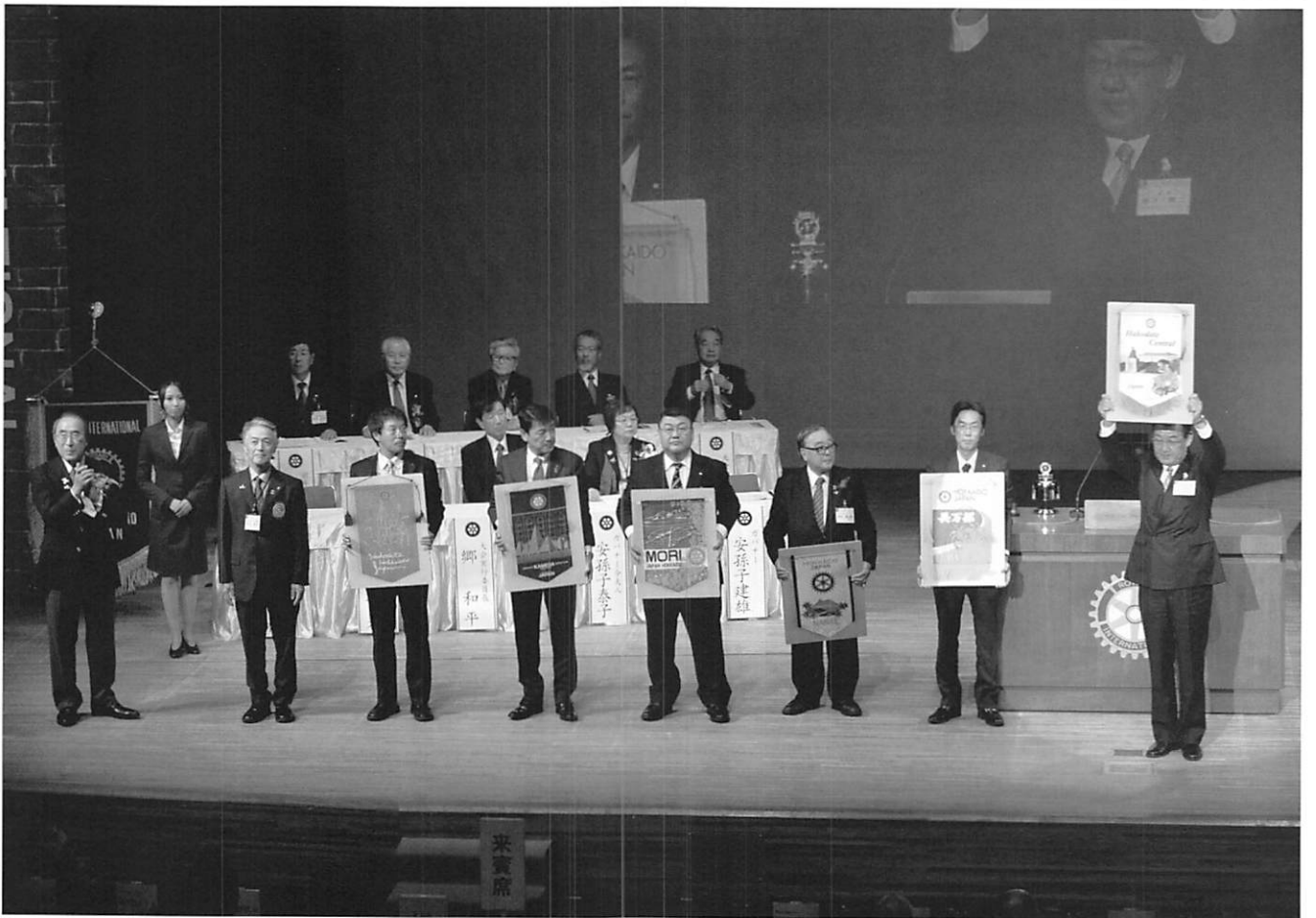
参加クラブ紹介

















地区現況報告

国際ロータリー第 2510 地区ガバナー **安孫子 建雄**

地区の現況をご報告申し上げます。若干長くなるとお思いますのでゆったりと気楽にお聞きいただきたいとお思います。まず、クラブ数と会員数でございます。当地区の会員数は減少の一途をたどっておりましたが、8月末現在では、7月1日現在の会員数 2514 名より、76 名増加の 2590 名、うち女性会員 116 名となっております。クラブ数は 6 月 30 日付で札幌あけぼのロータリークラブが国際ロータリーを脱会したため、71 クラブとなりました。今年度、ロン・D・バートン RI 会長は、会員増強の推進として、入会希望者を増やし、会員を維持することにより、7 月 1 日から 3 月 1 日までの間に、会員を少なくとも 1 名純増させることを目標と致しております。ぜひ、各クラブが新会員を勧誘し、勧誘、会員維持率を高め、会員増強を図っていただきたいとお思います。次に、諸活動を申し上げていきます。国際奉仕活動、昨年度第 3370 地区、ノンカイにおいて教育支援事業、奨学金事業、クリーンウォーター事業、クリーントイレ事業、図書館事業等を行っております。さらに、3350 地区、アムナットチャロエン地区になりますけれども、医療機器事業、クリーンウォーター事業。第 3360 地区チェンマイ、水の保全事業、台湾第 3480 地区、台北、台湾金門県の老人ホームにバスを贈呈。今年度に入りまして、昨年度に続き、国際奉仕委員会を中心として、識字率の向上、ウォータープロジェクトの事業拡大やクラブの皆さまのサポートに努力しております。例年、タイにおいて、プロジェクトの検証を行っておりますので、皆さ

まのご参加をお願い致します。また、当地区にご参加されております、姉妹地区、大韓民国 3700 地区との友好関係も発展するよう努力してまいります。次に、ロータリー財団国際親善奨学生、職業研修の現況でございます。ロータリー財団国際親善奨学生として当地区からは今年度 3 名が、ドイツ、イタリア、アメリカに留学しております。今年度は 4 月の最終面接審査で、3 カ月プログラム、6 カ月プログラム、1 学年度プログラムに各 1 名選考し、希望国に留学するための準備を行っております。職業研修について、未来の夢計画が今年度より本格的に実施されたことを踏まえ、他の地区での実施状況を調査しながら近い将来の実施に向けて準備している状況となっております。今年度も 12 月に地区補助金管理セミナーを開催致しますので、ご参加ください。

次に米山奨学生の現状でございます。現在米山奨学生として、中国からの留学生 8 名、韓国 4 名、カザフスタン、台湾、マレーシア各 1 名、計 15 名に奨学金が支給されております。学校の内訳は、北海道大学 5 名、小樽商科大学 2 名、北海道教育大学 2 名、室蘭工業大学、北海学園大学、酪農学園大学、北翔大学、札幌国際大学、札幌市立大学が各 1 名でございます。このうち前年度より継続して奨学金が支給されている奨学生は 3 名となっております。次に青少年交換学生事業の現況です。今年度、交換学生事業の現況として、今年度受け入れ学生 5 名、オーストラリア 2 名、アメリカ 2 名、カナダ 1 名、こちらから派遣する学生 6 名、オー

ストラリア向け2名、アメリカ3名、カナダ1名となっております。インターアクトクラブ、ローターアクトクラブについて申し上げます。インターアクトクラブは現在7クラブです。内訳は北海道大谷室蘭高等学校、希望学園札幌第一高等学校、北海高校、北海道岩見沢緑陵高等学校、札幌龍谷学園高等学校、北海道静内高等学校となっております。申し訳ありません、もう一つ、札幌山の手高等学校です。ローターアクトクラブは5クラブです。内訳は、函館大学、室蘭北、札幌幌南、赤平、千歳にございます。各種寄付について、申し上げます。ロータリー財団に関する寄付について、目標36万4000ドルに対し、本年8月末現在、年次基金2万537ドル、ポリオ・プラス200ドル、その他恒久基金寄付990ドル、合計2万1727ドルとなっております。なお引き続き、ロータリーカードの申し込みは奨励しております。8月末日の実績で、ロータリーカード有効会員数231名、利用件数207件、実績148万6373円、それに基づく寄付額は4461円となっております。公益財団法人ロータリー米山記念奨学会に対する寄付、2013年8月末現在、普通寄付287万5700円、特別寄付126万円、合計411万7500円でございます。今年度の目標は普通寄付、会員1人あたり4000円、特別寄付1万2000円でございます。奨学金につきましては地区内ロータリアンのご協力、ご理解をよろしくお願い申し上げます。最後に、東日本大震災への支援についてです。2011年3月11日に発生した東日本大震災への対応として、3年度

にわたって継続性のある活動を行ってきました。2010年、2011年度は地区内での義援金を集め、2011年、2012年度では地区内外クラブと共同で放射線測定器、復興支援車両2台、移動検査車両、マイクロバスの寄贈、福島キッズキャンプ in 北海道の実施、被災高校への生徒会活動用物品支援の援助、第2530地区を支援するストラップの販売事業を展開致しました。2012、2013年度では、地区内クラブよりプロジェクトを募り、南相馬の少年サッカー大会招待支援事業、福島キッズキャンプ in 札幌雪まつり事業、絆をより深めるための被災地、被災町内会への備品支援事業、甲状腺検査装置、福島アンダー18事業、大震災地域の少年野球教室招待事業、山田町厳寒期漁業雨合羽支援プロジェクト、女川町新設小中学校への新しい門出支援プロジェクトを行いました。今年度はすでに2013年7月31日から8月6日にかけて、今回で3回目となる福島キッズキャンプ in 北海道を開催し、飯館村の子どもたち、小学生34名、ボランティアとして父母4名、東京学園大学にタイから留学中のヌム君の合計39名が夏の北海道を訪れノーザンホースパーク、江別のトウキビ畑の収穫体験、夕張での、長沼での大自然の中での花火大会、ハイジ牧場での動物たちとのふれあいや、たこ揚げ、アーチェリー、旭川では旭山動物園での動物たちの観察、そして、札幌では藻岩山登山を楽しみました。今年度も継続して何らかの支援を行いたいと考えております。以上をもちまして、地区の現況報告を終わります。ありがとうございます。



【決議第 1 号】

『国際ロータリーのテーマを推進する件』

ロン・D・バートン国際ロータリー会長は、本年度のテーマとして「ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を」を示されました。我々第 2510 地区のロータリアンは、このテーマをよく理解し積極的に推進して、ロータリーの奉仕活動に最大限の努力を傾けることを決議します。

【決議第 2 号】

『ロン・D・バートン国際ロータリー会長並びに高成大国際ロータリー会長代理に感謝する件』

2013-2014 年度の国際ロータリー第 2510 地区、地区大会を江別市で開催するにあたり、ロン・D・バートン国際ロータリー会長は会長代理として高成大バスター・ガバナーを派遣されました。同氏は本大会にご臨席下さり、ロン・D・バートン国際ロータリー会長のメッセージを伝えられ、さらに国際ロータリーの現状についてのご講話と共に格調高い所感を表明され、大会参加者に多大な感銘を与えられて本大会を成功へと導かれました。

本大会はロン・D・バートン国際ロータリー会長

に心からの謝意を表すると共に高成大国際ロータリー会長代理に記念品を贈り、感謝と敬意を表することを決議致します。

【決議第 3 号】

『2012-2013 年度の地区資金収支報告並びに監査報告を採択する件』

2012-2013 年度の地区資金収支報告並びに監査報告は別紙の通りであります。

本大会は国際ロータリー細則第 15 条第 6 節第 4 項の規定に則り、正式に採択することを決議致します。

【決議第 4 号】

『国際ロータリー第 2501 地区直前ガバナー細川好弘氏に感謝する件』

2012-2013 年度地区ガバナー細川好弘氏は田中作次直前国際ロータリー会長のテーマ「奉仕を通じて平和を」を地区内ロータリアンの理解に努められ、ご在任中は当地区のロータリーのリーダーとしてその卓越した手腕を発揮しロータリーに対する情熱をもって激務を見事に果たされました。

よって本大会は同氏の功績をたたえ、深甚なる謝意を表することを決議致します。

【決議第 5 号】

『会員増強と退会防止を推進する件』

当地区のロータリアンは、会員増強と退会防止を一層推進することを決議致します。

【決議第 6 号】

『ロータリー財団の寄付推進に協力する件』

国際ロータリーのロータリー財団はロータリー活動の大きな柱の一つであります。

当地区の全てのロータリアンは国際理解、友好、親善、人道的援助の願いを込めて、「毎年あなたも 100 ドルを」というロータリー財団の寄付推進に協力することを決議致します。

【決議第 7 号】

『(公財) ロータリー米山記念奨学会の寄付推進に協力する件』

(公財) ロータリー米山記念奨学会は日本のロータリー活動の大きな柱の一つであります。

当地区の全てのロータリアンは国際理解、友好、親善の願いを込めて、(公財) ロータリー米山記念奨学会への寄付推進に協力することを決議致します。

【決議第 8 号】

『東日本大震災に対する支援活動を継続する件』

ロン・D・パートン国際ロータリー会長はロータリーを実践し、みんなに豊かな人生の考えを示しています。私達を必要とする人々の人生を私達は変えます。

津波と原発事故の大災害の復興支援を継続し、被災されたロータリーの地区、クラブ、ロータリアン

の要望に答えることを決議致します。

【決議第 9 号】

『2016 年度規定審議会の地区代表議員及び補欠議員を選出する件』

2016 年に開催される規定審議会への地区代表議員として塚原房樹パスト・ガバナー、同補欠議員に丸山淳士パスト・ガバナーを選出することを決議致します。

【決議第 10 号】

『シドニー国際ロータリー大会への参加を推進する件』

2014 年 6 月 1～4 日にオーストラリア・シドニーにおいて開催される国際大会に、当地区並びにご家族の積極的な参加を推進することを決議致します。

【決議第 11 号】

『次期地区大会開催に関する件』

2014-2015 年度国際ロータリー第 2510 地区、地区大会は札幌南ロータリークラブをホストクラブとして札幌市において開催することを決議致します。

【決議第 12 号】

『地区大会ホストクラブ、コ・ホストクラブに感謝する件』

2013-2014 年度国際ロータリー第 2510 地区、地区大会が江別市民会館、江別市民体育館、シェラトンホテル札幌において開催され、多くの成果を収めつつあることは江別ロータリークラブ及び江別西ロータリークラブの周到なる準備と会員とご家族のご協力の賜であります。

よって本大会はここに深甚なる謝意を表することを決議致します。

大会決議案上程承認

国際ロータリー第 2510 地区ガバナー **安孫子 建雄**



ただ今上程されました大会決議案につきましてご意見等ございましたら、お出しいただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか？もしよろしければ、この案で決定致したいと思いますが、拍手でよろしくお願い致します。（拍手）ありがとうございます。

2012 年 -2013 年度決算報告

前年度地区財務委員長

蚊野 好美



2012 年 -13 年度の財務委員長を務めました静内ロータリークラブの蚊野でございます。2012 年 -13 年度地区資金決算報告を申し上げます。詳しくは お手元のプログラム 68 ページから 72 ページに記載の地区資金収支決算書及びその注記をご覧くださいと思います。一般地区資金より申し上げます。収入におきましては、会員数が予定数より減少となりました。会員負担金は、1,139,400 円の減となりました。また、RI 助成金、ガバナー月信購読料におきまして、予算より大幅な減少となりましたが、次期繰越金におきまして、2,660,905 円多い 18,958,107 円となっておりますので、総収入では 51,203,046 円となりました。一方、支出につきましては、負担金、会議費、ガバナー事務所費におきまして、それぞれ経費節減に努め、予算額より 2,873,122 円減で、支出合計額は 31,278,678 円となり、次期繰越金は 19,924,368 円となりました。尚、その他委員会の支出分は、地区大震災救援奉仕プロジェクト委員会の支出でございます。また、臨時支出金はロータリー世界平和フォーラム広島を開催するに

あたりまして、会員 1 人 300 円の負担金の要請がございましたが、予算確定後のために、臨時支出金と致しまして 768,000 円を支出致しました。以上が一般地区資金の決算内容でございます。

次に特別地区資金について申し上げます。収入では、やはり会員数の減少から会員負担金収入が 664,650 円の減で前期繰越金と合わせまして、総収入は 29,781,258 円となっております。一方、支出につきましては、経費等の節減により、地区大会費において 538,370 円の支出減、事業費では 746,110 円の支出減となっており、支出合計額は 16,175,520 円となりましたので、次期繰越金は 13,605,738 円となりました。尚、3 年ごとに開催されます規定審議会代議員費と致しまして 450,000 円の支出を致しております、以上が特別地区資金の決算でございます。役員及び会員の皆様方には絶大なご理解とご協力を頂き、一般地区資金及び特別地区資金ともに単年度の収入内で終えることができました。このことに関しまして、心より感謝を申し上げ、決算報告と致します。

2012-2013 年度決算監査報告

パスト・ガバナー 熊澤 隆樹



2012-2013 年度決算監査報告、パストガバナー 熊澤 隆樹。細川 好弘直前ガバナーより提出された当地区 2012 年から 2013 年度の地区資金決算について、先に蚊野 好美前年度地区財務委員長よりご説明がありましたが、監査致しました所、適正に処理していることを確認し、正確であることを認め監査報告と致します。以上でございます。

大会登録委員会報告（大会信任状委員会報告を含む）

大会登録委員長 細川 好弘



それでは大会登録委員会から本会議の登録数をご報告申し上げます。登録数は1621名となりました。内訳を申し上げますと、ご来賓3名、大韓民国 第3700地区22名、地区外会員6名、ご家族2名、地区内会員1,472名、ご家族42名、札幌インナーホイルクラブ19名、青少年交換学生（ローテックスを含めて）8名、インターアクター（顧問教師を含めて）36名、ローターアクター13名、米山奨学生12名、苫小牧北RCC3名となっており、合計1,621名でございます。

引き続きまして、熊澤大会信任状委員長に代わって申し上げます。本大会に各クラブより、選挙人の信任状の提出をしていただきました。これを国際ロータリー細則第15条第5節第1項に基づき、慎重に審議を致しました結果、提出されました信任状の選挙人はいずれも皆適格であることが確認されました。当地区のクラブ数は71クラブ、7月1日時点の会員数は、2,514名でございます。さらに、先ほど申し上げました信任状提出の選挙の数は、107名でございました。以上のことが確定致しましたので、ご報告申し上げます。



大会選挙管理委員会からご報告申し上げます。当地区の2014年度から2015年度のガバナーに札幌南ロータリークラブの羽部 大仁君が決定しております。2016年から2017年度のガバナーにつきましては、現在、ガバナー月信を通じて12月1日必着で候補者の推薦を依頼しております。以上、選挙管理委員会からご報告を申し上げます。ありがとうございました。

記念講演 「お金の世界」から「いのちの世界へ」

福島県飯舘村 村長

菅野 典雄



ロータリーの皆さんこんにちは。ただ今ご紹介いただきました、福島県飯舘村の村長の菅野であります。このような素晴らしい席にお招きをいただきまして、まずもってガバナーはじめ役員の皆さまに心から御礼を申し上げたいと思います。さらに、村の大変な子どもたちを北海道にお招きをいただいたり、車を贈っていただいたり、本当に皆さまの熱い心に御礼を申し上げながら、少しでもその気持ちをお伝えできればということでこのようにはせ参じさせていただきました。本当にありがとうございます。あらためて御礼を申し上げます。福島県の阿武隈山系の中にある、6000人の小さな純農村でありますけれども、今回の原発事故によって、全村民、避難ということで今、2年半、過ぎようとしているわけでもありますけれども、まだまだ先は長いな、そんな感じであります。そういう中で、きょう、お時間をいただきましたので、どんな村だったのかというの

と、それからどんな避難生活を今、状況なのかっていうような話、そして最後に、この原発事故から私たちは何を学んでいけばいいのか、次の世代にどうバトンタッチすればいいのか、そんな話を私見を入れて話をさせていただければというふうに思っていますので、どうぞよろしくお願ひしたいというふうに思っております。さて、今から15、6年前でしょうか。かなりの識者が、いわゆる有識者がですね、「日本は第3の転換期に来ているよ」という話を何人かがしておりました。第3ということですから、第1、第2もあるわけでありまして。第1は当然、明治維新、そこから日本は新しい日本が生まれたってというのはわれわれ、歴史はテレビで見てるわけがあります。それから7、80年して日本は第二次世界大戦に入って、戦争に敗れたことによってまたそこから今の民主主義はスタートした、こういうことでもあります。第1の明治維新で、何が滅びていった

のかというと、一言でいえば、武士の時代が終わりを告げたといっているのだと思います。じゃあ第2はということになりますと、軍人の時代が終わりを告げたといっているのだと思います。まだ世界には軍人が幅を利かせて戦争やクーデターをやっている所、本当に子どもの姿を見るとかわいそうだな、日本は幸せだな、こんなような思いであります。戦争に敗れたことによって、幸いに戦争に敗れたことによって私たちはこの平和な国にこうして住んでいられるということでもあります。幸いに戦争に敗れたことによってという話をしましたが、これはもう全くの間違いであります。あの戦争で、尊い命を落とした多くの人たちのおかげ、さらに、あの荒廃した日本、何とかしなきゃならないということで必死に働いて頑張っていたその当時の先人のおかげで、この平和で豊かな国に私たちはもうすでに60年、70年過ごして来れたということであると思います。武士が終わりを告げ、軍人が終わりを告げ、もしこの第3の転換期があったとすれば何が滅びていくんだろうな、と考えました。これはもう人それぞれ色々な言い方があるだろうと思いますが、私は多分、時代の流れを読めない者が滅びていくといっているのだと思います。多分そのはしりは、山一證券がつぶれたということからスタートしているという感じがしています。少なくとも証券会社とか銀行はお金を扱っているわけですから、つぶれるはずないと思っていたのが、今はもう、そういつてられない時代と、こういうことでもあります。まさに、そうしますと、われわれは、時代の流れをやはりしっかりと読んでいかないと、これからは家庭とて、会社とて、あるいは自治体とて国とて滅びない保証はないというのが第3の転換期なんだろうなというふうに思います。ですからある意味では意識をして頭を柔らかくしていかなければならないだろうということでもあります。昔は10年ひと昔、ゆったりと流れていました。しかしもう、そんな時代ではありま

せん。もう3年ひと昔、1年ひと昔、場合によっては昨日黒と言ってきょうは白だということだってあり得る時代であります。何も新しいものだけが全て良いというつもりは全くありません。われわれは大切なことをずいぶん、置いてきてしまった、忘れてしまったなということもありますから、全てとはいいませんけれども、これだけ世の中の流れが速いと、やはり時代の流れをしっかりと読んでいくということが必要であろうと、こんなふうに思っております。例えば、家庭とて、つぶれない保証はないという話をしましたけれども、実は「男は仕事、女は家庭」こういわれていたわけでもありますけれども、もう今、それはある意味ではもう死語かなという気がします。できる人がやるという時代になっていることはもう、皆さま方もおわかりだろうと思います。実はこれ、東北のどこの県かはわかりませんが、ある程度年配の方が、東京に居る息子が赤ちゃんを産んだ、よしじゃあ、孫の顔を見に行こうということで、新幹線に乗って、行ったそうです。アパートの前に立ったら、ベランダで息子が一生懸命洗濯物、おしめを干していたということ。一晩泊まって帰ってくる新幹線の中で、「いや夕べ、眠れなかった。うちの息子、おしめ干しさせられていた。おしめ干しさせるために東京の大学を出したわけでないのに、どうもうちの嫁は、はずれたようだな」と、こう言って、残念がって帰ってきた。1年過ぎたら今度は娘さんがまた、子どもを産んだっていうんで、また孫の顔を見に行こうということで、行って、その家の前に立ったら、その旦那さんも、またちょうどおしめを干してた。それで泊まって帰ってくる新幹線の中で、「いや、うちの娘は婿を当てたな」と、こう言ったというんですね。息子には旧憲法、娘には新憲法を堂々と使い分けている方が世の中にはまだ居るという話ですけども、まさに、少なくとも、奥さんのパンティが干せるから洗濯物干しているわ

けでは全くありませんよ、私もやっているわけではありますけれども、そうしないとやっぱり生きていけない、生活が成り立たないということで、男でもできるようなことということで、洗濯物を干すくらいはということでやっているというのが現実だろうというふうに思います。ですからまさにそういう言い方すると、固定観念で「男は仕事、女は家庭」という時代はもうすでに終わっているといっているのではないかなという気がします。まあ、本当は私、そちらのほうの話は本丸なんですけど、もう一つだけお話ししますと、このロータリーの皆さん方は、かなりこういう集まりに奥さんと一緒に来られているという話ですね。私はこれはもう、ロータリーの皆さんは社会奉仕という精神でございますけれども、それ以上の効果があるんじゃないかと私は思っているところでもあります。つまり、われわれは助け合い、補い夫婦が理想の夫婦だよというふうに教わって実行してきたわけでありまして、これもまた時代遅れだということでもあります。なぜかという、この助け合い、補い夫婦の根底には、人間は半人前だから、夫ができないことは妻が、妻ができないことは夫が、という話だろうというふうに思います。ですからもう、われわれは半人前ではありませんから、一人前だという観点に立てば、助け合い、補い合い、それはもうしなければなりませんけれども、お互いに生かし合える、高め合える関係をやっぱり作っていかなくちゃならない時代になっている、ということだろうと思います。そういう意味で、ロータリーの皆さん方は、まさにそれを実践している皆さんじゃないかなと思ひまして、社会奉仕以上に、そういう点がもう、もっとPRされてもいいのではないか、あるいはわれわれは評価をしていくべきだと、こんなふうに思っているところでもあります。ちょっと話は他のほうに逸れてしまいましたけれども、実は、そういうことで、意識をして、頭を柔軟にしていけないと、なかなか時代の流れに乗れない

し、また、労多くして実結ばずということもあるので、意識をしてやはり頭を柔軟にしていけることが大切な時代だと、このように思っているところでございます。頭を柔らかくするとどういふ効果があるかということで、いつもちょっと古い話で失礼なんですけど、この話を出させていただいています。これも約20年近く前でありまして、女性の方が身に着けられるブラジャーが1年間に300万枚売れたということで、かなりの新聞に載ったことがあります。今、天使のブラとかヌーブブラとか、私付けませんから、かなりの名前挙げているんですがよくわかりませんが、それのはしりだったわけでありましてね。いわゆる、英語で「グッドアップブラ」という名前を付けて出した。英語の中の名前にも意味は入っているんですが、あえて日本語で「寄せて上げて」という言葉を使ったんですね。そしたらあっという間に300万枚売れたということで、「ああこれは良いネタだな」と、ちょうど私、原稿頼まれていたので、「寄せて上げて300万枚」という題で、こんなふうを書いてきました。「この、寄せて上げてという実にわかりやすい言葉が胸元を魅力的に見せたいという女性の心理をいたくすぐり、多くの女性に買わせてしまったようだ。寄せるものも、上げるものもない私たち男には、5000～6000円もするものを、すわと買いに走る気持ちがちとわからない」と。「しかし、胸の谷間クッキリに生唾を飲むことだってあるんだから、この女性の心理、理解してあげなければならないだろう」と、こう書かせていただいたわけですが、実はこの「寄せて上げる」という言葉を添えなかったら、いくらブラジャーに寄せて上げる機能があったとしても、売れなかったはずですよ。まさに、ネーミング一つ、キャッチコピー一つで会社の命運が決まるということだっていくらでもある時代が、もうすでに20年くらい前から進んできている。そして今もこれからさらに、ということになりますから、「今までこうだったら、こう

だった」では、なかなか、先ほど言いましたように、
労多くして実結ばずということだっていくらでもある時代ですから、まさに頭を柔軟にして、時代の流れを読んでいくということが必要と言っていいのではないかなというふうに、こう思っております。もう一つ二つご紹介しますと、私、実は本当は、気分転換するのには女房を変えれば一番いいんですけども、そういうわけにはいきませんので、名刺をどんどん変えて、気分転換をしています。相手によってかなり振り分けながら、「この人にはこの名刺のほうでいいかな」と、こんなふうにやっているんですが、実はそういうふうに考え付いたのは、私はいろいろな活動の中で、かなり面白い名刺をお渡しをいただいてですね、そこからヒントを得させていただいた。これは全くの主婦の方です。普通ですと、主婦の方は「私はどこにも会社に勤めていないし、何の役割ももらっていないから名刺なんか作れないわ」という、のはあるけれども、それ以外は何もないわ」という方が居るわけでありすけれども、この方は全く普通の方でありますけれども、名刺にこんなふう書いてあります。「土に根を下ろし、風とともに生きよう。種とともに冬を越え、鳥とともに春を歌おう。人間は土なしでは生きられない」。この人の思いであります。それでもう、肩書になるわけであります。ああ、なかなか良い女性だな、この人と付き合って損はないな、という気が致します。例えばこの名刺は実は、ここがハッとします。普通の女性の名刺は、角を取るとか、少し角を丸めながら小型にすることまでは誰でもできますが、この方はここを切ります。これは何か間違いだろうというふうに思ったとすれば、それはその人は感性がないと言っていいんだろうというふうに思います。ものすごい活動をしているからここをカットできるんですね。ユリという名前の方なんです、「今自分がやっていることが21世紀に花開くと信じて」まあ、ずいぶん前にもらった名刺なんです、「ば



かになって頑張っています」ということで、ユリの絵柄を描いて、枯れないユリというふうに書いています。なんであれ、前を向いてやっていきますよ、ということ。「ああいい感じの人だな、この人と付き合って損はないな」という感じが致します。この方、「これはあなただけの特別な名刺ですからね」と言われて、「初対面なのに私に気があるのかな」というふうに思って、鏡を見たけれどもどうもやっぱりそうでもないらしい。で、「どういうことなの」と言ったら、押し花がしてあったんです。ということは、ある程度は印刷していますが、押し花はたとえ同じ花でも人間の顔と同じように二つと同じ物はないですから、これは全くあなただけへの特別な名刺になるということでもあります。そういう意味で、なんといいますかね、私も作ってみようと思ったら、あちこちに早く配ってまた良い名刺を考えられるというのも頭を柔軟にする一つのきっかけになるかなという気がします。もう一つこれは最後に。実は今回の震災で山形のお坊さんがいろいろあちこちから義援金をもらったもので、こういうタオルを作って、かなり何十万枚って配ってるんです。これ、「まけない」って書かれてるんですね。つまり、震災に負けなようにしようと、こういうことなんです。でもっと意味があるんです。この短さですから、全然、巻けないんですよ、どこにも。お坊さんでさ

え、こういうアイデアをやっぱり出すわけですよ。そういう時代ですから、固定観念に凝り固まらないようにしていかないと、何度も言いますように、労多くして実結ばずということになるということではないかな、そういう意味で、第3の転換期はまさに、時代の流れをしっかりと読んで進んでいくということが減びないということではないかなと、こんなふうに思っているところであります。さて、私はずっと日本で生まれて良かったな、日本人で良かったというふうに思っていました。それはどういうことかといいますと、日本は世界一安全な国だからであります。私は21年生まれですから戦後生まれでありますけれども、戦後の、何ていいますかね、戦争の抑圧された中からなんとなく出てきた人間なのかもしれませんけれども、そういう意味で世界を見ますと、なかなかそうではないなと。私のような田舎では十数年くらい前まで、ほとんど玄関は鍵を閉める方は居ませんでした。今はちょっとやはりそういうわけにもいかない時代になってますけれども、あるいは何か物を忘れても、名前を書いていると戻って来るし、あるいはエリアがちょっと狭くすれば、名前を書いていると戻って、「これ多分あの人よ」ということで、戻ってきたわけでありまして。世界はそんなことは、許されません。もう皆さん方はかなり外国に行っている方ばかりだと思いますが、必ず行くときは、レクチャーを受けるはずだと思います。自分の持ち物は自分から絶対に目を離さないように、と。もし離したり、あるいはとられたとすれば、それはとった人が悪いんじゃないかと、とられたほうが悪いというレクチャーを受けてということになりますから、まさに日本は世界に類を見ない安全な国、と断言していいはずだったわけでありまして。だったわけなんですけど、近ごろどうも、危ない国に近づいているんじゃないかという気がしてなりません。これも、古い話かもしれませんが、姉齒事件というのがありました。自分で仕事が欲し

くて、設計中のいわゆる鉄筋などの太さなどをごまかして、震度5で倒れるマンションが結構建ったんじゃないかという話で、かなり大騒ぎしたことを、皆さん方も知る人ぞ、知っていらっしゃると思います。福知山線の脱線事故というのもありました。スピード、カーブを出し過ぎて、100人くらいを、ビルディングの中にぺちゃんこにしてしまった。500人くらいが傷を負ったということになりますね。この前、スペインだかどこかで、まさに倍のスピードを出して脱線したというのもあるわけでありまして。日本の鉄道事故では福知山線の脱線事故はまさに最大の事故でありましたから、5年くらいはずっと、その事故のあった日に特集記事がテレビ局でやっていました。多分3年目くらいだったと思うのですが、2両目に乗っていて、奇跡的に助かった若い女性がテレビに出ていました。もちろん2両目でありまして、かなりの傷を負ったわけでありまして、顔は少し整形されてるなあという感じが見受けられましたし、言葉も片言だったようでありまして。ですから、まあ、それでも美しかった。だから私はついつい、妻とテレビを見ながらですね「こんなにすてきな女性だったら、この事故に遭わなければ、前途洋々の未来があったらうに、この電車に乗ってしまったために、多分これから大変な人生を歩むんだろうな、何ほど事故が恨めしいだろうな」、こんな話をしましたら、わきで見ていた妻がですね、「実は私も若いころ事故に遭ったの」という話をしまして。これはもう、私は聞いたことがありませんでしたから「それは電車なのか、バスなのか」という話をしましたら、「いや、乗り物ではなくて、あなたに会うという事故に遭って、このように皺になってしまいました」と。なかなか、良い答えを出すな、座布団1枚だと、そういうことでありますけれども。まさに本題は、スピードを落とさなければならない所を、スピードを出し過ぎて、こういう大変な思いをさせてしまったということでありまして。ライブド

ア事件というのもありました。食品の偽装もこれだけ騒がれながら、結構時々出てきます。それから、オレオレ詐欺、振り込め詐欺、近ごろはどうも、振り込ませないで誰かがおじいちゃんの所まで取りに行くという話がこの前テレビでやっていましたが、大体何カ月か前、半期で約220億くらいのお金をお年寄りから巻き上げていくんだそうであります。なんで、こういう事案が出てくるようになったのかという思い。皆さん方も、お思いだろうと思います。今お話ししたことは皆原因は違います。ただ一つだけ共通点があります。多分それは、戦後一貫して効率を求めるように、効率一辺倒、スピーディーにやれ、お金が全ての全てだ、そういう物差し、価値観で私たちは戦後突っ走ってきたわけであります。その後遺症が今、色んな形で噴出しているということではないかなというふうに思います。後でお話しさせていただきますが、効率を求めることも、スピーディーにやることも、お金も全てこれからも大切な価値観、基準であります。しかしもう時代は、その物差しが、10分の10ではない時代が来ている。つまり、ものによってはそれは、1対9か、3対7か、5対5か、わからないけれども、それとはまた違った物差し、価値観が大切な時代になっているよ、というのが多分、第3の転換期なのではないかと、こんなふうに思っているところであります。まさにそういう意味で、効率、お金、そういうものだけでない価値観ということであります。それが全ての世の中の物差しだとするならば、どうしたってやはり、人間と人間の関係が希薄になっていかざるを得ない。他人と他人に限りなく近づいていく。そうすると自分さえ良ければ他人はどうなってもいいという事案が起きてくる。むしろくしゃして、誰でもよかった、みたいなものも起きてくる。他人がどうなっても、というのは決してほめられたことでも全くありませんけれども、まだ、自分の子どももどうなってもいいというよりは、少しは程度はいいのかなという気

はしますが。自分の子どももどうなってもいいという方が今、日本で大体60人から70人、親に殺されていると、こういうことのようにあります。これは、今から5年前に、青森県であった事案であります。小学校4年生の男の子を、お母さんは何があったかわかりませんけれども、首を絞めて殺してしまったという事案であります。まあ、かなりセンセーションだったんですが、ある新聞社が実はいろいろ調べてみたら、この子どもさん、小学校2年のときに「お母さん」という題で詩を書いて、晩翠わかば賞をもらっているという記事を新聞に載せてくれました。非常に心打たれるものがあったので、ずっとコピーをして持っている、話のネタにさせていたというのであります。まあ、ネタという話ではありませんけれども。「お母さん」という題です。「お母さんは、どこでもフワフワ。ほっぺはプニョプニョ。ふくらはぎはポヨポヨ。太ももはボヨン。腕はモチモチ。おなかは小人さんがトランポリンをしたら遠くへ飛んで行くくらい弾む。お母さんはとっても柔らかい。僕が触ったら温かい気持ちいいベッドになってくれる」いかがでしょう。これほど、自分を産んでくれた母親を、いとおしく、ありがたいなど、そういう子どもなりに思いを表した言葉は、私は知りません。それを母親は手をかけてしまったわけであります。まだいろいろあります。先日何かあったような気がします、これもずいぶん前かもしれませんが、欄干からかわいい娘を突き落としたりという事案もあったような気がしますし、これは数年前ですか、都会のアパートに3歳の子どもと1歳の子どもを置いて、母親は1カ月鍵をかけて帰らなかった。それである人が開けてみたら、寄り添って白骨化しつつあったという話であります。こんな理不尽なことが、あってはならないはずなのに、ある国に近づいているような気がしてなりません。実は、ブラジルに今でもジョエルマの奇跡というのがいわれているんだそうです。これはど

うということかという、あるお母さんが小さい子どもと、あるホテルに泊まったらちょうど、偶然にも運悪く、火事になってしまって、10階くらいに泊まっていたお母さんはもう煙でどこにも逃げようがないということで、お母さんはどうしたかっていうと、ホテルのカーテンを必死にちぎって、帯にして、子どもをしっかりと自分の体に結わえつけて、10階から飛び降りたということでもあります。普通ならばもう、どちらも終わりですが、奇跡的にもその子どもだけが何かにバウンドしたかはわかりませんし、お母さんの体がバウンドになって助かった。ということで、今でもこのジョエルマの奇跡というのがいわれて、これが本当の姿なんだろうと思うんですが、どうもわれわれの年代は皆そうだったはずなのが、いつの間にか自分の子どもを自分の都合のいいようにすればどうでもいいような形になってしまっているということでもあります。少しでも、気付いた人が少しでも修正をしていって、次の世代により安全な国をバトンタッチしていくということが必要ではないか、そんなふうに私は思っていたので、今から10年くらい前ですが、私が一応責任者として、村の10年計画、振興計画を作るときに、さて何をつくらせようかなと思って、ふと思いついたのが、スローライフという言葉で、出してですね、そのコンセプトで村の10年計画を各課それぞれ作ってくれませんか、スローライフです。ところが、その話をしたら直ちに役場の職員から、「村長、何を考えているんですか、もう道路は造らないということなの、農業振興はしないということなんですか」という話になります。決してそんなことをいっているわけでは全くありません。だんだん、スローライフという言葉で村の計画を作るんだそうということが、村民のほうに広がってきますと今度は、役場の悪いところはスローなのに、もっとスローにする気かと、こういう話になります。決してそんなことをいっているわけではありません。毎日、職員

には「もっとスピーディーにやれ」と言ってるわけですから。つまり、今まで戦後一貫して、スピードは善で、スローは悪だという固定観念を持ってきたために、今度はスローという言葉を使うと、スローが善で、スピードは悪なんだというふうに誤解してしまったということからの、今の話ということではないかなという気がします。参ったな、何とか良い方法はないのかなと悩んでおりましたら、うちの職員が、「村長が言わんとするスローライフは、までいライフに置き換えてもいいのではないか」という話をしてくれました。までいというのは、われわれが小さいころよく大人から、あるいはおじいちゃんおばあちゃんから言われていた方言であります。使い方は「小さいころまでいに子どもを育てないと後で苦労するよ」とか、「までいに仕事をしないと、なんというあらっばしい嫁さんだろうと言われるから、しっかりやりなよ、ちゃんとやりなさいよ」という言葉で使われていた言葉であります。スローライフと、どうもぴったりはしないけれどもそう遠からずかなと、そちらのほうの方がわかりやすいとすればそれでいいだろうということで、「までいライフ飯館」ということで10年計画を作らせていただいて、いろいろな事業をやりながら10年計画の7年目に入ろうというときに、先ほど申しましたように、原発事故に遭って、全村避難ということで、全くそれが完成せずに今のような大変な状況になってしまったということでもあります。6年間、いろいろやってきましたが、一体、ただの方言なのかどうかということ調べてみようということいろいろ調べてみました。ありました。辞書に。ただし、1,000円、2,000円の辞書にはありませんので、どうしても調べたい方は高い辞書を買うか、図書館に行っていたらと思いますが、真実の真に、手と書いて、「真手」。これがどうも方言だということでもあります。ちょっと遠くて見えますでしょうか。真実の真に手と書いて、「真手」と書いてあります。

それが方言ですから、「まてい」になったり、「までい」になったり、「までえい」になったりということです。もしかしたら北海道の方も、一部言う方が居るかもしれませんが、聞いたことがあるかもしれません。辞書には、「左右そろった両手」というふうに書いてあります。つまり、お茶を出すのにも、両手で「どうぞ」と言うのが本来の出し方で「さあ飲みなよ」ではないわけです。そういえば、小さいころキャッチボールするときに、グローブで取ればいいんですけども、こっちの手を添えるのが基本だよと教えられたような気がするな、まあこれで取れるけども、手をこちらを添えておけば、万が一の打球も防げるよと、こういうことでありますから、基本に忠実にということから、日本語で、こういう両手ですから、大切に、念入りに、じっくりと、時間をかけて、手間暇を惜しまず、心を込めて、つつましく、もったいない、まあ、もっと色んな日本語があるかもしれません。非常に、これから大切な日本語ではないか、ということで、自信を持って、までいライフをすすめてきた、ということであります。先ほどお話ししましたように、ちょっと違う価値観が大切な時代になってきているよ、ということでもあります。効率もスピードもお金も、これからも間違いなく大切だけれども、それが全て、10分の10の時代ではないよということでもあります。それをどうやって、スローライフをまでいライフに置き換えてはおりますけれども、住民の皆さまに知っていただくか非常に悩みまして、こんな、卓球大会を実施をしておりました。卓球、結構ブームであります。当然、卓球っていうのは相手に強いサーブを打って、打ち負かして優勝する、これは卓球、誰でも当たり前の話であります。私の村の卓球はその基準ではありません。相手に返しやすい球を打って、お互いに返しやすい球を送って、ある一定の時間に何回続けられるかが勝負ということでありまして、夫婦の部とか親子の部とかそれぞれの色んな四つ、五

つの部があって、大会をやっているわけであります。一番やっぱり盛り上がるのは夫婦の部です。奥さんは間違いなく、優しい球を返します。男は単純だから、たまにいい球が来るとたたくんです。そうすると周りの外野から、「なんだお前、それが30年連れ添った思いやりか」とジャブが入って、非常に和やかな、まさに普通の卓球大会では絶対に醸し出せないような暖かさ、絆、心の通いが出てくる。つまり、ちょっと基準を変えると、今までとは違ったそういう大切なものも出てくる可能性がありますよということを知らせるためにそのような卓球大会をしているわけです。こういうことであります。基本的にこれからは、ないものねだりする時代ではありません。あるもの探し、あるもの生かしをしていくという時代だろうと思います。今までは隣の町に文化センターが建ったから、私の周りにもどうしても必要だということで競争してたわけではありますけれども、もうそんな時代ではない。もう一度自分の足元を見つめれば結構、宝物はあるんじゃないのということでもあります。もっとまた別の言葉で言い換えれば、いわゆる自主自立、自分のできることは少しでも自分でやっ払いこう、こういうふうにとっていいのではないかという気がします。また、循環型社会をつくる。物であったり、金であったり、人であったり、こういうものを循環するということをつくっていくということなのかなあっていう気が致します。固定観念という話をしましたが、もうすでにいわゆる数で数えられる物の豊かさっていうのはわれわれはほとんどもう、満足をしているはずですから、これから求められる豊かさっていうのは、数で数えられない豊かさ、ああ感激したな、良かったな、幸せだな、熱い思いが心に届いた、というもの、これは残念ながら数で数えられません。今までは服が1着でなく2着になった、あるいはお金が貯まったという話で数えられるわけではありますが、今言ったような心の問題は、全く数で数えられません。

われわれはどんどんと、忙しくはなっていますが、一方で自由にできる時間というのは増えているはずでございす。その、増えている自由な時間を何に使うか。自分のため、それから自分の家族のためにだけ使っていたのでは、残念ながら、数で数えられない豊かさはなかなか求められないということではないのかな、そこにまさにロータリーの皆さま方はもう、長い間そういうことを自分の心にしっかりと留めてやってきた、素晴らしい方の集まりだろうと私は思っております。今、私たちは80年生きてられる、あるいはもっと寿命が延びておりますけれども、80年ですから、24時間かける365かける80ということになりますと、大体時間にすると80万時間あります。一生懸命働いているなあと思っておりますが、仮に8時間働いて、残業あるでしょうけど、仮に8時間働いて、1年に220日くらい、250日くらい働いて、40年間働いたとしても、働く時間は7万時間です。80引く7。これが私たちに与えられたある意味での自分の時間です。もちろん寝る時間も、トイレに入る時間も、化粧する時間も必要でしょうから、全てというわけではありませんけど、少なくとも自由に使える時間はとんとんと増えて行っているはずですから、その増えていっている時間を何に使うか。自分のため、自分の家族のために使っているだけでは、何度も言いますように、数で数えられない豊かさは求められないということではないか、それをしっかりと皆さま方は社会奉仕であったり、色んな形で、まさにより良い社会をつくっていかうということで頑張っていた方がいい方だというふうに、私はずっと思ってきました、今までですとなんとなく、ロータリーとか、ライオンズみたいなものは、ある程度お金のある、まさに特殊な人の事業団みたいなふうに思っているのですが、そんなことでは全くないはずでございす。皆さん方の純粹さを、われわれはしっかりと次の世代にも引き継いでいかなければならないと、こういう

ふうと思うところであります。さて、そういうことで頑張ってきた村でありますけれど。残念ながら全村避難ということになってしまったわけあります。実は私の村は、あの原発の所からは30キロにごく一部がかかって、あとは40キロ、50キロだったんですね。ですから、ほとんど私たちも大丈夫だと思っていましたし、他の方、原発の近くの方も、飯館村は大丈夫だという思いで、当時1200人が私たちの村に避難をして、体育館やその他を開放させていただいて、一生懸命、3食、あるいはお風呂に何とか入れたりとか、必死になってやっていたわけですが、だんだん、原発が次々と爆発してきました、風のいたずらで、私の村のほうにも、どうも流れたようで、飯館村、放射線量が高いですよ、水は飲んではいけませんよ、あるいは、土壌が汚れていますよということで、全国に飯館村、飯館村ということで、毎日のように放送されてしまった。こういうことであります。その対応に四苦八苦していたわけあります。できるだけ、やはり避難のできる人は、ちょっとでもいいから避難をしていただきたいということで、栃木県の鹿沼に3月の19、20日に50人ほどお願いをさせていただいたり、あるいは、飯坂温泉という所に、小さな赤ちゃんや妊産婦の方は避難をしていただいたりとか、色んなことをやっていたわけではありますけれども、だんだん、そういう、あるいは一方では水が飲めない家庭が全てですから、ペットボトルを必死になって配ったりなんだりをしていたわけではありますけれども、だんだんそういうのが過ぎていきましたらばちょうど約1カ月たったときに、国のほうから、飯館村は年間20ミリシーベルトを超えそうなので、計画的避難地域ということでおおむね、1カ月くらいの間に全員避難してくださいという話が国のほうから来たわけあります。避難しなければならないっていうのはもうわかっていましたが、全員という、低い所もありますから、そういうふうに思って



たんですが、全員避難ということになりました。まあ私は、さてどうしたものか、何とかゴーストタウンにしない方法はないものかな、ちょっとでもいいから、なんか村の中に住む動きができないものだろうか、そんなふうにも考えたり、あるいは、若い人たちが300人くらい勤めていらっしゃる工場がありました。また、別な所は80人くらい勤めている会社がありました。そういう若者の職場を避難によってつぶしてしまったのでは、なかなか復興は難しいな、何とかそういうのを少しは残せる方法はないのか、必死になって考えました。線量計を持っていろいろ調べてみたら、室内は非常に低いということで、まあ、0.3マイクロシーベルト、まあ、変な言葉使いますが、私も全くわかりませんでしたけれども今はそういう言葉がパッパと出るようになってしまったわけでありまして、ミリシーベルトとマイクロシーベルトは、1000分の1ということですが、室内は、1時間に0.3マイクロシーベルト、1年間に20ミリを超えるので出なさい、そこで計算してみますと、室内で避難は

しながら、室内でできる仕事に、通勤をして室内で仕事して、また避難をするということをすれば、どうも20ミリというものがオーバーしないなという計算に行きつきまして、いかがですか、そういう方法もあるんじゃないですか、国は20ミリと言ったんですよ、という話。あるいは、飯舘村には120人くらい入っている特別養護老人ホームがあるんです。前に避難している所の方は、病院であれ、福祉施設であれ、大体避難するときは、ほとんど地元はありませんので、6時間、8時間、関東圏の病院や福祉施設に時間を6時間も7時間もかけて輸送して、また、そこから転々とし、介護やその他の手が変わる中で、だんだん具合が悪くなって、亡くなって帰ってくる、こういうのがもうかなり、毎日のようにありましたから、そういう避難をさせることが国のやり方ですか、違うでしょう、少なくとも特別養護老人ホームに居る方は、言い方はおかしいかもしれないけど、一番安全な所に、外に一步も出ないでいるんですよ、その方を動かして悪くするというほうがはるかに多いし、実際なってるわけです。そ

れが国のやり方ですか、という、あの当時必死になって国とそういうやり合いをしながら、結果的には「わかりました」と国に言わせて、特別養護老人ホームも、工場なども残させていただいた、ということがあります。その会社は、その避難中にジャスダック上場してしまいましたけれども、そんなことがあります。避難はしなければならない、でも避難することによって村民の生活を全くズタズタにしているのかということでもあります。われわれは住民と責任を持ってるわけですから、そうしますと、国やマスコミは放射能やマスコミは「避難しろ」と言っていれば、どこからも非難は来ないわけでありすけれども、われわれは非難が来ないからってということで、村民の生活をバラバラにしているということにはならないということで、何とかできるだけ3000頭の畜産の村でありましたから、牛の処理をしながら、村から1時間以内の所にできるだけやっぱり避難ができるようにということで、色んな所に避難をさせながら、1次避難から2次避難ということで今大体、9割の方が村から1時間以内の所に避難をしていただいているということですから、いろいろな動きができます。しょっちゅう集まりもある。それから、そうですね、学校も1年目は仮のでありましたけれども、2年目はもう自前の仮校舎を造って、そちらで勉強しているということでもあります。中学校は約7割、小学校は6割、幼稚園は今4割という状況があります。それが、自分たちの学校に入っている。それ以外はやっぱり転校しているということなんです。これは大変だなあと思うかもしれませんが、これは画期的な数字であります。福島市に大森小学校という40人くらいの小学校がありますが、6年生1人でした、今。ですから今度の卒業でその方が卒業すればその学校は終わりです。双葉町という所があります。いろいろ話題になった所ですが、2年半たって、今もって、自分のところの学校は一つも開いていません。開けないんです。来年から開きた

いという話でアンケートを採ったら、2パーセントだけ戻りたいということでもあります。浪江町という所があります。2万人ですから、私の村の3倍ですから、大体1000人以上の子どもたちが居るんですが、小学校、中学校、一つにまとめて、今小学校が17名、1年生なし、中学校が25名くらいということで、この前福島県の新聞に大きくトップ記事で載りました。全国に700校に転校していると。こういうことでもあります。700校です。ものすごい。これを、しょうがない、集めて自分の町の学校に、などということはもう、あり得ないという状況ですね。まさにそういうことがあり、また、今避難をして仮設住宅やあるいは借り上げアパートに住んでいただいている方も、当然、今までは自分の家に居ればのびのびと、その辺の片づけをしたり、庭の草むしりをしたり、色んなことをしながら過ごせたわけでありすけれども、何もできないということですから、どんどん心と体が病んでいく。皆、食べることは食べて、動かないですから、大体腹回りがバンド二つくらいは緩くなっているかな、緩くしないと、という状況ですから、当然血圧が上がった、糖尿病になった、あるいは入院しなければならなくなった、通院だ、それから認知が進んだ、あるいは足腰が弱ってもうつえをついて歩かないと、元気で歩いていた人がつえをつかないと歩けない、そんな状況になっているわけです。そういうことでもありますから、まさに大変だなあ、でもその対応を、必至にしなければならない、こういうことでもあります。さて、実はこういう避難をしてみて初めてわかったことでもありますけれども、放射性物質、放射線量、放射能、この災害というものは全く他と別だな、災害にはいろいろな災害があります。この前、台風で奄美大島が大変な被害を受けました。津波も大変でした。地震も色んなものがあります。重い軽いでいったら、絶対そっちのほうが重い。家がなくなった、つぶされた。家族が亡くなった。もう間違いなく、そちらのほう

が重い。何倍も、何十倍も。私の知り合いも、来年定年という方が、一週間後に、ちょっと会ったら何かソワソワしているので「どうしたの」という話をしましたら、「妻と、嫁と、2人の孫、全てやられました。私と息子だけになってしまいました」、定年間際の人ですよ。何ほどこ、定年になったら、妻との旅行から、孫の成長から、夢を描いていたかわからないものを、全部流されたわけではあります。ですから、重い軽いでいえば、間違いなくそちらのほうが何倍も何十倍も重い。でも、心に傷を負いながら、悲しみ、苦しみ、涙しても、いずれいつの日か、天災だから仕方がないな、ゼロからスタートしよう、っていうときが必ず来るだろうと私は思います。そういう意味で、この放射能の災害は、いずれゼロからスタートというわけにはいかない。ゼロに向かってこれから長い間、世代を超えて、不安と闘いながら、汚された土地の生活と闘いながら、ゼロに向かっていかなければならないということが、放射能の災害の、他の災害とは全く違うことです。なるほど、そういわれればそうかわね、っていう方が、結構声が聞こえます。もう一つそれ以上に他の災害と違うところは、他の災害は間違いなく、心が結束します。家族の中でも、地域でも、自治体の中でも、あるいはもっと大きなエリアでも。しかし、放射能だけは、心の分断の連続です。私たちの年代と、小さな子ども、小学生や幼稚園児を持った若い世代では、当然、放射能に関する感じ方が違う。さらに、夫と妻の違いです。離婚が結構あります。奥さんは実家に、危ないからと行けるけれど、夫はそうはいけないということ

があるわけでありますね。同じ村の中で皆で力を合わせてやってきたのに、先ほど言ったように、風のいたずらで、高い所と、割と低い線量の所がある。そこで買える機器が違う、賠償金がまた違う、などなど。ということ、全てそこに、心と心の葛藤といいますか、分断が毎日のようにあるということでもあります。ですから、つまり放射線量に関する感じ方、考え方っていうものは、一人一人が全く違う、違うんだけれども「あなたおかしいよ」って言えないことが問題であります。学者でさえも、右から左まで居るわけですから、とてもわれわれ、それを「それはちょっと考え過ぎだよ」っていう話にはならないということで、居るわけであります。そこに難しさがある。2年半たちましたけども、一応、汚された土地を除染してもらわないとなかなか帰れませんから、早く除染してくれという話なんですけど、これがまた担当した環境省というものの、正直いって、大変だなあという思いはありますけれども、残念ながら現場の経験は全くない省庁が、一番難しい、いまだ



かつてない除染という仕事を割り当てられている。あるいは、環境省そのものは今まで規制省庁、つまり「あれはやっては駄目よ、ここは環境を守らなければいけないからそれは駄目よ」と言ってきた省庁ですから、そこのところが全く直っていないということです。しょうちゅうわれわれとけんかというわけではないですけども、われわれのこの大変な思いにもう少し寄り添えないんですか、という話を今もしているというところでもあります。さて、話はまでいライフ7年目に、という話をしましたが、そろそろまとめていかなきゃなんないな、ってことで、こんなまとめ方をしていこうというふうに、三つにまとめようとしてみました。一つのまでいライフは、戦後ずっと大量生産、大量消費、そして大量破棄、そこで日本の経済は発展してきたわけであり。われわれ小さいころはどっか破れたらおふくろがちゃんと縫ってくれたわけでありですけども、今はユニクロに行ったほうがはるかにいいわけですから、大量生産、大量消費、大量破棄できたわけであり。それはそれでこれからも大切ですけれども、ちょっとやはり、もっと、暮らし方をちょっと考えてみる必要があるんじゃないの、昔風ではないけれど、節約という言葉もやはり必要じゃないの、マータイさんが「もったいない」という日本語を世界に広めてくれましたけれども、そういう発想が必要じゃないのかというのが一つのまでいライフであります。二つ目は、日本人の他の国に誇れる国民性は何だっていえば、多分それは「トラさん、クマさん、しょうゆ貸して、おみそなくなったのよ」「ああいよ、どうぞどうぞ」これが、日本人の良いところだったはずでありますけれども、どうもそうではなくなってきているということ。もうちょっと今風のお互いに、相手を思ったり、気遣ったり、お互いさまだよね、というそういう土壌、環境をつくっていくことが住みよい社会をつくっていく、居心地のいい地域をつくっていくということではないのか

などというのが二つ目のまでいライフであります。そして、三つ目は、つらつら考えてみるとどうも日本人は自分で考え、自分で判断し、自分で責任を取るというのが薄い国民になってはいないのかということでもあります。権利だけを主張して義務を果たさないという方が結構居はしないか。よくわれわれ行政では自分で助ける自助、ともに助ける共助、公が助ける公助という言葉を使うわけですけども、基本的にはこの順序であります。なんとなく、公助に頼りがち、あるいはわれわれ行政も公助をすることが住民サービスみたいになってしまう。基本的にはできるだけ自分でできることは自分でやるということになっていかないと、どんどん、弱い国になっていくということではないかなというふうに思っているところでもあります。したがって、まさにそういうことをしっかりと考えていかなければならない。今言った三つのまでいライフは、小さな村の生き残り策だというふうに思ってきましたけれども、いざ原発事故に遭ってみると、日本の20年、30年先のありようが、までいライフではないのか、と思うようになってきたということでもあります。どうも、なかなか何度も言いますように、バランスというものをやっぱりしっかり必要だと。これは私、ある東大の先生に、21世紀になる7、8年前に「21世紀はバランスの時代だよ」ということを教えられて、あまりよくわからなかったですけども、なるほどそういうことなのかということがだんだんとわかってきているということでもあります。つまり、今日は、極論に酔う国民になってはしないかということでもあります。郵政民営化、そうだそうだ、って皆、あっという間に自民党の圧勝になったわけであり。コンクリートから人へという、そのとおりで、また政権が代わりました。原発事故が起きれば、脱原発、そのとおり。今は経済成長なしに日本の将来はない、というアベノミクスにそのとおりということに従っています。確かに極論は人間の心

を酔わせます。でも、そんな単純でないということ
はすぐわかるわけです。そういう意味で、もっともっ
と、やはりよく考えて、行動するということが大切
な時代になっている。そういう、単語に酔いしれて
しまう国になっては非常に危ないのではないかとい
う気がしてならないということでもあります。もっと
わかりやすくすれば、1票の格差、まさに、憲法違
反だ、誰もがそのとおりだと思います。しかし、全
てそれで片づけていいのか、といって、いいはずは
ないと思っています。なぜかという、その限りで
いえば、都市部の国会議員だけが多くなって、地方
の国会議員は居なくなって、都市の法律ばかりがで
きてくということになっていいはずがないんだとい
うことですね。ですから、ある一方だけに酔いしれ
ては絶対に駄目だという、そういう総合的なとい
いますか、バランス感覚をこれからもっていかないと
駄目な時代、というふうに言っているのかなという
気がします。そういう面からしますと、今までどち
らかという足し算的な発想で来たわけです。もっ
ともっと、ということで。物は、数えられる物を豊
かにということですけれども、そろそろ、引
き算の中にも本当の幸せがあるんだということに気
付いていかなければならないということではない
か。われわれ、一生懸命働いて、あちこちに、全国
に電気をともしてきたわけでありまして。まさに24
時間電気がついている所をいっぱい増やしてきたわ
けです。その結果、星空がもう見えなくなりました。
それが本当の幸せなんだろうか、そう考えると、も
ちろん電気、夜までついている、必要だろうと思
いますが、もし不必要な電気であればこれからは一つ
一つ消していかなければならないという、そういう
時代なのではないのかなと思います。そういう意味
で、そういうものを、実は気付いている人はいっぱ
い居ます。例えばここにありますが、五木寛
之という有名な作家、『下山の思想』という単行本
を出します。日本は、「さあ、頂上に登ろう」とい



うことでやってきたけれど、そろそろもう頂上なん
じゃないの、下りる、下る、下がるというのはマイ
ナス思考に取るけれども、登山というのは上がって、
下りるというのも、全て登山のうちなんだから、やっ
ぱりもう一度下りながら、周りの景色を見たり、足
元の花を見るっていうのも大切な、そういう時期が
今の日本じゃないですかって話でありますし、あの
JALを再生した稲盛さんさえも、近代文明はなぜ限
界なのか、そういう人たちが居るんですが、残念な
がらまだまだ経済成長なしには日本は全てなし、と
いうのに国民のほうも、7割、8割、9割が賛成し
ているということでもあります。もちろん、これから
成長は必要でありますけれども、成長だけが必要で
はなく、もうそろそろ、成熟社会の中でどう成長
していくかということを考えていかなければならな
いということではないのかなというふうに思ってい
ます。いわゆる成熟社会の中のありよう。今、世界
遺産巡りが流行っています。「言葉にも世界遺産が
ある」という言葉を聞いたことがあります。例えば、
スペインにこんなことわざがあるそうであります。
「多く持っていない人が貧しいのではなくて、多く

欲しがる人が貧しいのだ」という話であります。非常に意味深い言葉であります。日本流で言えば「足るを知る」ということをもう一度やっぱり考えなきゃならないということなのかな。デンマークには「年寄りたちが犯した罪の罰を子どもたちが受ける」。非常にショッキングな言葉ですね。われわれが「もっと便利に、もっと豊かに、もっと、もっと、もっと」と言ってきた結果、どんどんエネルギーが必要になって、原発が五十何機、日本中に建ってしまったということ。そしてこの自然災害の結果、とてつもない事故になってしまって、かなりの人たちが怖くて大変な思いをしている。あるいは風評被害に遭っている。こういうことではないのかなという気がします。ですから、今が良ければ、自分さえ良ければという話ではない、次の世代に、いかに安全な、そして世界から尊敬される日本をバトンタッチしていく、ということになれば自ずとエネルギー政策がこれからどうあらねばならないのか、あるいは1000兆という国の借金がこれでいいのか、あるいは先代から引き継いだこの、北海道の大自然もどんどんと壊していったいいはずはないということが自ずとわかってくるわけですから、そういうものをしっかりと国策として考えていくという日本に切り替えていく、そのきっかけが第3の転換期だったんだけれども、残念ながら第一、第二のように血を見ることがなかったの、われわれは気付かないで来てしまった結果が、こういうことで、天はわれわれにそろそろ考えないと日本も駄目だよ、という試練を原発事故ということでわれわれに与えたというふうに考えられる可能性もあるな、こんなふうに思っているところであります。

さて、実は今、ギリシャがEUが危なくなってきました。皆で力を合わせてやっていこうということなのですが、皆で力を合わせるっていうことになると、努力をしないところが出てくる。やっぱり自助努力をきちんとそれぞれしなかったら、いくら

力を合わせたってやっぱり駄目なわけでありましてけれど、そういう意味でギリシャがちょっと危ないんですが、もともとギリシャっていうのは古代文明の発祥の地であります。アテネという市があるっていうのも皆さん方、おわかりだろうと思います。その、アテネの市民になると、古代ギリシャですから、何千年前なんでしょう、ちょっと私、調べてきませんでしたが、市民になると、宣誓させられていたという話が、ある人から聞きました。宣誓、約束です。こうなったのか、書いたのかわかりませんが、その言葉はどんな宣誓文だったのかというと、「私たちはこの土地を私たちが引き継いだときよりも、損なうことなく、より良く、そしてより美しくして、次世代に残しましょう」というのを何千年前の人たちが約束させられていたという話があります。もう、世界に冠たる素晴らしい近代国家。われわれ、もう一度、次の世代により素晴らしい日本をバトンタッチするっていう考え方が必要になってくる。それを、もっともっと、もっと、ということに少し考えないといけないよ、というのが原発事故。ですから、そこでちょっと日本丸がカーブをきれないとすると、われわれのこの大変な避難生活は、ただの無駄花になってしまうということなのかな。われわれがこの戦後、50年、60年、70年、平和に暮らせたのは、何度も言いますように、あの戦争で尊い命を落としていった多くの人たちのおかげ、頑張ってきた人たちのおかげでわれわれは今があるわけですから、われわれの今の大変な避難生活がいずれ、子どもや孫やひ孫の時代に、「あの原発の大変なときのおかげで成熟社会の日本に少し変わって今があるんだよね」と言われなかったら、われわれは墓の中から、何の役にも立たなかったのかという残念な思いでいるしかないというのはちょっとつらいな、つら過ぎるなという気がします。さて、実は固定観念を取り払うようにという話を何度もしてきました。今、広告なども、全く変わってきていま



す。ある東京の雑誌社。毎年、世の中の皆さんに、国民に訴えるという広告を出して、この広告どこの会社なのと思うと、下のほうに小さく名前を書いているというのがあります。普通ですと今まではギラギラと会社の説明、宣伝、あるいは会社の品物の宣伝をドーンと出すわけでありましたが、逆の手を使っている。もうそういう時代が来ているということであります。この震災に遭った23年。どんな広告をこの会社は出すのかな、非常に興味を持っていましたらば、この広告を出しました。「良い国を作ろう、何度でも」です。ちょっとかなり遠いですが見えないかもしれませんが、マッカーサーがパイプをくわえて飛行機から出てくるあの図がバックにあります。もう皆さん方教科書で何回も見えていますよね。戦後、戦争に敗れたときにマッカーサーがパイプをくわえて、日本を何とかしなきゃなんないということで、来た。そこから、今の日本が

出てきたわけであります。誕生してきた、進んできたわけでありますが、もう一度、良い国をつくろう、この原発事故から、この東日本大震災から良い国をつかって、子どもや孫やひ孫の時代に世界から尊敬される日本というものをバトンタッチしていこう、そうするとそのためにはイケイケドンドンだけではなく、もっともっとやはり、人と人とお互いに気遣い合ったりしながら、あるいは社会を良くしていこうという皆さん方の活動がもっともっとやっぱり広がっていく、そういう心をもっともっと多くの国民、そしてそれ以上に国の政策にやっぱり変わっていただかないといけないのではないか、そんなものを、考え方を、この避難生活からあらためて思いながら、皆さん方に皆でいい国を次の世代にバトンタッチしましょうや、という話をさせていただくということで、私の話を終わらせておきます。どうもありがとうございました。

謝 辞

国際ロータリー第 2510 地区ガバナー

安孫子 建雄



村長さん本当にありがとうございます。昨年の8月ですね、ロータリーの友の8月号で村長のお話を目にしたんですね。その時から必ずお話を聞きたいと思っていました。ずっとその想いで…(涙) ごめんなさい。本当にこんな姿を見せてしまって申し訳ありません。私たちがこれからどうするかということを今回いろんな苦勞をされて、村長は考えておられたと思います。まあどう言ったら良いのかわかりませんが、イケイケドンドンでいいのかな？という話は、昨年のロータ

リーの友から感じられておりましたし、必ずみんなで聞きたいなと思っていました。本当にありがとうございました。私たちが福島に寄り添ってまだまだやることたくさんあると思いますし、どういう形でいくのがいいのかなということをまたみんなで考えたいと思います。今日、このようなお話をいただいたことを感謝申し上げ、私たちの心をお伝えしたいという風に思っていますので、お受けしていただきたいと思います。

この瞬間が来ますと、もう何か終わったような気分でバトンタッチができる相手が決まったということでございますけれども、次のガバナーになられます、羽部 大仁さんをご紹介致します。先ほど選挙管理委員長からのお話がありました。もうすでに決まっておりますし、もう色んな活動をされておりますので、今準備中ということになります。羽部さんは 1951 年 4 月 1 日のお生まれでございます。もうすでにおわかりのとおり、浄土真宗本願寺派の慧林寺というお寺の住職さんでございます。大谷大学の文学部を卒業されて、ご実家の慧林寺の住職になり、現在に至っているということでございます。ロータリー経験は大変長くございまして、1980 年に札幌幌南ロータリークラブに入られています。その後、89 年、90 年に幹事をされ、2009 年、2010 年に会長をされています。特にそれ以前の 93 年、94 年に実は、留萌の富山ガバナーがガバナーをされたときに、地区大会を札幌でやるということで、その

ときの地区大会の幹事をされていたということでございます。そういう部分でいきますと、来年の地区大会は全く問題ないかなというくらいに思いますけれども。そういう経験をお持ちでございます。地区の文献史料室の委員長を務められ、また、2000 年、2001 年地区幹事をされています。地区クラブ奉仕委員会の委員長をされているということでございます。先ほど表彰がございましたけれども、メジャードナーということでございますし、米山の功労者、マルチプルでございます。公職のほうはですね、公職においてはもうお寺の関係のことで本山ですね。東本願寺本山の総務をされているということでございます。ご紹介に代えさせていただきます。多分もう、気持ちはガバナーの気持ちになっていると思われますけれども、ぜひお受けいただいて進んできていただきたいということでございます。ご紹介に代えさせていただきます。

ガバナー・エレクト挨拶

ガバナー・エレクト 羽部 大仁



ただ今丁重なるご紹介を賜りました、札幌幌南ロータリークラブの会員であります、ガバナーをやることになっております、ハブと申します。どうぞよろしくお願い致します。昨年は静内の地区大会でノミニーのごあいさつをさせていただきました。そのときは1年、2年くらいやるので、と気軽な気持ちでございました。全然、緊張も致しませんでございました。ふと、振り返ると、お尻のほうに火がともってござりまして、それはもうすぐ大事な年を迎えなきゃいけないなということで、パッと火をつけさせていただいたのは昨日であります。鈍いといったらそれほどではございませんけれど、ちょっとびっくりしています。身の引き締まる思いであります、最近外食が続きます、体のほうは引き締まっております。最近地区内外の研修やセミナーを受けて、いよいよ、向かう来年度の準備をクラブのスタッフの皆さんと一緒に今、過ごしているところであります。まさに、

この身は、浅学非才であります。どのようにこの2510地区の延々と築いてきたこの歴史に汚点を残さないように何とかする方法はないものかと思っておりますが、人間そう急には変わりません。そこで思いましたのが、ロータリーには素晴らしい心があります。それは寛容という心だと伺っておりますので、どうぞ皆さんにお許しをいただきまして、1年間、勤めてまいりたいと思っております。今回、昨日、きょうと素晴らしい地区大会に勉強の機会をいただいて、ありがとうございました。昨日は公共イメージの向上について伺い、『ロータリーの友』の編集長さんからいろいろお話をいただきましたし、その後のフォーラムも大変感動的でした。それから、ただ今、飯舘村の村長さんから、まさに今日本で起こっている大変大きな問題についてその痛みを分かち合わせていただいた、そんな気持ちでありがたい、素晴らしい話を伺って感動しました。私、以前、もう二十数

年前にインドにお寺の関係で仏跡の巡拝に上がったことがあります。そのとき、ラージキルという町で数人の子どもたちとふれあう機会がありました。それはホテルのすぐそばにある施設でありましたけれども、子どもたちが寄ってまいりましてですね、私のところを指さしてなんだか言っているんですが、なんせ言語がわかりませんので何を言っているのか通訳に聞きましたら「その胸に付いているバッジは知っている」というわけです。それはなんのバッジなのかということを言っているそうなんですけれども、「そのバッジの人たちが自分たちの教科書を、言葉を教えてくれる学校をつくってくれた人たちだ」とこう言うんです。そして「私たちに、ワクチンを与えてくれた立派な方たちなんだ」と、こういうような意味でありました。そんな素晴らしいんだなあということをそのとき初めて、ロータリアンになってまだ日が浅かったんですけれども、ロータリーって世界中でこんなに素晴らしいことをしているんだなということに初めて気付いた瞬間でした。私は小さなときに、やっぱり実家が寺なものですから、字が書けないと話にならないと言われまして、書道の先生のところに字を習いに行きました。その先生の息子さんがおりまして、その子どもさんが、小児まひの子どもさんでした。ところがその子どもさんはですね、全部自分で何でもするんです。足が悪いのに金具が付いているのに自分で靴ひもを結んで、そしてカタカタいわせながらも、私たちよりも上手に走ることができる。習字を習ったんですけど、その子私より2年くらい後輩でしたけど、私より上手な字を書きました。だから体がこんなでも自分より優れている人はいっぱい居る

んだなということを学んだ日でありました。先ほど、菅野町長さんから、聞いたお話の中で、あるお寺の住職が短いタオルをこしらえた。「まけない」と書いているタオルです。私はちょっと発想が変わっておりまして、長いやつを作ろうと思っております。まけるタオルです。それは何ていうんでしょうかね、やっぱり勝ってばかりではいけない時代が来ているような気がします。それはまさに、物から心への時代の転換のような気がします。ロータリークラブの次年度を引き受けるにあたって、もちろんこれからいろいろ相談していかなければなりませんし、来年の1月には国際協議会にも行かなきゃなりませんので、RIの会長さんのテーマも何も聞いておりませんが、私はもう1回、原点に返って、ポール・ハリスがおっしゃっておられる「奉仕と親睦の調和」ということも考えてまいりたいと思います。また、相手に思いやりを持って何かできることがあるのか、ということに、原点に返って考えてみたいと思っております。その一つにはポリオの撲滅も考えて、少しでもお手伝いできればと思います。私はあまりお金も学歴も知恵もありません。お寺にはでっかい鐘があるんですけど、それは換金できませんので、少し足りないと思いますので、どうか、2510地区の多くのメンバーの皆さんのお力を借りながら、1年間お役に立てることを皆さんと一緒にさせていただきたいと思っておりますので、どうぞご理解とご指導をいただけますように、よろしくお願い申し上げます。エレクトのごあいさつにさせていただきたいと思います。次年度、よろしくお願い致します。

ガバナー・ノミニー紹介

国際ロータリー第 2510 地区ガバナー 安孫子 建雄

今ほどは、羽部 大仁エレクト、もうすでに始まったような雰囲気でございますけれども、寛容ということはございますけど、まだ寛容に甘んずることなく頑張っていたきたいと思います。では次に、ノミニーを紹介させていただきます。嵯峨 義輝さんです。岩見沢クラブでございます。お生まれは 1948 年 9 月 23 日、ご職業は測量ということで、サガ測量設計株式会社の代表取締役を務めてらっしゃる。日本大学の商学部を卒業されて、82 年から測量設計会社の社長に就任されて現在に至ったということでございます。岩見沢クラブには 1989 年の 1 月に入会されて、2005 年、6 年に会長をされています。9 年、10 年、私どもと一緒にあります第 3 グループのガバナー

補佐をされていたということでもあります。マルチプル・ポール・ハリス・フェロー 2 回、米山功労マルチプル 4 回ということございます。公職では、岩見沢市の市民憲章推進の委員長、全国市民憲章推進協議会の理事、そして現在委員長ですね。2003 年から 8 年に岩見沢市の教育委員長をされたということでもあります。私ども第 3 グループから、私も今回出させていただきましたけれども、引き続いてまた岩見沢クラブに出るということで、私も全区を意識したいなというふうに思っておりますし、どうか嵯峨さん、エレクトに続いて勉強していただいて、素晴らしいガバナーに育っていくことをご期待申し上げまして、ご紹介させていただきます。よろしくお願いします。



ただ今ご紹介いただきました、岩見沢ロータリークラブ、嵯峨 義輝でございます。どうぞよろしくお願い致します。昨年、私ども岩見沢ロータリークラブ、ガバナー候補者指名委員会ができました。この指名委員会から、岩見沢クラブ3人目のガバナーとして、30年ぶりのガバナーです。立候補せよという推挙をいただきました。ロータリー入会以来、「ロータリーにはノーがない」と教えられ続けてまいりましたが、これだけはノー、ありでしょう、こればかりは大変光栄ではありますけれども、ノーと言ってもいいんではないかと思っておりましたら、尊敬するパスト・ガバナーが強く背中を押し続けてくださったこともありまして、決意致しました。決意は致しましたが、当然のことに、不安でいっぱいでございます。先輩ガバナーたちのように、深い、また、広範なロータリーの知識はありません。先輩ガバナーの方たちのように、地区に出向経験が多数あるわけでもありません。そんなとき、確か今年の7月だったと思いますが、この江別の地で地区の会員増強セミナーがございました。第2750地区、東京、銀座ロータリークラブの市川パスト・ガバナーを講師にお迎えしてのセミナーでございました。市川パスト・ガバナーからの講演を聴き、ま

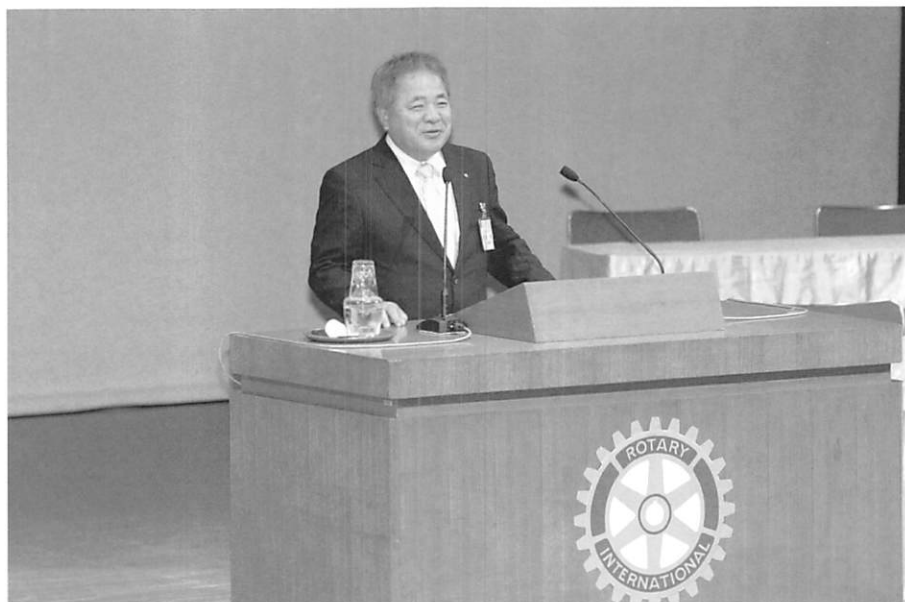
た、お話もさせていただきました。市川パスト・ガバナーのお話でございます。福沢諭吉が、成功して実業界で大活躍をしている教え子たちに言った言葉だそうであります。「できるだけ、会合に出なさい。一回の意義のある会合は、十巻の書を読むのに勝る」、少しでも時間を取って会合に出なさい、と説いたそうであります。意義のある会合、まさにロータリーの会合であります。私も、これから2015年のガバナーを迎えるまで、一生懸命、1回でも多く、ロータリーの会合に出席しながら、皆さんとの交流を深めながら、研さんしてまいりたいと、そんな思いであります。おととい、素晴らしい天気の中で、記念ゴルフ大会に参加させてもらいました。一緒のパートナーの中に、札幌西北クラブの富岡さんというロータリーの大先輩の方がいらっしゃいました。「嵯峨さん、僕ね、岩見沢に素晴らしい、大事な友達が居る」とおっしゃいました。「岩見沢の、この人とは地区のインターアクト委員会で意気投合しながら、そしてそれから、今までずっと深い付き合いが続いている、僕にとってのロータリーの大事な宝の一つなんだよ」というお話をしてくださいました。岩見沢に、このようなモリイさんという会員居るでしょう。おります。素晴らしいなと思いました。私も、これから2015年までのいただいたこの時間を大事にしながら、一生懸命ロータリーで会合に参加し、素晴らしいロータリアンの皆さんとの研さん、交流を通して、研さんを続けてまいり所存であります。また、その中で、1人でも多くの友人といえる、友達といえる、そんな人をつくっていける、そんな思いを胸に、これからガバナーに向けて研さんを続ける所存でございます。どうかロータリアンの皆さん、ご指導、ご協力のほどを心からお願い申し上げまして、ガバナーとしてのあいさつに代えさせていただきます。ありがとうございました。

次期ホストクラブ紹介

国際ロータリー第 2510 地区ガバナー 安孫子 建雄

何度も出てきて申し訳ございません。だんだんとプログラムが終わりのほうに来まして、少しホッとしておりましたけれども、今ほどは羽部大仁エレクト、そして嵯峨 義輝ノミニー、それぞれはもうすでにガバナーになったんじゃないかなと思われるほど素晴らしいごあいさつでございました。私は公式訪問に伺って話しするのは、皆さん「公式訪問大変でしょ」と言われて、「そうですね」とは言うんですけど、実際私の気分としてはとても楽しいです。こんなに多くの人に会えるというのはガバナーしかいないんだぞっていう

ことで、楽しんでやらせていただいています。大丈夫ですから、どんどん。色んな人に会えますので。また、それぞれのクラブさん、引き受けるクラブさん大変だと思いますけれども、ぜひしっかりと支えていただいて、素晴らしい年度が迎えられようをお願いしたいという風に思います。ということでその年度を支える次のホストクラブになりますけれども、札幌幌南ロータリークラブの会長さん、深貝さんからお話をいただきたいと思います。よろしくお願い致します。



皆さんこんにちは。このようなPRの機会を与えていただきまして本当にありがとうございます。うちの大会実行委員長予定者はもう実は帰ったんですが、「お前のこのあいさつで100人は違うからな」というふうに言って帰られましたので、ちょっとプレッシャーを感じておりますが、「泥棒を捕まえて縄を縛う」じゃないですが、うちも会員数もまだずっと苦しくてですね、会員の能力もなかなか備わっていないということですね、昨年から初めて女性会員が入会しましたし、昨年それまで減少だった会員がちょっと上向きになりました。今年は飛躍的に上向きになるかなと思っていますが、なかなかそこは難しいなと思います

が、ただそういう女性とか、若い会員が今一生懸命そういう感動の場面に出会いながら、一つ一つ力を付けていってくれるかなという、実感でおります。きょうの地区大会のように、本当に感動の場面をガバナーにつくってあげられればいいなと思いますが、特に若手に負うところ、大であります。そんな中で、本当に一つ一つ丁寧に大会を運営できたらいいなと思っております。久々の札幌の大会でございますので、先ほどの実行委員長の話ではありませんが、少しでもたくさん皆さんの1名でも多い皆さんのご出席を賜ればありがたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

RI 会長代理所感

国際ロータリー会長代理

高 成大



皆さん、こんにちは。RI 会長の代理の最後の所感です。

尊敬している国際ロータリー第 2510 地区安孫子建雄ガバナーをはじめ、ロータリー指導者の皆さま、私が 10 月 19 日から 20 日まで両日に国際ロータリー第 2510 地区の地区大会にロータリー指導者の皆さまと参加させていただいた感想を申し上げたいと思います。安孫子 建雄ガバナーを中心とし、全地区のロータリアンの皆さまが混然一体となって友情と善意を尽くした人道的な奉仕を提供し、分かち合いを実現する先行的な奉仕プロジェクトやロータリーの核心価値に基づいた多くのロータリアンの活動を高く評価致します。われわれロータリーの究極の目的は人間関係を改善することによって、より良い社会をつくり、平和な世界をつくるために貢献することにあります。親愛なるロータリー指導者の皆さま、調和の精神を持ってロータリーの運動に積極的に参加する上で、会員増強に拍車をかけてください。特に青年層と女性層の会員増強に力を入れていただきたいと思います。そして、国際ロータリー RI の目標でもある、2015 年まで全世界ロータリアン 130 万人を実現させましょう。また、ロータリー財団

への寄付を通して無寄付クラブを解消するとともに、ポリオの撲滅まで、人道主義的な奉仕精神を発揮してください。今回の地区大会で全会員の熱情と奉仕プロジェクト事業の成功の結果から、安孫子建雄ガバナーの素晴らしいリーダーシップに拍手をお贈り致します。今回の地区大会にご参加なさった全てのロータリアンの皆さまに感謝を申し上げます。国際ロータリー第 2510 地区のますますのご発展と皆さま方のご健勝をお祈り申し上げます。最後になりますが、会長代理のエイドをしていただきました、パスト・ガバナー、塚原 房樹様に変にお世話になりました。この場をお借りし、心より深く御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。





いよいよもう最後でございますけれども、今ほどは、高 成大 RI 会長代理から丁寧な言葉をいただきまして大変感謝致しております。高 成大さん、ソンドさんて言い方申し訳ございません、この大会が始まる少し前に、お電話いただきまして、携帯でお電話いただきました。その言葉が日本語で話されたということで、「あ、これはもう安心だな」ということがございまして、先ほど人と人との関係というものは、私でございますけれども、それはもうそのときから実感しておりました。早くお会いしたいなという気持ちで今回を迎えたわ

けでございます。さらに昨日、おととい新千歳に着かれましたけれども、これ以上の晴天はないといういいお天気の日にお迎えできたということ、大変うれしく思っております。北海道、こんな素晴らしいところか、こんなに空気のおいしい所かという話をさせていただいて、われわれ、住んでる者としてはちょっと恥ずかしい気持ちになりましたけれども、それほど安心をさせていただいたということで、本当に感謝申し上げます。高 成大 RI 会長代理、本当にありがとうございます。

閉会の言葉

大会実行副委員長 佐々木 光治



皆さま、長時間にわたり、大変お疲れさまでした。おかげさまで、1600名余りの多くの方々のご参加とご協力をいただき、今大会の

全ての行事を終了することができました。心より感謝を申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

RI 会長代理歓迎晩餐会

於 シェラトンホテル札幌

3F パレスボールルーム

司会：宮田 圭子



17:00 登録受付開始

17:40 開 会

国歌斉唱

ご来賓の紹介

ガバナー挨拶

ガバナー 安孫子建雄

RI 会長代理ご挨拶

RI 会長代理 高 成 大

第 3700 地区総裁ご挨拶

総裁 李 華 榮

乾 杯

ガバナー・エレクト 羽部 大仁

19:30 閉会挨拶

大会実行委員長 郷 和平

19:35 ロータリーソング「手に手つないで」

ソングリーダー 増山 柳

19:40 閉 会

大会実行副委員長 佐々木光治













記念懇親会

於 江別市民体育館

司会：宮地 聖子

17:00 開 会

開会の挨拶 ガバナー 安孫子建雄

17:05 ゴルフ・囲碁表彰

ガバナー 安孫子建雄

17:10 乾 杯

ガバナー・エレクト 羽部 大仁

17:30 アトラクション

18:20 閉会の挨拶

ガバナー・ノミネー 嵯峨 義輝

ロータリーソング「手に手つないで」

ソングリーダー 増山 柳











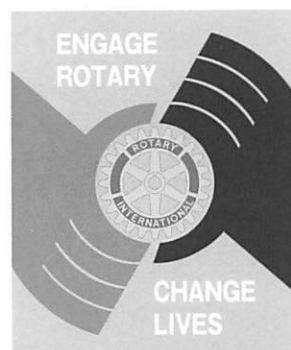












ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

記録・資料編

物故会員ご尊名



羽幌（第1グループ）

い はら しげ たか
伊 原 重 孝

平成 25 年 4 月 24 日ご逝去（享年 77 歳）



滝川（第2グループ）

やなぎ よし ふみ
柳 義 文

平成 25 年 3 月 29 日ご逝去（享年 78 歳）



滝川（第2グループ）

と い やす たか
戸 井 康 堯

平成 25 年 4 月 22 日ご逝去（享年 82 歳）



美唄（第3グループ）

ふた かわ ひで き
二 川 秀 樹

平成 24 年 8 月 10 日ご逝去（享年 72 歳）



美唄（第3グループ）

ばん どう ひろし
坂 東 浩

平成 24 年 12 月 24 日ご逝去（享年 83 歳）



札幌はなます（第4グループ）

と べ たか
戸部アナマリア

平成 25 年 7 月 29 日ご逝去（享年 76 歳）



札幌幌南（第5グループ）

たか ぎ みつ お
鷹 木 光 雄

平成 24 年 12 月 2 日ご逝去（享年 93 歳）



札幌幌南（第5グループ）

と なみ ひさし
砺 波 寿

平成 25 年 6 月 16 日ご逝去（享年 77 歳）



札幌セントラル（第5グループ）

いし がき ひろ み
石 垣 博 美

平成 25 年 7 月 6 日ご逝去（享年 91 歳）



新札幌（第5グループ）

はた よし のぶ
秦 温 信

平成 25 年 3 月 25 日ご逝去（享年 73 歳）



えりも（第8グループ）

さ とう とし ひろ
佐 藤 寿 弘

平成 25 年 6 月 3 日ご逝去（享年 60 歳）



浦河（第8グループ）

おく だ むね お
奥 田 宗 夫

平成 25 年 4 月 18 日ご逝去（享年 63 歳）



室蘭（第9グループ）

にし やま やす あき
西 山 泰 明

平成 24 年 12 月 12 日ご逝去（享年 61 歳）



室蘭北（第9グループ）

く ほ たか し
久 保 隆 司

平成 24 年 9 月 24 日ご逝去（享年 84 歳）



苫小牧東（第12グループ）

わた なべ よし じ
渡 部 好 治

平成 25 年 6 月 25 日ご逝去（享年 89 歳）

表彰

■ R I 会長賞 (2012-2013 年度)

千歳セントラル R C
白老 R C

■ R I 小規模クラブ会員増加の表彰(2012-2013 年度)

・会員数 10 ～ 14 名のクラブ：札幌大通公園 R C
・会員数 15 ～ 19 名のクラブ：長沼 R C

■ ロータリー財団表彰 (2012-2013 年度)

- ・財団一人当り寄付額優秀クラブ

第 1 位	札幌北 R C	\$ 338.87
第 2 位	函館セントラル R C	\$ 257.14
第 3 位	苫小牧北 R C	\$ 252.59
- ・財団寄付優秀クラブ

第 1 位	札幌 R C	\$ 24,550.00
第 2 位	函館 R C	\$ 18,240.00
第 3 位	札幌東 R C	\$ 12,827.76
- ・メジャードナー表彰

篠島 弘 (滝川 R C)
佐藤 紀征 (岩見沢 R C)
石田 誠 (札幌手稲 R C)
羽部 大仁 (札幌幌南 R C)

■ 地区会員増強優秀賞 (2012-2013 年度)

- | | | |
|-------|------------|------|
| 第 1 位 | 松前 R C | 133% |
| 第 2 位 | 函館五稜郭 R C | 121% |
| 第 3 位 | 七飯 R C | 120% |
| 第 3 位 | 江差 R C | 120% |
| 第 4 位 | 札幌大通公園 R C | 117% |
| 第 5 位 | 長万部 R C | 113% |

■ ガバナー特別表彰

- ・個人表彰
深川 R C：伊藤 崇会員
「ふかがわプレーパーク開催 10 周年」を迎えるにあたり開設までの永きにわたり私財を投じ多額の寄付をされ開催時には運営委員会をまとめられ医療を通じて職業奉仕をなされるなど多大な貢献をされたことに対して

■ (公財)ロータリー米山記念奨学会表彰(2012-2013 年度)

- ・達成クラブ表彰

滝川 R C	(4 千万円達成)
札幌真駒内 R C	(3 千万円達成)
深川 R C	(2 千万円達成)
小樽南 R C	(2 千万円達成)
- ・メジャードナー表彰

松本 脩三 (札幌 R C)
竹原 巖 (札幌北 R C)
森谷 明弘 (札幌西 R C)
中原 孝 (札幌真駒内 R C)
クリステンセン・トーキル (札幌南 R C)
福田 武男 (千歳 R C)
太刀川善一 (函館 R C)
上野 一義 (七飯 R C)
小泉護太郎 (函館セントラル R C)
酒井 正人 (函館五稜郭 R C)
池垣 清信 (函館東 R C)
伊藤 長英 (苫小牧北 R C)

- ・クラブ表彰
札幌手稲 R C 新世代委員会
札幌手稲ロータリークラブ奨学会を設置後 25 年間継続して返済義務のない奨学金を給付され永きにわたり青少年に役立つ奉仕活動をされてきたことに対して

- 函館 R C 新世代奉仕委員会
次世代育成プログラムとして市内の大学とタイアップし就職活動前の生徒を対象に「出前授業」を行い青少年に役立つ奉仕活動を行ったことに対して

- 岩見沢東 R C
岩見沢東ロータリークラブ杯争奪サッカー大会へ放射能汚染に苦しむ相馬・南相馬の少年サッカーチームを招待し市内の少年サッカーチームとの交流試合・交流会を開催され積極的な支援活動を実施したことに対して

- 札幌北 R C
「福島キッズ in さっぽろ雪まつり」と称し原発被害に苦しむ福島県双葉郡川内村の小中学生及び父兄を札幌に招き市内の小中学生と一緒に雪中運動会やキャンドル作成体験等を実施し積極的な支援活動をされたことに対して

- 函館東 R C
継続して市内の野球場整備及び植樹奉仕を行いローターアクトクラブへの積極的な支援活動をされたことに対して

■ R I 会員増強推進計画の表彰(2012-2013 年度)

函館五稜郭 R C
苫小牧 R C

■ R I 会員増強・拡大表彰 (2012-2013 年度)

札幌 R C
札幌大通公園 R C
江差 R C

永年出席 100% 会員表彰 (敬称略)

40年

クラブ名	氏名	クラブ名	氏名
札幌東	野村 昭光	伊達	山崎 満晴
札幌南	加藤 正雄	函館亀田	坪山 元彦
蘭越	新見 健		

35年

クラブ名	氏名	クラブ名	氏名
赤平	藤永 貞治	札幌東	塚原 房樹
	岡田 知治	札幌南	関 正明
滝川	鈴木 忠男	札幌南	島津 宏興
札幌	松村 亮一	倶知安	小野塚 清一
	山中 善夫	小樽	飴谷 佳一
札幌西北	森本 正夫	千歳	武石 忠俊
札幌手稲	針谷 龍宜	函館北	中川 洲平
	久末 満三		

30年

クラブ名	氏名	クラブ名	氏名
砂川	武田 昭二	札幌南	須田 義雄
美唄	宝崎 錠二	倶知安	皆川 岩保
岩見沢	森居 清	余市	林 正秀
	佐藤 紀征	千歳	長澤 邦雄
栗沢	佐野 邦夫		中村 堅次
札幌	中田 輝夫		佐々木 金治郎
	佐々木 正丞	伊達	小野寺 隆之
	高薄 浩志	室蘭北	及川 力
札幌西	北島 清	苫小牧	板谷 剛

25年

クラブ名	氏名	クラブ名	氏名
深川	児島 俊一	札幌東	小田切 房之
留萌	二ノ宮 清信		白石 正勝
赤平	赤川 清介	札幌南	針谷 毅
	布施 洋一		森 正志
	横岡 潤一	札幌南	奥村 建夫
砂川	杉本 勉	札幌南	川井 一男
美唄	吉村 誠治	新札幌	五十嵐 勤
岩見沢	三嶋 顕	倶知安	関 幸吉
札幌	田子 敬夫	小樽	高橋 哲夫
	久保田 俊昭	千歳	福田 武男
	大原 芳夫		日向 祥一
札幌北	前田 一人	伊達	平口 泰敏
札幌モーニング	藤森 敏昭	室蘭東	芝垣 美男
札幌西北	三上 直彦	登別	高橋 恒夫
札幌手稲	福尾 俊太郎		

20年

クラブ名	氏名	クラブ名	氏名
深川	成田 雅敏	留萌	中出 敏彦
羽幌	加藤 隆一	赤平	石野 茂
留萌	原田 功	砂川	山田 信一
	森 俊二	美唄	北野 保孝

岩見沢	鎌田 誠三	小樽南	荒田 一正
	北市 宗輝	千歳北	岡崎 芳明
札幌	義輝 公彦	函館北	中山 和朗
	山本 雅人	函館五稜郭	村井 乙
札幌北	陣上 圭策		太宰 昌文
札幌東	武田 巖		光銭 裕二
	竹原 公夫	函館北	田嶋 英人
札幌南	池田 志	苫小牧東	増山 正
小樽	小林 昌		児玉 和雄
	谷内 馨一		松下 昌平

15年

クラブ名	氏名	クラブ名	氏名
深川	北村 幸雄	札幌清田	中島 永昭
	成田 昭彦		三戸 和昭
	大西 祥太		高橋 宣充
留萌	西谷 英樹	札幌真駒内	齋藤 康嗣
赤平	大坂 晃		佐々木 則秋
滝川	西村 恒則	札幌南	三浦 義昌
江別	服部 涉		平 昌夫
	増山 柳	新札幌	梅田 鉄夫
	野村 義次	倶知安	旭 克久
	大森 和子		中井 直樹
岩見沢	宍戸 昭行	小樽南	松倉 弘章
栗沢	山崎 康隆	小樽南	岡島 孝治
栗山	岩田 隆	恵庭内	三浦 信之
	太田 ヒロ子	静内達別	不動 茂生
札幌	関 吉一郎	函館七飯	栗本 正史
	小山 司	函館五稜郭	勝木 俊彰
札幌東	中山 茂	函館北	山内 一男
	朝倉 正人	苫小牧東	朝倉 純一
	布施 光章		石橋 輝夫
札幌清田	田中 新一		松原 實
	宮村 素子		

10年

クラブ名	氏名	クラブ名	氏名
芦別	板垣 勝	新札幌	村上 寛
	滝 勝美	倶知安	細田 ヤ
砂川	松原 重俊		尾形 智磨
	山田 賢司		岡本 晃治
滝川	三品 優次		斎藤 知之
江別	藤原 敏雄		滝口 直久
	笹浪 哲雄	小樽南	泉 侑
岩見沢	兼行 四男	小樽南	白石 亨一
	中路 幹雄	恵庭内	中川 富雄
岩見沢東	坂口 堅一		中島 滋
札幌	加藤 欽也	室蘭東	山口 俊秀
札幌北	出村 佳子		板東 晃
札幌西北	中嶋 成実		松永 英樹
札幌東	犬嶋 清幸	函館亀田	井上 司
	佐々木 泰雄	長万部	井上 正範
札幌南	高木 宏壽	函館五稜郭	中川 正光
	橋本 耕二	函館東北	宮崎 あけみ
	本間 良二	函館北	渡部 二康

ロータリー財団表彰 (敬称略)

メジャードナー

クラブ名	氏 名	クラブ名	氏 名
滝川	篠島 弘 ¹⁹⁴¹	札幌手稲	石田 誠 ¹⁹⁴¹
岩見沢	佐藤 紀征 ¹⁹⁴¹	札幌幌南	羽部 大仁 ¹⁹⁴¹

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

クラブ名	氏 名	クラブ名	氏 名
深川	澁谷 賢治 (1)	札幌	庭山 早苗 (1)
羽幌	寺岡 義人 (1)	札幌北	阿部 弘 (2)
留萌	茶谷 恵一 (2)		出村知佳子 (1)
留萌	佐野 俊一 (1)		深浦 信吾 (2)
留萌	田中 公一 (2)		栗原 清昭 (1)
留萌	山本 譲二 (1)		草間 孝廣 (2)
赤平	石野 茂 (1)		斉藤 昌一 (1)
赤平	沼前 治孝 (1)		佐藤 宏 (1)
砂川	滝 勝美 (1)		澁田 勲 (1)
砂川	土山 久男 (2)		竹原 巖 (5)
砂川	畠山 豊 (1)		若狭 吉範 (2)
砂川	北谷 好文 (2)	札幌モーニング	田上 建夫 (1)
砂川	松原 重俊 (1)	札幌西	伏木 忠了 (4)
砂川	水島 孝嗣 (2)		中村 嘉人 (1)
砂川	西川 博久 (1)		大金 武夫 (2)
砂川	高橋 俊美 (1)		大越 克巳 (1)
砂川	山下 眞史 (1)		佐藤 裕一 (1)
滝川	深澤 和範 (1)		高下 泰三 (5)
滝川	向井 辰巳 (2)	札幌西北	西岡 憲廣 (4)
滝川	中垣 陽一 (7)		大島 利一 (8)
滝川	鈴木 英光 (1)	札幌東	広瀬 清 (8)
美唄	海老名 元 (1)		星野 恭亮 (3)
美唄	中川 廣吉 (1)		笠原 昇一 (2)
美唄	大竹 繁夫 (1)		川幡 宏一 (1)
美唄	吉村 誠治 (3)		小田切 房之 (4)
美唄	奥野 一嘉 (2)		鈴木 俊幸 (4)
美唄	吉田 欣司 (3)		田中 新一 (2)
江別	服部 渉 (1)	札幌幌南	田澤 泰明 (2)
江別	増山 柳 (2)		柳 孝一 (1)
岩見沢	倉増 秀昭 (5)	札幌真駒内	丸山 淳士 (3)
岩見沢	竹内 守 (5)		中山 裕視 (5)
岩見沢	山本 公彦 (2)		齋藤 康嗣 (2)
栗沢	本田 正一 (3)	札幌南	片山 英男 (2)
栗沢	井形 昇 (3)		小林 昌志 (4)
栗沢	氏家 則之 (1)		松家 治道 (1)
当別	福井 昭和 (2)		須田 義雄 (2)
当別	前田 啓詞 (2)		武部 實 (2)
当別	泉亭 俊徳 (2)	新札幌	有田 京史 (2)
当別	高谷 茂 (1)		石田 茂夫 (2)

クラブ名	氏 名	クラブ名	氏 名
新札幌	嘉屋 輝夫 (2)	静内	杉田 清 (1)
新札幌	清水 昭子 (3)	静内	武岡 大佑 (2)
小樽	笠間 茂 (2)	静内	渡辺 利晴 (1)
小樽南	吹越 範義 (2)	静内	山田 一孝 (2)
小樽南	岡崎 芳明 (3)	静内	山口 俊秀 (2)
蘭越	斎田 義孝 (4)	室蘭北	神島 章 (2)
蘭越	本間 義明 (1)	室蘭北	西尾 静枝 (1)
蘭越	堀川 強太郎 (1)	室蘭北	附田 博 (2)
蘭越	金子 一憲 (1)	函館	太宰 昌文 (2)
蘭越	新見 健 (1)	函館	藤井 方雄 (4)
蘭越	佐藤 義久 (2)	函館	石田 勉 (3)
蘭越	志比川 武 (4)	函館	岩塚 晃一 (1)
蘭越	白石 勇 (1)	函館	勝木 俊彰 (5)
余市	高橋 一郎 (1)	函館	小泉 康祐 (2)
余市	谷川 淑郎 (5)	函館	久保 俊幸 (3)
余市	五十嵐 宏 (1)	函館	国立 金助 (8)
余市	村上 倫行 (1)	函館	森川 順治 (3)
余市	村田 研一 (1)	函館	柴田 繁男 (3)
千歳セントラル	瀧澤 順久 (4)	函館亀田	富田 恒一 (3)
千歳セントラル	多賀 勲 (1)	函館亀田	秋田 正悦 (2)
千歳セントラル	田口 廣 (1)	函館亀田	稲葉 直房 (1)
えりも内	山科 幸一 (1)	函館亀田	豊田 千春 (1)
えりも内	嵐 忠一 (1)	函館亀田	出町 英二 (1)
えりも内	田頭 喜秀 (1)	函館亀田	向中野 貴夫 (1)
えりも内	不動 信之 (2)	函館亀田	櫻田 伸也 (1)
えりも内	福嶋 尚人 (1)	函館亀田	渡辺 英明 (1)
えりも内	樋口 和美 (1)	七飯	上野 一義 (3)
えりも内	細川 好弘 (3)	函館セントラル	伊藤 道雄 (7)
えりも内	石垣 勝英 (1)	函館セントラル	小泉 護太郎 (7)
えりも内	河田 勝男 (1)	函館セントラル	坂下 賢二 (4)
えりも内	北村 和也 (1)	函館東	黒島 一生 (1)
えりも内	近藤 忠義 (1)	函館東	宮崎 裕之 (2)
えりも内	増本 裕治 (1)	白老	河合 浩司 (1)
えりも内	長浜 和也 (2)	白老	鈴木 琢磨 (1)
えりも内	中林 幹夫 (1)	白老	谷島 純平 (1)
えりも内	中山 弘三郎 (2)	苫小牧北	紺野 誠一 (8)
えりも内	西村 和夫 (1)		
えりも内	佐藤 雅裕 (2)		
えりも内	澁井 郁夫 (1)		

ポール・ハリス・フェロー

クラブ名	氏 名	クラブ名	氏 名
深川	荒谷 壽八	倶知安	石本 達雄
羽幌	斎藤 彰		門田美知恵
留萌	森 俊二	小樽銭函	松倉 正広
赤平	尾崎 清富		櫻場 義春
	高江智和理		上村百合子
砂川	鉦井 直作	余市	吉原 伸
	曾我 悦工	千歳	今野 良紀
江別	久富 文子		高橋 都
岩見沢	赤山 登	長沼	佐々木 信雄
	中村 興治		田嶋 俊美
	山口 順市	様似	中村 茂
栗山	今井 正信		田中 正之
札幌	福山 眞司	静内	不動 新作
札幌北	出村知佳子		河原 秀幸
	藤城 英明		草野 喜昭
	栗原 清昭		真下 明
	桶川 昌幸		松本 道明
	斉藤 昌一		宮崎 幸夫
	佐々木 麻利		阪井 貞男
	佐々木 仕勲	浦伊室	富田 輝次
	澁田 久昭	河達蘭	河原 文博
札幌西	嶋田 邦彦		鴨井 清貴
	石谷 繁美		松岡 健一
	岡本 禎久	室蘭東	東海林 哲郎
札幌東	徳田 隆夫		小熊 達也
	木村 富士男	室蘭北	奈良 泰哉
	佐藤 史朗	森 飯	松田 博文
札幌真駒内	山口 和正	七飯	吉田 博
札幌南	金坂 泰文	鷗セン	佐藤 幸雄
	網野 尚夫	江差	山口 治浩
	星野 良次	函館	赤石 恵美
	松原 俊一	館 斗	佐藤 真一
	田辺 大樹	北 老	谷内 晃男
新札幌	田尾 美和子	白 牧	外崎 留美子
	佐々木 充広	苫小	柳瀬

ベネファクター

クラブ名	氏 名	クラブ名	氏 名
滝川	柳 清二		

(公財)ロータリー米山記念奨学会表彰 (敬称略)

米山功労者メジャードナー

クラブ名	氏 名	クラブ名	氏 名
札幌	松本 脩三 (10)	函館	太刀川善一 (16)
札幌北	竹原 巖 (13)	七飯	上野 一義 (16)
札幌西	森谷 明弘 (10)	函館セントラル	小泉護太郎 (10)
札幌真駒内	中原 孝 (14)	函館五稜郭	酒井 正人 (15)
札幌南	クステンセントキル (12)	函館東	池垣 信一 (25)
千歳	福田 武男 (14)	苫小牧北	伊藤 長英 (43)

米山功労者マルチプル

クラブ名	氏 名	クラブ名	氏 名
深川	伊藤 崇 (8)	札幌西	石丸修太郎 (4)
	村中 俊二 (3)	札幌西北	大野 義雄 (4)
	成田 昭彦 (5)	札幌手稲	久末 満三 (5)
	大西 祥太 (2)		山地 庸夫 (8)
	寺岡 義人 (2)	札幌東	鈴木 俊幸 (3)
砂川	北谷 好文 (4)		田中 新一 (2)
	水島 孝嗣 (4)		吉山 八郎 (8)
	西川 博久 (4)	札幌南	師尾 純一 (4)
	瓜 俊雄 (3)		佐藤源五郎 (8)
滝川	川原 弘嗣 (2)		徳中 征之 (2)
	中垣 陽一 (9)	新札幌	有田 京史 (3)
	野田 富夫 (2)		清水 昭子 (4)
	篠島 弘 (6)	小樽南	吹越 範義 (4)
美唄	阿部 稔 (5)		岡崎 芳明 (2)
	宝崎 錠二 (4)	余市	谷川 淑郎 (8)
	井門 英明 (8)	千歳	瀧澤 順久 (3)
江別	安孫子建雄 (4)	長沼	天野 敦子 (3)
江別西	石黒 良平 (5)		青木 雄一 (2)
岩見沢	三嶋 顕 (5)		池内 昌之 (2)
	山本 公彦 (4)	えりも	山科 幸一 (4)
栗沢	井形 昇 (6)	函館	國立 金助 (3)
札幌北	阿部 弘 (2)	函館セントラル	伊藤 道雄 (8)
札幌モーニング	平田 博史 (5)	苫小牧東	水元 修治 (4)
	近藤 良一 (8)	苫小牧北	紺野 誠一 (4)

米山功労者

クラブ名	氏 名	クラブ名	氏 名
砂川	鉾井 直作	札幌南	本間 良二
	堀江 和美		伊藤 清
	近藤 俊継		佐藤 嘉一
	松原 重俊		田尾 大樹
	曾我 悦工		富樫 昭夫
滝川	鈴木 英光		山本 勤
	柳 清二	新札幌	武田 充広
岩見沢	中村 興治	小樽	秦 健一郎
栗沢	吉野 顕隆		笠間 茂
札幌	庭山 早苗		富樫 栄
	指川 司	小樽南	本間 彰
札幌はまなす	丹羽 肇		加藤 正幸
	高橋 輝夫		坪井 純司
札幌北	片岡 是充	静内	山口 俊秀
	前田 一人	伊達	鈴木 啓一
札幌西北	渡邊 葉子	室蘭	飯尾 哲也
札幌手稲	宇野 義昭		佐藤 一彦
札幌清田	三澤 龍子		東海林哲郎
	宮村 素子	室蘭東	小熊 達也
	村本 忠	函館五稜郭	石坂 仁
札幌南	網野 泰文	苫小牧東	古宇田 涉
	荒井 竜一		

米山功労クラブ

クラブ名	回 数	クラブ名	回 数
砂川	(14)	札幌東	(40)
滝川	(29)	札幌南	(19)
美唄	(10)	札幌南	(38)
江別	(9)	小樽	(11)
札幌	(30)	室蘭	(8)
札幌モーニング	(16)	函館五稜郭	(20)
札幌手稲	(24)	苫小牧北	(18)

米山功労クラブ

クラブ名	記念寄付額
札幌モーニング	10 万円 (25 周年)

ご来賓ご芳名 (敬称略)

ご来賓

北海道知事 高橋はるみ

江別市長 三好 昇

ロータリーご来賓

国際ロータリー会長代理 高 成大
(第 3650 地区パストガバナー ソウル漢陽 RC)

RI 会長代理通訳 高 允熙
(ソウル漢陽 RC)

ご招待者 (地区外)

第 2500 地区ガバナー 葭本 正治
(釧路ベイ RC)

第 2500 地区ガバナー令夫人 葭本 公恵

代理第 2500 地区アクティングガバナー 櫻田 正弘
(北見 RC)

第 2500 地区アクティングガバナー令夫人 櫻田 恒子

第 2520 地区ガバナー 松良 千廣
(仙台南 RC)

第 2800 地区ガバナー 新関彌一郎
(天童東 RC)

第 2800 地区ガバナー令夫人 新関 恵子

第 2530 地区パストガバナー 佐原 元
(喜多方 RC)

ロータリー公共イメージ
コーディネーター(第 2 ゾーン) 二神 典子
(東京築地 RC)

第 2530 地区新世代委員長 安藤 元二
(郡山西 RC)

【韓国第 3700 地区】

総 裁	李 華 榮 (大邱江北 RC)
總裁令夫人	金 承 儀
前 総 裁	都 載 旭 (大邱大徳 RC)
總裁補佐役	尹 正 大 (大邱常録 RC)
總裁補佐役	金 栽 湜 (大邱 Hanmaeum RC)
總裁補佐役	朴 在 泰 (大邱成西 RC)
總裁補佐役	朴 英 順 (大邱茂林 RC)
總裁補佐役	文 東 基 (大邱東山 RC)
總裁補佐役	金 鍾 淑 (大邱水蓮 RC)
事 務 総 長	金 宰 賢 (大邱江北 RC)
地 區 財 務	朴 日 根 (大邱江北 RC)
事 務 次 長	金 鎬 洛 (大邱江北 RC)
事 務 次 長	李 昌 根 (大邱半月 RC)
事 務 次 長	金 燦 姫 (大邱銀河水 RC)
事 務 次 長	金 孝 淑 (大邱銀河水 RC)
事 務 次 長	許 文 碩 (大邱江北 RC)
地區大會委員長	郭 鍾 雨 (大邱江北 RC)
登攀大會委員長	權 外 嚮 (大邱水蓮 RC)
水資源 coordinator	張 粉 男 (大邱 Cosmos RC)
會 長	李 喜 璟 (大邱 Cosmos RC)
會 長	白 京 愛 (大邱水蓮 RC)
會 員	南 相 補 (大邱江北 RC)

地区大会特別参加者名簿 (敬称略)

札幌INNERホイルクラブ

赤 泊 秀 子 青 木 恵里子 荒 岡 未知代
遠 藤 友美恵 福 山 美保子 早 崎 昭 子
犬 嶋 由香里 柏 原 克 子 菊 地 美矢子
木 村 美知子 児 玉 礼 子 松 宮 邦 子
奥 貫 せ つ 白 石 智 子 須 田 明 美
鈴 木 康 子 田 尾 美江子 八 木 友 美
山 光 せい子

インターアクトクラブ (顧問教官も含む)

・岩見沢緑陵高等学校 IAC (岩見沢)
新 井 優 也 西 浦 あゆみ 小山内 涼 音
笹 木 沙 鈴 高 田 美沙樹
・希望学園札幌第一高等学校 IAC (札幌)
村 上 真 由 中 村 日 南 上 野 由加里
・札幌龍谷学園高等学校 IAC (札幌モーニング)
齋 藤 梓 坂 本 彩 華 佐々木 ななみ
佐 竹 祐 希 菅 原 春 佳 田 中 春 花
田 中 桃 花
・札幌山の手高等学校 IAC (札幌西北)
金 川 由 依 木 村 一 花 倉 持 護
高 橋 勇 人
・静内高等学校 IAC (静内)
久 保 美菜恵 本 間 彩 加 堀 内 茉 耶
中 山 早 紀 漆 原 稜 太
・大谷室蘭高等学校 IAC (室蘭東)
畠 山 裕 太 石 堂 拓 実 伊 藤 慎 二
永 谷 裕 太 米 村 康 汰 吉 野 汐 梨
・顧問教師
辻 本 卓 (岩見沢緑陵高等学校)
原 飛 鳥 (希望学園札幌第一高等学校)
吉 本 拓 郎 (札幌龍谷学園高等学校)
西 田 恵 理 (札幌山の手高等学校)
柴 田 雅 裕 (静内高等学校)
福 岡 ひろみ (大谷室蘭高等学校)

ローターアクトクラブ

・赤平 RAC (赤平)
佐 藤 聖 花 関 戸 祥 子 森 浩 一
高 橋 めぐみ
・札幌幌南 RAC (札幌幌南)
川 端 さなえ 中 島 陽 子
・千歳 RAC (千歳)
北 村 秀 美 西 村 英 晃 汪 可 憐
吉 岡 毅
・室蘭北 RAC (室蘭北)
有 賀 佑 樹 野 村 麻 衣 大 柴 美 幸

交換留学生

・札幌モーニング オリビア・ニオシ
・札幌 東 ジェイミー・エリザベス・モナハン
・札幌大通公園 ジョシュア・バンマネン
・新札幌 タイラー・ラトクリフ
・恵庭 ジョシュア・ラグウェル
・由 仁 土 屋 裕 太

ROTEX

・恵庭 永 友 綾 乃
・新札幌 佐 藤 祐 里

米山奨学生

・江 別 マナエワ・カリーナ
・岩見沢 吳 悠真
・札幌 胡 琪
・札幌西 王 晨宇
・札幌西北 朴 懿
・札幌東 楊 勉耕
・札幌幌南 王 洪偉
・札幌南 金 鐘淑
・新札幌 徐 吉良
・小樽 王 力勇
・小樽南 季 アルム
・室 蘭 サイダトゥル・イヴァ

RCC

・苫小牧北 池 田 亜紀子 山 岸 康 弘
垂 石 郁 子

R財団学友

小野寺 亜 紀 (新札幌 RC)
佐 藤 知香子 (札幌はまなす RC)

地区大会 記念囲碁大会

本年度地区大会の記念事業の先陣を切って9月15日(日)記念囲碁大会が日本棋院北海道本部を会場として開催されました。

開会式は玉造ガバナー補佐のご挨拶で始まり、郷地区大会実行委員長、金田ホストクラブ会長の各挨拶があり戦いは開始されました。

地区から参集した精鋭は16名。今年度も団体戦方式で4名1チームの計4チームの総当たり戦で優勝を競い合いました。

その結果、3回戦を終えて勝ち点・総勝ち数が同数となった為、各チームの代表者による決勝戦が行われました。Aチームは大村五段が、Bチームは戸井六段が各代表となり、この全勝者同士による対決の結果、

優勝は

大将 佐藤五段 (札幌北 RC)

副将 大村五段 (札幌西 RC)

三将 庭山三段 (札幌 RC)

四将 植田初段 (札幌 RC) を擁する A チームが、又準優勝は

大将 戸井六段 (札幌南 RC)

副将 五十嵐四段 (滝川 RC)

三将 伊澤四段 (岩見沢 RC)

四将 小関一級 (浦河 RC) からなる B チームがその栄誉に輝きました。

個人戦の全勝賞では前記2名の他、伊澤四段、富岡二段の合計4名が見事受賞されました。

代表戦までもつれ込み、緊迫の中にチームが一丸となって応援し戦う今年度の囲碁大会もまたドラマを含んだ良い大会となりました。

激戦の疲れも覚めやらぬまま、懇親会場をKKRホテル札幌に移し、金田敏雄地区大会幹事の司会のもと、最年長(92歳)の山地会員(札幌手稲 RC)から講評を頂き、羽生ガバナーエレクトの乾杯のご発声により懇親会は始まりました、その中で、成績発表、景品授与となり、優勝チームを代表しての弁、初参加の弁、全勝者の弁となごやかに会は続けました。

やがて時間となり、来年の再戦を各人期して午後7時30分、次年度ホストクラブ札幌南 RC の佐々木雅之次年度地区幹事のご挨拶があり、又、札幌南 RC の戸井会員の「来年はおもてなしの気持ちに徹して皆様をお迎えします」の一言に会場は沸き、各ロータリアンは熱い握手の後、それぞれの家路につき大会記念行事の第一弾はこうして無事終了致しました。



第2510地区大会記念囲碁大会成績表

チーム名	選手氏名	1回戦	2回戦	3回戦	団体戦成績 勝ち点	順位	個人戦成績 勝数
A	佐藤 五段 (札幌北 RC) 大村 五段 (札幌西 RC) 庭山 三段 (札幌 RC) 植田 初段 (札幌 RC)	B 1	C 3	D 1	5 7 1	1	全勝
B	戸井 六段 (札幌南 RC) 五十嵐 四段 (滝川 RC) 伊澤 四段 (岩見沢 RC) 小関 一級 (浦河 RC)	A 1	D 3	C 1	5 7 2	2	全勝
C	中村 一級 (札幌 RC) 山田 五段 (札幌 RC) 山崎 四段 (札幌 RC) 山本 四段 (札幌 RC)	D 1	A 3	B 1	1 4 4	3	全勝
D	山田 五段 (札幌 RC) 山崎 四段 (札幌 RC) 山本 四段 (札幌 RC) 山崎 四段 (札幌 RC)	C 3	B 1	A 1	4 6 3	4	全勝





地区大会記念ゴルフ大会

2013～2014年度国際ロータリー第2510地区記念ゴルフ大会は10月18日（金）札幌ゴルフ倶楽部輪厚コースに於いて開催しました。

晴れ上がった絶好のゴルフ日和のなか、地区内から84名の参加をいただき、厳しさの中にも和気あいあいと和やかな雰囲気の中終了する事が出来ました。

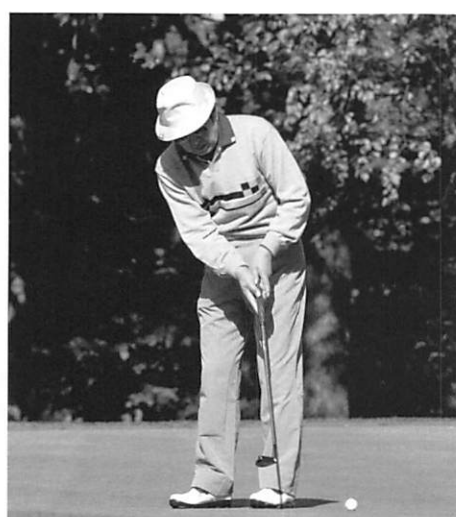
表彰式には安孫子建雄ガバナーにプレゼンターをお願いし、受賞者の皆さまに一言添えての授与となりました。

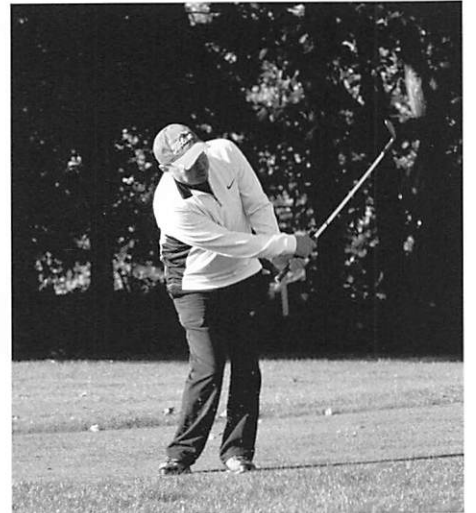
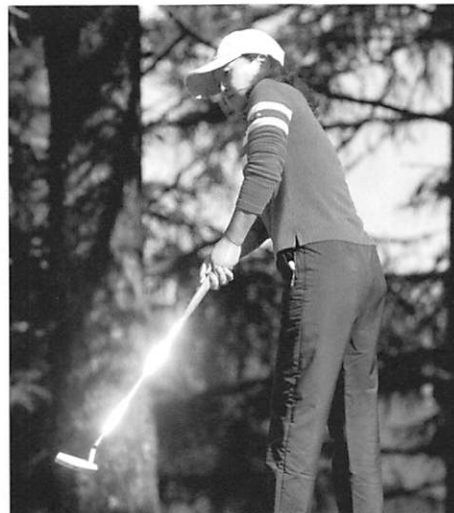
栄えある優勝は恵庭RC 村本満男会員、準優勝は苫小牧北RC 山本雅昭会員が栄誉を獲得されました。

ご参加いただきました会員の皆さま、大会をサポートいただいた札幌ゴルフ倶楽部の皆さまをはじめ関係各位の皆さまのご尽力により、地区大会にふさわしいゴルフ大会が開催出来た事に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。













エクスカーション プログラム

平成25年10月19日(土)

「レンガの街で歴史を訪ねて」

北海道の中心都市札幌に隣接しながらも、のどかな牧場や田園が広がり、又、国内屈指のレンガの生産地であり、現在でも多数のレンガ作りの建物が保存されている江別の町並みを巡りました。

現在、資料館として開放されている旧町村牧場では、北海道の酪農の歴史及び酪農の先駆者町村家の歴史を町村末吉氏に解説頂きながら見学しました。

その後、ファームレストラン「食祭」にて、フレンチトーストとコーヒーで一休みした後、やきものとレンガをテーマとする北海道で唯一の展示館「セラミックアートセンター」にて、北海道のレンガ、やきものをゆっくりご鑑賞頂きました。

12:30 シェラトンホテル出発

13:00 旧町村牧場見学

13:50 ファームレストラン「食祭」でコーヒータイム

14:45 「セラミックアートセンター」見学

16:00 シェラトンホテル到着 本大会に合流

スパウス プログラム

平成25年10月20日(日)

「発見！江別の歴史と文化」

短い時間ではありましたが、100年以上の歴史を持ち、北海道遺産にも登録された独特の雰囲気を持つ江別のレンガ作りの建物を散策しました。

又、やきものに適した土壌が豊富にあるため、縄文時代から多数出土している「江別式土器」を見学して、頂き、知られざる江別の歴史と文化を味わっていただきました。

その後、フレンチレストラン「シェ・キノ」にて江別の食材を使った昼食をとり、本大会と合流しました。

10:30 江別市民会館出発

10:45 ガラス工芸館、

屯田資料館等錦山神社界隈を散策

12:15 シェ・キノにて昼食

13:30 江別市民会館到着 本大会に合流





新世代フォーラム

平成 25 年 10 月 20 日（日）

当日は天気も回復しての新世代プログラム開催でした。

江別市民会館より大型バス 2 台に分乗し、

15 分程の石狩川を越えた江別市篠津地区の町村牧場へ「バター作り」をして来ました。

町村牧場では二組みに別れて、牧場内見学、そして 2 人 1 組にてバター作りを体験致しました。

短い時間ではありましたが、充実の時間を過ごすことができました。

バタークッキーをお土産に頂き

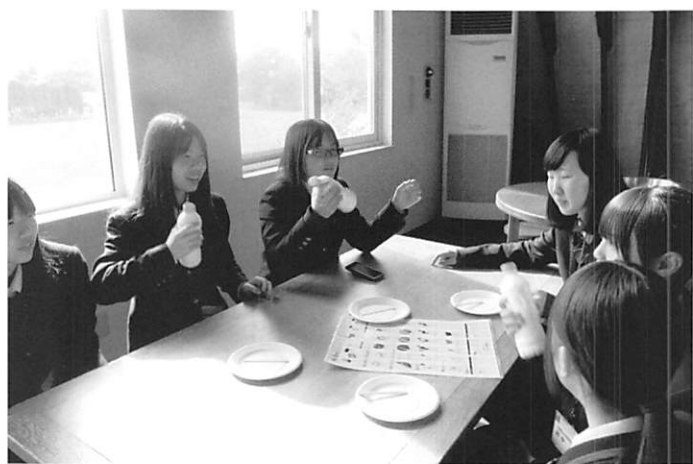
午後より江別市民会館に戻り昼食後、本会議へ合流致しました。













地区大会登録者名簿 (敬称略)

《第1グループ》

深川 RC

長谷川 幸幸	央雄 亮二	板児 宮中	倉島 澤西	克俊 孝智	宏一 司子	伊勢 水成	藤田 上田	崇章 由美
北村 口中	俊雅 弘信	大杉 寺吉	西村 岡澤	道義 義義	祥修 人彦	大成 大高	西橋 村	光真 昭祥
蓑村 成佐	田中 辺							忠丈
渡田 渡								夫

《第2グループ》

赤平 RC

赤坂 垣村	清喜 英盛	介幸 三雄	藤池 和松	永内 泉尾	貞厚 義和	治志 雄俊	布石 菊三	施野 島上	洋好 洗清	一茂 孝二
木宮 仙渡	哲芳	徹夫 己	大高	坂江	智和	晃理	尾竹	崎俣	紀	富孝

羽幌 RC

澤口 橋川	護康 宏昭	茶蝦 芳端	谷名 賀山	恵光 忠美	一修 雄勝	地福 原東	島井 田出	耕俊 正憲	二一 志覚
有出 舟長	治隆 裕理	平石 鎌工	山川 田藤	美知 健喜	子宏 治一	本石 加松	間川 藤橋	憲士 隆卓	一史 一守
堀實 木道	吉勝	森大 神田	橋原 原田	鉄照 昇弘	淳夫 夫生	成大 佐高	坪野 場内	秀俊 秀	剛樹 誠
小斎 忠武	秀英 芳	武梅	田	初	男	和	田		

芦別 RC

荒稲 神櫛	忠寿 一秀	義一 民一	早石 川宗	坂川 本方	勝一 章之	林板 北根	秀正 孝	樹勝 信弘
沼齋 土	修久	二男	小坂	畑田	彦正	大高		敦一

砂川 RC

千岩 小三	葉潤 林塚	清悦 民夫	堀棍 近水	江尾 藤島	美克 繼嗣	石北 松永	家谷 原森	裕好 重直	二文 俊弘
中大 杉竹	村山 本田	弘行 勉一	佐高 内山	野田 田	樹優 明司	大曾 高瓜	橋我 橋下	俊悦 俊真	工美 雄史

妹背牛 RC

小谷 内崎	史公 一	郎介 幸	真佐 梅	鍋藤 澤	義見	剛明 堂	長田 山	田中 崎	宗一	正典 勇
-------	------	------	------	------	----	------	------	------	----	------

滝川 RC

戎五 神近	谷嵐 部藤	侑達 洋正	男明 史孝	澤田 原原	和吉 弘陽	範隆 嗣章	浜石 北松	岸黒 川岡	春安 文高	尋雅 夫志
三西 篠鈴	井島 木山	優勝 勝	次明 弘男	垣山 原山	お二 章訓	一正 市子	中佐 鈴谷	谷藤 木口	佳英 正浩	司朗 光樹
渡柳	邊	忠昌 恭清	宏久 二	山口 山	康恵 和	幸	渡山	刃本	康	文

留萌 RC

阿古 宮中	部野 尾出	洋晃 幸敏	一洋 助彦	藤徳 川谷	光幸 幹勝	一治 雄美	福長 森二	士川 宮嶋	幸哲 俊清	子哉 二信
西齋 鈴田	藤木 中馬	英清 康公	樹藏 伸一	野田 城本	恭正 美善	治人 潔雪	ノ大 清高	水橋 本部	孝理 哲英	広隆 佳也
対渡	邊	裕	久	山	讓	輝二	辻渡			次

《第3グループ》

美唄 RC

阿部	稔二	早河	常機	東野	碧
宝崎	二孝	伊原	潤司	岸山	郎
北大	孝夫	円田	保則	毛高	德
武吉	弘治	高山	進	米	二郎
					夫

岩見沢東 RC

藤田	文雄	稲垣	政敏	伊澤	珠樹
松重	彰伸	長坂	正堅	中只	公幸
西竹	敬正	滝	妙一	津元	美智
					代

江別西 RC

古石	允雄	後藤	一昭	支部	英孝
長谷	直紀	服部	良涉	樋口	道紘
石川	史子	黒山	平柳	子谷	明治
丸谷	代一	脇森	治子	崎村	次修
森岡	明夫	戸沢	昭仁	崎木	二一
白高	司明	沢		岡	
上		矢		寺	

栗沢 RC

枝五	栄敏	美樹	林井	義明	本伊	田藤	正ア	一キ
岩十	山義	隆範	金川	英昭	伊金	藤山	和俊	則一
片山	良康	臣德	中鈴	信正	宮西	森島	義則	孝之
中西	忠邦	邦	吉	顯	氏	家		

栗山 RC

土磯	井野	道武	子司	初山	清仁	今川	井本	敏正	明昭
北野	隆良	隆忠	春美	伊小	三雅	川松	本原	正彰	和真
松本	崎	吉一	彦郎	松太	早口	中太	村田	彰信	昇治
檜関				鳥	幸雄	山	崎		

岩見沢 RC

赤山	登一	木田	稔敦	荒木	敏博
遠藤	誠雄	行林	男明	五十	三
鎌田	雄顕	川路	一雄	北松	哉
北澤	彦裕	方峨	昭生	向中	市力
三武	輝一	峨木	司守	大齋	均聡
仲嵯	義誠	々竹	一彦	佐谷	征
齋藤	敬	上山		白山	勲
田子					努
谷口					隆
渡岡					

当別 RC

安藤	正巖	藤澤	一行	福井	昭和	和勉
永上	一司	大泉	徳之	大島	義和	慈雄
六角	龍	下野	浩	竹米		稔
島田						

《第4グループ》

札幌RC

相遠古橋廣石加菊栗松森中中中大先佐鈴高田樋島渡倭	茶藤野本川田藤池林島田井田山鐘本木木橋宮川部辺	俊正重敏雄博欽昌昌千隆稔建雄弘恒隆雅	介義幸明一一也隆弘透博尋博茂陽夫泰匠介志一司卓則	秋榎古橋市柿勝小黒三向中中庭大佐々指高富田富角山横	月本田本川本木澤澤野山島田山原木川堂島中原田中沢	清克和紀健友耕松一輝早正英伸道庸龍	二英吉毅明純昭司博一秀成夫苗雅丞司理也哉薫彦彦朗	土福濱橋飯菅川久保前宮長中中野齋佐諏田武田富植山吉	井山野尾塚野野田田井村田村藤木部島部中岡田中川	隆眞忠志弘彰芳俊和昌伸雅泰光雅政正隆幸良俊英善哲	夫司生良衛一水昭男利樹臣弘孝之子彦宏紀治介隆夫也
--------------------------	-------------------------	--------------------	--------------------------	---------------------------	--------------------------	-------------------	--------------------------	---------------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------

札幌モーニングRC

天広井加真大酒田谷宇吉	海瀬野我鍋泉井上崎治田	洋康誠建英正義	一進智稔利清一夫一光一	藤堀石加宮大坂武露若	森川川藤部西本田木松	敏孝信方光正勝	昭明博祥幸啓彦司茂孝	平池鄭兎中齋佐田内山	田上玉田藤藤中田賀	博公子芳繁貴元燈芳英	史介龍明一之治一史司
-------------	-------------	---------	-------------	------------	------------	---------	------------	------------	-----------	------------	------------

札幌西RC

浅芳石川宮大三高竹上	野賀黒端崎金瓶橋内出	元信直忠義武広清利	広裕文範昭夫幸子徹光	土浜石木森大下高田矢	井松丸村谷越村下中橋	良義修洋明克卓泰昭温	一弘郎子弘已也三次郎	伏長石北武大新武徳矢	木川谷島藤村出田田橋	忠美榮邦東俊禎登美子	了子彦清順生明智久子
------------	------------	-----------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

札幌西北RC

安海小三西桶多遠山	藤野林上岡谷米島本	薛秀直憲芳耕	建均樹彦廣治豊然司	出加久森布大得渡吉	口藤保本川野能邊田	元高正耕義宗業聡	治男隆夫吉雄洋子子	布菊松中小大富八	施田下嶋川島岡木	正徳成眞利公健	樹等良実治一治真
-----------	-----------	--------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	----------	---------	----------

札幌はまなすRC

愛光小山坂徳	須川内田物	一眞繁淳葉	史量樹二子	青丹齊佐	木羽藤藤	貞淳	康肇一一	北野坂玉	川村田造	敏勝文啓	夫隆正子
--------	-------	-------	-------	------	------	----	------	------	------	------	------

札幌北RC

阿藤草中大佐澁渡	部城間村浦木田邊	弘明廣子司仕勲司	相井栗桶齊佐嶋八	沢上原川藤藤田木	美勝清昌昌久政	東一昭幸一章昭明	出小前大佐々佐清	村林田西木藤水	知佳一	子博人勲宏宏薫
----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	---------	-----	---------

札幌手稲RC

福平今松中山	井川井井村地	敬香達克和庸	悟織雄彦雄夫	長谷川末林原野田	川久小中宇吉	薛満正義守	朗三知憲昭宏	肘池小中渡	井田山村辺	博和秀明里代子	行陽昭広子
--------	--------	--------	--------	----------	--------	-------	--------	-------	-------	---------	-------

《第5グループ》

札幌東 RC

阿朝	部倉	誠正	司人	赤坂	泊東	史宗	昭一	荒大	岡田	幹公	史郎
朝出	倉原	恵泰	隆夫	藤堀	井田	英昌	勝資	藤星	田野	公美	郎夫
藤池	田嶋	泰清	夫薫	池岩	田崎	昌光	資司	井管	上野	恭善	亮博
犬笠	原嶋	昇弘	幸一	川木	村谷	修宏	一朗	菊小	地林	善龍	雄章
菊小	池谷	明弘	嗣夫	米水	戸山	一龍	三智	小古	瀬上	康弘	孝紘
熊村	井本	弘禎	夫満	村岡	澤口	康忠	司幸	小田	切谷	房莊	祥之一
岡齊	藤堂	博富	治弘	坂佐	藤根	邦孝	一夫	大酒	井藤	芳勝	利彦
佐関	田幸	勝保	幸久	関清	水塾	晴光	晶哲	佐洪	崎木	邦俊	幸宏
鳥須	内中	幸公	男夫	菅高	橋川	武重	誠徹	白鈴	山中	和誠	人稔
平竹	谷沢	俊新	朗一	滝田	尾原	房一	彦良	高田	廣原	孝雅	稔子
田土	沢原	令英	次行	塚和	田辺	哲史	樹仁	友塚	田木	八	博樹
梅若	橋潤	秀一	明郎	渡山	吉川	和	朗治	八山	中山		郎
矢米	澤佳	潤佳	晃								

札幌清田 RC

阿三	部澤	哲龍	夫子	江三	口浦	洸一	真高	鍋橋	昌宣	市充
玉井	井清			信						

札幌幌南 RC

有羽	田部	均仁	蝦原	名田	大博	典博	深原	貝口	亨洋
針谷	谷利	仁毅	樋伊	坂藤	博修	博英	伊鍛	藤治	き勉
伊金	藤子	道治	加木	藤村	英夫	英彦	川北	上川	美和
川小	下林	光司	小黒	里済	彦学	秀か	近舛	藤田	浩彦
熊増	坂山	峻男	松宮	永澤	や志	之範	松森	根川	史男
美長	田沢	賢純	中大	川作	勝佳	之範	中大	友木	志喜
奥酒	村井	夫正	佐野	野藤	英正	剛明	佐関	藤	淳之
里佐	見藤	樹寛							吉

下高	出橋	道壽	弘耕	高田	木中	宏賢	壽一	高田	橋澤	和泰	彦明
寺土	尾谷	廣	晃享	寺海	嶋野	忠英	雄爾	戸和	井田	敏壬	夫三
山際	際		昭	柳		孝	一				

札幌真駒内 RC

荒丸	川山	悠久	金子	金中	坂川	和雄	正一	丸中	山村	淳孝	士一
中瀧	山谷	恭裕	視治	西高	島野	國園	治子	齋	藤	康	嗣

札幌南 RC

阿朝	部妻	孝邦	司雄	網遠	野藤	泰昭	文一	荒藤	井澤	竜豊	一喜
朝深	澤本	照秀	一男	福橋	山本	恵耕	一郎	福福	山部	耕和	司則
舟畑	中間	俊良	介二	服堀	部元	耕直	毅司	島服	野井	和信	吾夫
本井	樫津	博重	之亘	池伊	田藤	雅達	昭清	星今	城山	尚國	夫雄
稲金	井藤	正毅	博郎	金川	澤井	一義	司男	岩片	崎島	秀英	雄廣
加川	崎浦	毅一	彦努	木小	下林	昌	章志	川北	藤引	秀武	久禎
北熊	本原	良義	次昌	松宮	井坂	博圭	忠之	工櫛	家谷	英秀	道正
松三	浦尾	純幸	一博	村夏	山坂	信莊	誠一	森中	島川	幸一	郎也
師中	道川	幸洋	伸幸	大佐	谷藤	源宏	幸佐	西佐	部藤	成嘉	彦一
西佐	々々	隆義	一雄	鳥多	津部	信克	郎興	佐嶋	津部	昌大	博夫
澤須	田嶋	久俊	嗣一	財田	中田	茂勤	和朗	平武	尾中	征英	實樹
田富	辺樫	昭幸	夫榮	田土	本尾		典典	田德	邊谷		之宙
坪山	上田	見松	雄	山吉			茂弘	渡山			一

札幌大通公園 RC

出岡	口本	修洋	葛霜	西山	功龍	有志	小笠	原秀	肇二
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

札幌セントラル RC

荒又	重雄	小坂	祥司	上野	了
----	----	----	----	----	---

新札幌 RC

有田京史 福井由美子 五十嵐 勤
石田茂 夫 石村黒光 男 嘉屋輝 夫
宮川 明 大上 寛 南 部 美 和
小野川 修 高 橋 佐 木 由 賢
瀬川 俊 山 岡 田 中 彦
梅田 鉄 夫 誠

《第6グループ》

岩内 RC

福嶋尚之 東山洋徹 井戸幸夫
岩城直人 川崎孝栄 野澤幸幸
野澤優美子 吉田栄 柴山平

倶知安 RC

旭克久 古谷眞司 長谷一
細田ヤエ 石本眞由美 石川達
門田美恵 九津見直樹 皆岡柴 雄
長尾靖春 中藤知 柴 保
脇山潤 斎之

小樽 RC

遠藤友紀雄 濱田健嗣 花和嘉貴
半田善行人 橋本秀齊 秦川健一郎
平松正哲 堀岡兵士 市伊藤英保 明
稲垣哲光 井久保尚 笠間隆 夫
上郷由光 金田尚 熊倉隆 茂
河辺澤口二昭 小川修一 西條文 樹
熊野田二昭 佐々木一 佐藤勝忠 弘
坂佐藤一彦 佐洪正男 島義良 雪
柴下繁太郎 杉俊太 田宏 次
谷吉克 渡康宏 山敏

小樽南 RC

阿部誠 安部新市 荒木和廣
荒吹田一 浅村公正 東本慶
廣越一 福島正 濱本 進
加藤部 廣瀬保 岩浦 苗
見延藤 紺谷茂 松吉 紀
新倉倉延 宮川伸 本一 夫
佐田藤吉 崎芳二 大朗 敏
鈴木吹 永村達 佐白 衛
山吹啓 村弘 上 一之

小樽銭函 RC

千葉悦子 江刺家俊輔 藤川正二
藤田政昭 濱田倉 飯岡長 豊
外井公 松倉多 川武 生
奥山 櫻上 村 子 夫
津川保

蘭越 RC

馬場充 堀川強太郎 小沢修
佐藤孝博 佐田一 比川武
白石 山 晴

余市 RC

藤田功 林秀 林和 秀
土方久 本行 本達 朗
板倉俊 多宏 嘉中 雄
木村美 向基 中高 克
清義裕 俊 谷哲 淑
高安 司 吉 純 郎
亘

《第7グループ》

千歳 RC

浅利美恵子 栗津義幸 藤井雅一
藤川俊一 藤本山 敏 廣 男
被川勝文 羽山昇 蔵 法
五十嵐桂一 羽村靜 男 紀
加藤輝明 今良 法 一
喜多康倫 村研 次
村上雲州 中堅 松
南西信博 大佐 昭
齊藤博秀 瀧 久

《第8グループ》

千歳セントラル RC

人誠二悟廣 忠眞 坂下本根口 彦岩尾関田 一美之治子 涼博敏 百合子 芝口坂井原 羽入松坂菅 三夫人司敏也 有章昌博松伸 生井木藤木田 羽今高齊白武

恵庭 RC

利久等治雄治栄代也則信 正了孝利邦健和竜一義 中口野浦上里原川藤田手 弘川久三村中小大佐竹横 一則幸和凡雄郎一樹毅治 源俊公利富哲健弦君 瀬川村田野川川田木澤 早石木前水中能大櫻鈴敦 洋子利三則男英光生男子 有司嘉勝健光満宗優茂伊正 山中池下内本口場藤木内 秋弘菊日宮村野大斉鈴館

北広島 RC

治美冽人 寛芳正 藤木藤 加元斎泰 敏眞一水 正恵五 塚崎谷川 石宮大瀬 吾明子久記 信宏圭和功 場森尾井 馬小名櫻橘

長沼 RC

之雄彰秀 大勝繁 川角水木 古政清高 一重雄美子 雄徳信俊つね子 木田木嶋野 青池佐々田辻 子一典子博 敦博良慧義 野輪月水橋 天花望清高

由仁 RC

道好間本 雄道 光宏 谷山 蜂高 人 篤直 藤坂 後大

えりも RC

司勇彦 英竹照 法地中 傳菊田 雄一勝 美俊 富俊 紫谷藤 築鍵佐 廣賞雄一 義幸一幸 木間川科 荒岩西山

三石 RC

司力繼 村田博 幌志山 子重洋 恵一一 本村木 榎中八 史男信行 弘鐵信 山口永田 出口松富山

様似 RC

二仁武 鉄 藤藤田 加工島 介仁茂仁 洋康 澤嶋村本 泉小中山 昭也昭子 博達俊洋 原風久高

静内 RC

昌雄男満貢正豊志 恒澄孝康央 田沢暮毛田森岡口 在藤日市河大富山 喜作人子美郎夫明道 雅新尚知好弘三郁義 川動嶋川野山井田屋 荒不福細蚊中澁山四ツ 也之信弘英滋裕喜秀 晋信義好勝雅祐俊 山動田川垣島藤屋口 秋不福細石中佐土山

浦河 RC

明幸男栄義 正佳吉又和 藤保好田田 伊久三蘇梅 一雄男毅樹 淳孝秀尚秀 本関桁藤馬 榎小櫛佐対 典孝康生豊政 靖尚一道滋 山田藤針田川 秋木工大武吉

《第9グループ》

伊達 RC

阿部三紀夫 浅水勝男 福井研吉
早瀬芳宏 平口泰敏 伊藤本金藏
河原者文 栗橋義徳 栗新井田茂生
武野寺賢 中大 嶋清康 齋藤木孝
小野隆一 菅唯 俊勝 鈴辻 一
佐藤敏 渡良克
塚田正興

室蘭 RC

濱中實 平林滋明 細川聡子
飯尾哲也 鴨井清貴 北西山一郎
村井敦司 中海 哲政 彦博
武田亮晃 吉澤 彦

室蘭東 RC

濱口知由 井上幸 石田実
小熊達也 眞大柄優 松永英樹
奈々良泰哉 佐々木勝男 佐々木 彰夫
芝木垣美男 矢萩富士雄

室蘭北 RC

赤崎幸三 荒谷信幸 土井伸
廣瀬榮 本間康裕 加賀田一文
加藤島静 村井康乙 松田幸子
松尾藤 齊藤俊一 中田孔
西藤 斎藤泰成 斎藤順
斉山 菅正あ 笹谷豊
澤原 菅明 菅米 義
菅太田悦子 眞人

登別 RC

遠藤秀雄 遠藤征子 石田佳久
石井憲一 高田明人 増村チエ
仲川弘誓 中高昇一 中上 博
鈴木高士 八木橋俊 輔

洞爺湖 RC

秋田昌昭 黒川正美

《第10グループ》

函館 RC

原加賀一彰 石橋多喜雄 岩塚晃一
加藤藤聰徳 上篠博英 金久俊
加工藤敏太郎 小黒崎夫 松宮保
森本秀雄 黒崎雄 宮崎俊
中川順雄 松森子 室崎浩
額村壯一 岡崎一 成大 三
坂賀康修 富渡 柴 茂
玉田正兼 吾一 百 宣

函館亀田 RC

秋田正悦 井上 司 金澤浩幸
川口孝徳 川北樹美 木戸浦静男
帰山村雄 工大鶴 朗淳 藤 健
岡田 雄峰 見 淳 二猛

森 RC

出町英二 平山博 石山野嘉治
岩本豊太郎 小長井朗 水名倉建
向宣男 長瀬賢 名渡 英 豊
島野祐司 鈴木 正 幸 明
吉田好

七飯 RC

石川強 小滝達也 工藤藤悟
大森省吾 大竹幸次郎 佐田幸雄
菅原昭 上野一 吉 和 隆

長万部 RC

赤塚章芳 賀聖哉 井上正範
村松和弘 角 健

函館セントラル RC

浅野翼 中 原 勝 司 林 信 平
葛西功 小 泉 護 太 鍋 谷 操 子
坂下賢二 宇 美 智 智

《第 11 グループ》

江差 RC

赤石	智恵美	藤谷	直久	半澤	慎太郎
前川	敏雄	小笠原	隆	隅田	秀男
田畑	裕士				

函館五稜郭 RC

朝倉	純一	千廣	業田	光友	夫博	濱星	中井	公英	也人
平林	秀樹	廣柏	田木	秀秀	之勝	河村	井川	英隆	人平
石坂	裕二	棟岡	方井	恒正	勝人	中大	日向	正豊	光吉
光能	戸西	酒山	井本	直樹	樹	酒山	井本	信達	子郎
大佐	藤								

函館東 RC

長谷川	浩之	林十	完治	堀池	英信	二一
五十嵐	稔憲	五石	弘久	國松	大真	輔茂
今井	義一	松森	元中	佐吉	真一	昇
黒宮	裕美					
佐藤						

函館北 RC

弗田	和則	石橋	輝夫	増田	定秀	雄樹
増山	正平	松南	修哲	森吉	田	勤
中川						

北斗 RC

千秋	栄也	増田	幸力	久也	森濱	重信
佐藤	達龍	竹塚	弘	悦	内	修
渡邊						

《第 12 グループ》

白老 RC

浅利	健尚	自昭	小西	秀真	延樹	小澤	康政	一数
清水	貴	志	田			田		
手塚								

苫小牧 RC

阿部	喜朗	青地	洋一	一美	青山	一恵	夫滋
橋本	洋孝	瀬谷	博	剛英	五嵐	陽三	昇三
井嶋	基浩	河田	智昭	一司	棍川	幸隆	均
前田	伸仲	川田	恵泰	清生	今野	俊義	実
小保方	隆	藤	健		成大	雅	克
大佐々	留美子	渡			櫻田		樹
寺柳							

苫小牧東 RC

青木	山村	晴京	美子	藤児	森玉	善和	子雄	平松	田井	幸一	彦秀
水奥	元野	修義	治雄	長齊	岡藤	英英	幸明	小佐	幡藤	直浩	樹正
関内	海	千代	子義	菅吉	野田	嘉正	一範	鈴	木		之

苫小牧北 RC

阿朝	部倉	瑞秀	寛昌	阿廣	部島	雅新	人蕉	赤伊	川藤	勉雄
菅野	秀樹	俊	昌俊	松本	本原	真康	一子	中鈴	山木	孝傑
岡田	勇治	治一		関高	橋田	健雅	則一	鈴谷	岡部	司繁
橘友	廣田	新		山	本		昭	矢		

江別 RC (ホストクラブ)

安藤	孫平	建敏	雄尚	安郷	孫久	泰和	子平	麻林	田井	信重	二樹
藤原	賀川	俊直	樹雄	久岩	富倉	文雅	明實	堀金	井田	一隆	豪夫
細田	田敏	政裕	德之	柏久	倉保	善泰	英雄	松柏	尾山	敏	史則
金菊	田上	野浪	嘉雄	中佐	川伯	和宮	昭彦	西佐	岡木	光忠	学治
最奥	野木	健孝	治司	石高	堂野	了喜	正志	々々	館田	泰政	義一
笹鈴	田田	代誠	司誠	富八	永島	政壯	博之	新武	田島	ゆかり	勝り
武山	吉							津八			

地区資金収支決算書 (2012-2013 年度)

■一般地区資金

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	実 績 額	差 額	摘 要
1. 前期繰越金	16,297,202	18,958,107	△ 2,660,905	
2. 一般地区資金 上期 @ 5,400	14,472,000	13,824,000	648,000	2,560 名
同 上 下期 @ 5,400	14,688,000	14,196,600	491,400	2,629 名
3. R I 助成金	2,400,000	2,018,400	381,600	
4. ガバナー月信購読料	2,520,000	2,199,750	320,250	上期 630 冊、下期 627 冊
5. 雑収入	50,000	6,189	43,811	受取利息
収入合計	50,427,202	51,203,046	△ 775,844	

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	実 績 額	差 額	摘 要
A. 地区大会				
1. 地区表彰費	450,000	450,000	0	
2. ガバナー記念品費	100,000	100,000	0	
Aの部 小 計	550,000	550,000	0	
B. 助成金				
1. 地区協議会	700,000	700,000	0	
2. 都市連合会 (I M)	360,000	360,000	0	
3. 会長エレクト研修セミナー (P E T S)	350,000	350,000	0	
4. 地区指導者育成セミナー	90,000	90,000	0	
5. 地区チーム研修セミナー	300,000	300,000	0	
Bの部 小 計	1,800,000	1,800,000	0	
C. 負担金				
1. ガバナー会	540,000	518,900	21,100	@ 100 * 5,189 名
〃 (平和奨学生支援金)	40,800	39,435	1,365	@ 15 * 2,629 名
〃 (RIJYEC 維持協力金)	268,000	256,000	12,000	@ 100 * 2,560 名
2. 日本ロータリー文庫	810,000	778,350	31,650	@ 150 * 5,189 名
Cの部 小 計	1,658,800	1,592,685	66,115	
D. 会議費				
1. 地区ガバナー指名委員会	100,000	100,000	0	
2. 地区ガバナー諮問委員会	400,000	253,076	146,924	
3. 地区ガバナー補佐会議	800,000	800,000	0	
4. 地区委員長会議	380,000	382,444	△ 2,444	
5. 地区研修リーダー会議	20,000	0	20,000	
6. 地区クラブ奉仕委員会	70,000	18,315	51,685	
7. 地区広報・I C 委員会	130,000	130,000	0	
8. 地区拡大委員会	20,000	0	20,000	
9. 地区会員増強委員会	50,000	42,762	7,238	
10. 地区職業奉仕委員会	100,000	56,790	43,210	
11. 地区社会奉仕委員会	160,000	48,230	111,770	
12. 地区新世代奉仕委員会	80,000	80,000	0	
13. 地区インターアクト委員会	100,000	100,000	0	
14. 地区ローターアクト委員会	100,000	100,000	0	
15. 地区ライラ (RYLA) 委員会	50,000	9,980	40,020	

(単位：円)

科 目	予 算 額	実 績 額	差 額	摘 要
16. 地区青少年交換委員会	330,000	330,000	0	
17. 地区国際奉仕委員会	240,000	240,000	0	
18. 地区ロータリー財団委員会	50,000	50,000	0	
19. 地区奨学委員会	40,000	40,000	0	
20. 地区職業研修委員会	40,000	40,000	0	
21. 地区財団学友委員会	40,000	40,000	0	
22. 地区補助金委員会	20,000	20,000	0	
23. 地区新地区補助金委員会	20,000	0	20,000	
24. 地区財団資金推進委員会	20,000	0	20,000	
25. 地区米山記念奨学委員会	30,000	30,000	0	
26. 地区米山学友委員会	25,000	25,000	0	
27. 地区財務委員会	10,000	10,000	0	
28. 地区 RI 国際大会推進委員会	20,000	0	20,000	
29. 地区意義ある業績賞選考委員会	10,000	0	10,000	
30. その他委員会	130,000	120,000	10,000	大震災救援奉仕 プロジェクト委員会
31. 予備費	10,000	0	10,000	
D の部 小 計	3,595,000	3,066,597	528,403	
E. 旅 費				
1. ガバナー会	130,000	227,780	△ 97,780	3 回開催
2. ガバナー・元・次期ガバナー会	250,000	208,920	41,080	東京開催
3. ロータリー研究会	700,000	824,200	△ 124,200	東京開催
4. ガバナーエレクト国際協議会	700,000	700,000	0	
5. 全国ガバナーエレクト会議	120,000	252,500	△ 132,500	2 回開催 (東京)
6. 全国地区連絡会議	350,000	471,080	△ 121,080	全国青少年交換委員長会議、 財団地域セミナー、 全国 RYLA 研究会
7. その他会議	200,000	271,900	△ 71,900	
E の部 小 計	2,450,000	2,956,380	△ 506,380	
F. ガバナー事務所費	12,900,000	9,727,676	3,172,324	
G. ガバナーエレクト事務所費	4,800,000	4,800,000	0	
H. ガバナー月信発行費	3,500,000	3,469,235	30,765	13 回発行
I. ガバナー公式訪問費	1,300,000	1,300,000	0	
J. 地区文献資料室費	1,050,000	748,105	301,895	
K. 地区 I C 活動費	500,000	500,000	0	
L. 総予備費	48,000	0	48,000	
M. 臨時支出金	-	768,000	△ 768,000	@ 300 * 2,560 名
支 出 合 計	34,151,800	31,278,678	2,873,122	
次 期 繰 越 金	16,275,402	19,924,368	△ 3,648,966	
総 計	50,427,202	51,203,046	△ 775,844	

■特別地区資金

収入の部 (単位：円)

科 目	予 算 額	実 績 額	差 額	摘 要
1. 前期繰越金	13,766,610	13,435,908	330,702	
2. 特別地区資金 上期 @ 3,150	8,442,000	8,064,000	378,000	2,560 名
同 上 下期 @ 3,150	8,568,000	8,281,350	286,650	2,629 名
3. 雑収入	0	0	0	
収 入 合 計	30,776,610	29,781,258	995,352	

支出の部 (単位：円)

科 目	予 算 額	実 績 額	差 額	摘 要
A. 負担金				
1. 地区大会	4,900,500	4,362,130	538,370	
2. 地区協議会	2,945,700	2,945,700	0	
Aの部 小 計	7,846,200	7,307,830	538,370	
B. 事業費				
1. 地区インターアクト事業費	961,200	961,200	0	
2. 地区ローターアクト事業費	1,325,700	1,325,700	0	
3. 地区新世代奉仕事業費	291,600	291,600	0	
4. 地区青少年交換事業費	3,132,000	3,132,000	0	
5. 地区社会奉仕事業費	91,800	0	91,800	
6. 地区国際奉仕事業費	1,001,700	1,001,700	0	
7. 地区財団奨学生事業費	467,100	467,100	0	
8. 地区職業研修事業費	351,000	111,090	239,910	
9. 地区財団学友事業費	121,500	121,500	0	
10. 世界平和奨学金事業費	27,000	0	27,000	
11. 国際友好事業費	253,800	253,800	0	
12. ライラ（RYLA）事業費	702,000	702,000	0	
13. その他の事業費	81,000	50,000	31,000	
14. 予備費	356,400	0	356,400	
Bの部 小 計	9,163,800	8,417,690	746,110	
C. 規定審議会代議員費	450,000	450,000	0	
D. 臨時支出金	-	-	-	
支 出 合 計	17,460,000	16,175,520	1,284,480	
次期繰越金	13,316,610	13,605,738	△ 289,128	
総 計	30,776,610	29,781,258	995,352	

第 2510 地区資金次期繰越金

科 目	前期繰越金	本年度収入	収入合計	本年度支出計	次期繰越金
一 般 地 区 資 金	18,958,107	32,244,939	51,203,046	31,278,678	19,924,368
特 別 地 区 資 金	13,435,908	16,345,350	29,781,258	16,175,520	13,605,738
第 2510 地区資金合計	32,394,015	48,590,289	80,984,304	47,454,198	33,530,106

ガバナー事務所費の内訳細目

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	2011-2012 実績額	2012-2013 決算額	総合計	差 額
2011 - 2012 年度一般地区資金	4,800,000	3,461,388		3,461,388	1,338,612
2012 - 2013 年度一般地区資金	12,900,000		11,066,288	11,066,288	1,833,712
合 計	17,700,000	3,461,388	11,066,288	14,527,676	3,172,324

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	2011-2012 実績額	2012-2013 決算額	総合計	差 額
1. 給与手当	4,700,000	450,000	3,639,012	4,089,012	610,988
2. 家賃・光熱費	3,000,000	450,000	1,854,021	2,304,021	695,979
3. リース料	800,000	0	615,175	615,175	184,825
4. 事務用品費	350,000	70,406	170,797	241,203	108,797
5. 印刷費	900,000	163,275	663,600	826,875	73,125
6. 登録料など負担金	350,000	114,000	186,000	300,000	50,000
7. 会議費	650,000	496,906	110,015	606,921	43,079
8. 通信費	500,000	81,380	385,553	466,933	33,067
9. 旅費交通費	1,300,000	608,900	599,346	1,208,246	91,754
10. 渉外費	500,000	111,150	245,000	356,150	143,850
11. 資料費	600,000	302,093	190,670	492,763	107,237
12. 備品費	200,000	0	0	0	200,000
13. 地区要覧費	600,000	0	600,000	600,000	0
14. ガバナー補佐事務費	1,200,000	0	1,200,000	1,200,000	0
15. 雑費	1,500,000	613,278	607,099	1,220,377	279,623
16. 予備費	550,000	0	0	0	550,000
合 計	17,700,000	3,461,388	11,066,288	14,527,676	3,172,324

第1. 決算書注記

1. 地区資金クラブ負担金の収受にかかる地区内会員数は次の通りです。

(1) 会員数 上期 2,560 名 下期 2,629 名

(2) 会員1人当たり負担額

上期 一般地区資金 5,400 円

特別地区資金 3,150 円

下期 一般地区資金 5,400 円

特別地区資金 3,150 円

2. ガバナー月信購読料 年間購読料@ 3,500 円

(13 回発行、有料購読者数上期 630 冊、下期 627 冊)

3. 収入の部及び支出の部において予算額を上回った科目には△を付記しました。

第2. 資金区分別概要

1. 一般地区資金

(1) 収入の部

①地区内会員数の大幅減少(予算比：上期 120 名、下期 91 名)のため、会員負担金収入は予算に対して下記の通り減収となりました。

上 期 648,000 円

下 期 491,400 円 合計 1,139,400 円

②ガバナー月信購読者の減少により 320,250 円減収の 2,199,750 円となりました。

③前期繰越金は予算額より 2,660,905 円多い 18,958,107 円となりました。

(2) 支出の部

- ①会議費その他委員会支出分は東日本大震災発生後に設立した地区大震災救援奉仕プロジェクト委員会に支出しました。
- ②旅費について、ガバナー会は3回開催されたため支出超過しました。ロータリー研究会は当初予定していた出席者より増えたため支出超過しました。全国ガバナーエレクト会議は東京で開催されましたが前後に開催されたセミナー出席のために支出超過しました。
旅費その他会議支出分については、ロータリー世界平和フォーラム広島、日韓親善会議、ロータリー・コーディネーター・セミナーに支出しました。
- ④ガバナー事務所費の内訳細目には、ガバナーエレクト事務所費を含む総額について計上しました。
ガバナーエレクト事務所費は予算より1,338,612円支出を削減することができ、またガバナー事務所費も前年度ガバナー事務所を継続して使用することによって、予算対比1,833,712円の節減となりました。
- ⑤臨時支出金について、ロータリー世界平和フォーラム広島を開催するに当り一人300円の負担金の要請がありましたが、予算確定後のため臨時支出金として768,000円を支出しました。

上記の結果、収入合計金額51,203,046円から支出合計金額31,278,678円を差引いた19,924,368円を次年度に繰越しました。

2. 特別地区資金

(1) 収入の部

①会員数の減少により特別地区資金も下記の通り大幅減収となりました。

上 期 378,000 円

下 期 286,650 円 合計 664,650 円

- ②前期繰越金は予算額より330,702円少ない13,435,908円となりました。

(2) 支出の部

- ①その他の事業費は地区米山学友委員会に50,000円を支出しました。
- ②2013年規定審議会が開催されましたので、規定審議会代議員費450,000円を支出しました。

上記の結果、収入合計金額29,781,258円から支出合計金額16,175,520円を差引いた13,605,738円を次年度に繰越しました。

地区資金収支報告

別紙の通り地区資金収支決算書を提出します。

2013年9月20日

国際ロータリー第2510地区2012-2013年度

地区代表幹事 中 山 弘三郎

国際ロータリー第2510地区2012-2013年度

地区財務委員長 蚊 野 好 美

地区資金収支決算書監査報告

別紙の地区資金収支決算書について監査の結果、適正であると認めます。

2013年9月20日

国際ロータリー第2510地区2011-2012年度

ガバナー 熊 澤 隆 樹

地区年次大会収支決算書 (2012-2013 年度)

■一般地区資金

収入の部

(単位: 円)

科 目	予 算 額	実 績 額	摘 要
登 録 料	22,025,000	22,341,000	
	19,040,000	19,096,000	会 員 1,364 名 × 14,000 円
	160,000	490,000	家 族 49 名 × 10,000 円
	1,900,000	1,870,000	歓迎晩餐会 187 名 × 10,000 円
	100,000	130,000	開 基 大 会 26 名 × 5,000 円
	500,000	360,000	ゴルフ大会 72 名 × 5,000 円
	325,000	395,000	青 少 年 79 名 × 5,000 円
地区分担金	6,242,500	6,242,500	
		640,000	一般地区資金
		4,900,500	特別地区資金
		702,000	RYLA 事業費
雑 収 入	50,000	101,256	
		60,000	御祝儀
		40,000	出店料
		1,256	利息
収入合計	28,317,500	28,684,756	

支出の部

(単位: 円)

科 目	予 算 額	実 績 額	摘 要
総務企画部門	3,000,000	3,099,644	
		395,255	会議費、案内状
		1,309,933	事務諸経費、通信費等
		396,641	印刷費
		997,815	会場備品レンタル料
式典部門	2,500,000	2,337,235	
		584,330	表彰授与品費及感謝状、記念品
		315,000	R I 会長代理記念品
		100,000	直前ガバナー記念品
		1,079,650	記念講演、講師(地区指導者育成セミナー)
		258,255	韓国招待者記念品等
登録部門	800,000	790,460	
		349,705	名札・コサージュ等
		204,555	旅費、宿泊費
		68,200	名札印刷等
		168,000	移動用バス
会場部門	6,500,000	6,421,077	
		500,000	公民館使用料
		350,000	多目的ホール使用料
		2,762,554	会場設営費
		951,825	看板、美術品
		1,856,698	照明、音響、映像等
行事部門 食事・接待	11,000,000	10,996,257	
		3,064,451	歓迎晩餐会
		5,126,750	懇親会料理、飲物等
		292,074	会長・幹事会、フォーラム経費
		470,000	アトラクション
		540,742	食事代
		1,502,240	昼食代
並行プログラム RYLA	1,000,000	995,290	
		66,930	RYLA バッジ、旗、会議費等
		224,240	RYLA 食事費等
		161,230	RYLA セミナー関係
		40,900	会場使用料(青年の家・新冠レ・コード館)
		106,400	RYLA 賞状
		130,840	RYLA 記録誌(地区 RYLA 委員会送金)
		183,750	RYLA・スバウス移動用バス
		36,000	ミニトマト狩り
		45,000	食事代
ゴルフ・開基部門 ゴルフ 開基	1,000,000	967,143	
		658,410	ゴルフ大会
		308,733	開基大会
広報・記録部門	2,300,000	2,480,930	
		84,115	パンフレット
		346,500	プログラム他
		1,900,315	地区大会記録誌
		150,000	写真編集・データー文書化・編集等
緊急救護部門	80,000	58,350	
		30,000	看護師
		28,350	救急キッズ一式
支出小計	28,180,000	28,146,386	
予備費	320,000	0	
合 計	28,500,000	28,146,386	
収入合計		支出合計	残 高
収支合計	28,684,756	28,146,386	538,370

※ 差引残高は特別地区資金に戻し入れ

地区大会運営委員会

《プログラム委員会》

委員長	ガバナー	安孫子	建	雄	(江別RC)
委員		郷	和	平	(江別RC)

《信任状委員会》

委員長	パスト・ガバナー	熊	澤	隆	樹	(小樽RC)
委員	パスト・ガバナー	塚	原	房	樹	(札幌東RC)
委員		支	部	英	孝	(江別西RC)

《選挙管理委員会》

委員長	パスト・ガバナー	渡	邊	恭	久	(滝川RC)
委員	パスト・ガバナー	酒	井	正	人	(函館五稜郭RC)
委員		金	田	敏	雄	(江別RC)

《決議委員会》

委員長	パスト・ガバナー	佐々木	正丞	(札幌RC)
委員	パスト・ガバナー	丸山	淳士	(札幌真駒内RC)
委員		八島	壯之	(江別RC)

《登録委員会》

委員長	パスト・ガバナー	細	川	好	弘	(静内RC)
委員	パスト・ガバナー	遠	藤	秀	雄	(登別RC)
委員		山	田		誠	(江別RC)

《出席者推進委員会》

委員長	ガバナー・エレクト	羽	部	大	仁	(札幌幌南RC)
委員	ガバナー補佐 第1グループ	茶	谷	大	一	(羽幌RC)
	〳 第2グループ	竹	田	俊	一	(砂川RC)
	〳 第3グループ	大	竹	繁	夫	(美唄RC)
	〳 第4グループ	玉	造	啓	子	(札幌はまなすRC)
	〳 第5グループ	小田切	房		之	(札幌東RC)
	〳 第6グループ	舩	井		齊	(小樽銭函RC)
	〳 第7グループ	大	川	健	一	(恵庭RC)
	〳 第8グループ	武	田		豊	(浦河RC)
	〳 第9グループ	石	井	憲	一	(登別RC)
	〳 第10グループ	石	山	嘉	治	(森RC)
	〳 第11グループ	今	井	義	憲	(函館東RC)
	〳 第12グループ	児	玉	和	雄	(苫小牧東RC)

地区大会実行委員会

《大会役員》

大会顧問	岩 田 雅 明・高 野 喜世志・佐 伯 宮 彦
ガバナー	安孫子 建 雄
大会実行委員長	郷 和 平
大会実行副委員長	佐々木 光 治
大会幹事	金 田 敏 雄
大会副幹事	西 岡 学
大会会計	津 田 政 勝
大会 SAA	林 重 樹
大会副 SAA	武 田 孝代司
ホストクラブ会長	金 田 一 夫
地区代表幹事	八 島 壯 之

《実行委員会》

総務・救護・登録・記録・広報・接待委員会

委員長	山 田 誠
副委員長	津 田 政 勝
委 員	岩 田 雅 明・高 野 喜世志・佐 伯 宮 彦 松 山 敏 則・平 賀 俊 尚・麻 田 信 二

式典・会場・交通・宿泊委員会

委員長	菊 田 政 徳
副委員長	武 田 泰 一
委 員	藤 原 敏 雄・柏 尾 隆 史・笹 浪 哲 雄 中 川 和 昭・細 川 直 樹・富 永 政 博

懇親・食事・ゴルフ・囲碁委員会

委員長	林 重 樹
副委員長	武 田 孝代司
委 員	吉 田 欣 司・柏 倉 善 實・奥 野 一 嘉 久 保 泰 雄・鈴 木 健 治

新世代委員会

委員長	佐々木 光 治
副委員長	堀 井 豪
委 員	石 堂 了 正・新 館 忠 義

スパウズ委員会

委員長	久 富 文 子
副委員長	西 岡 学 之
委 員	最 上 裕 之

編集後記

先輩諸兄が、長い歴史の中で築き上げた江別ロータリークラブが、平成 24 年に創立 50 周年を迎え、さらに今年度、安孫子ガバナーを輩出することが出来ました。

クラブ会員全員が一丸となり、コ・ホストクラブであります、江別西ロータリークラブの皆様方による絶大なるご協力のもと、2013 - 14 年度地区大会が無事盛会裡に終えることが出来ました事、本誌をお借り致しまして深くお礼申し上げます。

早速記録誌の製作に取り掛かるべく、企画・資料収集・編集などの準備に入りましたが、少人数のクラブゆえ各作業もなかなか順調に進まず、4 月中の発刊を目指していましたが、5 月になってしまいました事を深くお詫び申し上げます。

本誌製作にあたり、過去における各年度の記録誌を参考に企画いたしました。第 1 日目の会長幹事会、地区指導者育成セミナー、フォーラム、R I 会長代理晩餐会、第 2 日目の本会議、記念講演、記念懇親会など膨大な写真・文章等のデータをいかに纏めるかに多数の時間を費やしました。

しかし、誌面には限りがあり、数千枚の写真が掲載されませんでした。基調講演、フォーラム、記念講演などの文章データにつきましては、ほぼ全文掲載する事が出来ました。

なお、校正などは数名での確認作業を行ってはいますが、文章中の聞き取り違いなどによる誤り、誤字、脱字等がありましたら、ロータリーの友情に免じてお許し下さい。

本誌が、第 2510 地区の長い歴史の中での 1 ページとして後世に残る事を願って編集後記とさせていただきます。

地区大会記録誌編集委員会

編集責任者 山 田 誠

2013 - 2014 年度 国際ロータリー第 2510 地区 地区大会記録誌

2014 年（平成 26 年）5 月 30 日発行

発 行 江別ロータリークラブ

編 集 2013 ~ 2014 年度 国際ロータリー第 2510 地区 地区大会記録誌委員会

印 刷 有限会社 山田印章印刷

